
JD Edwards EnterpriseOne 受注設 計生産 9.0 製品ガイド

2008 年 12月

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産 9.0 製品ガイド
SKU E1AEO-B1208JPN

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複製、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アSEMBル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993-2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999-2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.
Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.
Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.
This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.
This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).
This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com).
This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com). All rights reserved.
This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

目次

はじめに

この PeopleBook について	xi
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xi
アプリケーションの基礎.....	xi
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xii
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xii
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xii
追加情報.....	xii
表記規則.....	xiv
表記規則.....	xiv
注意事項の表示.....	xv
国、地域、業種の表記.....	xv
通貨コード.....	xvi
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xvi
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xvi

まえがき

JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産 - まえがき.....	xix
JD Edwards EnterpriseOne製品.....	xix
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xix
この製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xx

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産 - はじめに.....	1
JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産の概要.....	1
JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産の統合.....	1
JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産の導入.....	3
グローバル導入の手順.....	3
受注設計生産の導入手順.....	4

第 2 章

受注設計生産について.....	5
受注設計生産システム.....	5

プロジェクトのライフサイクル.....	6
受注設計生産システムの機能.....	7
受注設計生産のテーブル.....	8
第 3 章	
受注設計生産の設定.....	11
受注設計生産の設定について.....	11
ETOプロジェクトのタスク・タイプ.....	11
プロジェクト固有の資材.....	12
ETOの行タイプと行タイプ固定情報.....	12
事前設定.....	12
ETOのUDCの設定.....	13
原価分類および勘定科目分類の設定.....	14
原価分類および勘定科目分類について.....	14
原価分類および勘定科目分類の設定に使用するフォーム.....	15
原価分類(P31P301)の処理オプションの設定.....	15
原価分類の設定.....	15
勘定科目分類の設定.....	16
作業原価の統合の設定.....	17
作業原価の統合について.....	17
事前設定.....	18
作業原価の統合の設定に使用するフォーム.....	19
プロジェクトの勘定科目表の追加.....	19
ETOとMicrosoft Projectの統合.....	20
ETOのエクスポート/インポート処理について.....	20
MS Projectへのエクスポート(R31P404)とMS Projectからのインポート(R31P801)の処理オプションの設定.....	20
Microsoft ProjectへのETOプロジェクト情報のエクスポート.....	21
Microsoft ProjectからのETOプロジェクト情報のインポート.....	22
第 4 章	
プロジェクトの立上げ.....	25
プロジェクトの立上げ処理について.....	25
プロジェクトの作成.....	25
プロジェクトの作成について.....	26
プロジェクトの作成に使用するフォーム.....	27
プロジェクト・ワークベンチ(P31P001)の処理オプションの設定.....	27
プロジェクトの作成.....	31

プロジェクトとプロジェクト・タスクの処理.....	36
プロジェクトについて.....	36
プロジェクト・タスクについて.....	37
プロジェクトとプロジェクト・タスクの処理に使用するフォーム.....	39
プロジェクト・クエリーの処理.....	40
プロジェクトのロック解除.....	40
プロジェクトの処理.....	41
プロジェクト・タスクの追加と改訂.....	42
プロジェクト・タスクのスケジュールリング.....	47
プロジェクト・タスクのスケジュールリングについて.....	48
事前設定.....	54
プロジェクト・タスクのスケジュールリングに使用するフォーム.....	55
タスクの従属関係の定義.....	55
プロジェクトのスケジュール.....	56
見積および提案の生成.....	56
見積および提案の生成処理について.....	57
事前設定.....	58
見積の作成に使用するフォーム.....	59
プロジェクト見積 (P31P100) の処理オプションの設定.....	59
プロジェクトの見積の作成.....	60
第 5 章	
受注設計生産でのプロジェクト・プランニングの利用.....	65
ETOでのプロジェクト・プランニングについて.....	65
事前設定.....	66
作業原価予算へのプロジェクト予算のロード.....	66
作業原価予算のアップロード処理について.....	66
作業原価予算のアップロード (R31P800) の処理オプションの設定.....	66
作業原価予算のアップロード.....	68
プロジェクト所要量計画の実行.....	68
PRPについて.....	68
事前設定.....	71
プロジェクト所要量計画の実行に使用するフォーム.....	71
複数事業所プロジェクト所要量計画の生成.....	71
複数事業所PRPのメッセージの処理.....	72
複数事業所PRPの需要/供給の検討.....	72
プロジェクトのオーダーの作成.....	72
プロジェクトのオーダーの作成について.....	72
プロジェクトのオーダーの作成に使用するフォーム.....	75

プロジェクトの資材の購買オーダーの入力.....	75
プロジェクト・ワークベンチ・プログラムを使用した購買オーダー情報の入力.....	75
関連オーダー (P31P204) の処理オプションの設定.....	76
プロジェクトの関連オーダーの検討および作成.....	76
プロジェクトへの既存の作業オーダーの添付.....	77
関連オーダーの原価更新.....	77
プロジェクトのコミットメントの設定.....	77
プロジェクトのコミットメントについて.....	78
プロジェクトの作業オーダーの在庫引当の検討に使用するフォーム.....	79
プロジェクトの作業オーダーの在庫引当の検討.....	80
コミットメント再作成 (R31P993) の処理オプションの設定.....	80
コミットメント監査証跡の作成.....	80
第 6 章	
プロジェクトの実行および統制の利用.....	81
プロジェクトの実行および統制について.....	81
事前設定.....	81
プロジェクトの実行および統制.....	81
プロジェクト・ワークベンチへの実際原価の積上げ.....	83
プロジェクト・ワークベンチへの実際原価の積上げについて.....	84
事前設定.....	84
プロジェクト・ワークベンチへの実際原価の積上げ.....	84
プロジェクトのレポートと警告の生成.....	84
プロジェクトのレポートと警告について.....	85
プロジェクト・スケジュール・レポートの実行.....	85
プロジェクト・スケジュール・レポート (R31P400) の処理オプションの設定.....	85
プロジェクト原価レポートの実行.....	86
プロジェクト原価レポート (R31P401) の処理オプションの設定.....	87
プロジェクト在庫レポートの実行.....	88
プロジェクト在庫レポート (R31P402) の処理オプションの設定.....	88
プロジェクトの完了.....	88
プロジェクトの完了処理について.....	89
プロジェクト締切りアナライザ・プログラムの実行.....	89
プロジェクト締切りアナライザ (R31P403) の処理オプションの設定.....	89

JD Edwards EnterpriseOne用語集.....91

索引107

この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要となる情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

注意: 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお勧めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ)
- ドキュメンテーションのダウンロード

最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ)

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

重要: アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html

ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせて使う操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒()で区切られています。
[] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。 また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

注意事項の表示

表記規則

注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

注意: 注意事項は、このような形式で示しています。

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

重要: 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

警告: 警告は、このような形式で示しています。

相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

国の表記

国際標準化機構 (ISO) が定める国コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO標準の国コード」

地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF(米国連邦政府)
- E&G(教育/公的機関)

通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO標準の通貨コード」

ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

製品ガイドで使用する共通フィールド

住所録番号	エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合があります。
仮定通貨コード	取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されません。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。
バッチ日付	バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。
バッチ状況	バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/IC)のコードが表示されます。値は次のとおりです。 空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。 A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。 D: バッチが正常に転記されています。 E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。

	<p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。</p> <p>U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。</p>
事業所	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
ビジネスユニット	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
カテゴリ・コード	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
会社	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
通貨コード	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
伝票会社	伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。
	<p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p>
伝票番号	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
伝票タイプ	<p>ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票</p> <p>R: 売掛金伝票</p> <p>T: 時間および給与伝票</p> <p>I: 在庫伝票</p> <p>O: 購買オーダー伝票</p> <p>S: 受注オーダー伝票</p>
有効日付	住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。

- 住所の変更が有効になる日付
- 賃貸契約が有効になる日付
- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

会計期間、会計年度

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

元帳日付

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社に割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne製品
- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎
- この製品ガイドで使用する共通フィールド

JD Edwards EnterpriseOne製品

この製品ガイドには、オラクル社の次のJD Edwards EnterpriseOne製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne製造管理 – 製造データ管理
- JD Edwards EnterpriseOne製造管理 – 製造現場
- JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理
- JD Edwards EnterpriseOne所要量計画
- JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメント
- JD Edwards EnterpriseOne品質管理
- JD Edwards EnterpriseOne受注管理
- JD Edwards EnterpriseOne調達/外注管理
- JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このドキュメンテーションの姉妹編とも言える『JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド』に記載されています。

JD Edwards EnterpriseOneの最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOneは、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて<http://oracle.com/contracts/index.html>のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

この製品ガイドで使用する共通フィールド

プロジェクトNo.	システムで受注設計生産プロジェクトを識別する番号を指定します。プロジェクトの設定は、プロジェクトの追加/改訂プログラム(P31P011)で行います。
タスクNo.	システムで受注設計生産プロジェクトのタスクを識別する番号を指定します。プロジェクトのタスクの設定は、プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)で行います。
タスク・タイプ	<p>伝票のタイプを識別するユーザー定義コード(UDC)00/DTの値を入力します。このコードはトランザクションの発生元も示します。仕入先請求書、請求書、入荷確認書、タイム・シートの伝票タイプ・コードは予約されていて、転記プログラムの実行時に自動的に相殺仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)次の伝票タイプは事前定義されています。この伝票タイプは変更しないでください。</p> <p>P: 買掛金伝票 R: 売掛金伝票 T: 給与計算伝票 I: 在庫伝票 O: 購買オーダー処理伝票 J: 一般会計/共有利息請求伝票 S: 受注オーダー処理伝票 ET: 設計/オーダー</p>

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産 – はじめに

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産の概要
- JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産の統合
- JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産の導入

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産の概要

オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産により、受注設計生産および受注生産を行う企業は、収益性や生産性を向上させ、所有している関連データを有効に活用できます。JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産 (ETO) では、次の項目を実行していくことで、目標を達成します。

- プロジェクトに関する詳細情報の検討およびトラッキング
- プロジェクト・タスクのスケジューリング
- 最新の原価情報の検討

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産の統合

この項では、JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産をサポートする他のシステムの機能の概要を説明します。

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理

オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理を使用して、在庫品目を定義します。この情報により、サプライチェーン全体を通して在庫を処理できます。プロジェクト固有の品目を定義し、一般在庫と区別できます。

JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理

オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理を使用して、製造プロジェクト・タスクを実行するために必要な製造情報を設定します。次のような情報が含まれます。

- 部品表
- 作業場
- 作業工程
- 製造原価計算情報

- 設計変更管理

JD Edwards EnterpriseOne製造データ管理は、工程能力や資材所要量計画に関する重要な情報を管理するためにも使用されます。

JD Edwards EnterpriseOne製造現場管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne製造現場管理を使用して、プロジェクト用に作成された製造作業オーダーの処理、資材出庫、作業オーダーの実行、プロジェクト品目の作成に必要な時間と労力の報告を行います。

JD Edwards EnterpriseOne所要量計画

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne所要量計画を使用して、現行の手持在庫数量と需要についての情報を検討し、次の情報を予測します。

- 製品の販売または交換部品
- 事業所間の在庫ニーズ
- 設備/工場の保守に必要な部品所要量
- 購買オーダーまたは製造現場生産から発生する在庫品目の引当可能数量

JD Edwards EnterpriseOne作業原価

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne作業原価を使用して、プロジェクトおよび作業を管理し、原価および収益をモニタリングします。JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムを使用して、次のタスクを実行できます。

- 作業に対する原価コード構造の作成と管理
- 原価内訳構成(CBS)の作成、および作業階層構造(WBS)との照合
- 作業予算の作成
- プロジェクトや作業に関連する原価および収益のトラッキングおよび管理
- 収益性の分析
- 契約/サービス請求管理の使用

JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理を使用して、すべてのプロジェクト原価と請求の詳細を把握し、パフォーマンスを改善します。

JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメント

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントを使用して、設備の保守およびサービスを行います。このシステムは、ダウンタイムおよび修理費の削減と生産性および品質の向上に役立ちます。収益、原価、および資産運用をトラッキングでき、事態がひっ迫する前に、ワークフロー・アラートを使用して問題に対応して解決できます。

JD Edwards EnterpriseOne品質管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne品質管理を使用して、プロジェクトの一部として生産する品目の資材の品質に関連したデータを入力および管理します。一貫性があり管理のゆきとどいた方法によって、品質試験の結果を記録したり、製造工程をモニタリングして製品の品質を確保できます。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne受注管理を使用して、次のタスクを実行できます。

- プロジェクトの受注オーダーの作成
- 顧客および品目優先プロファイルの管理
- 受注オーダー行のトラッキング

JD Edwards EnterpriseOne調達管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne調達管理システムを使用して、次のような様々な購買アクティビティをトラッキングします。

- 在庫の補充
- プロジェクト用の資材購入
- 特定の部署、作業、またはビジネスユニットに対する、購入した部材やサービスの費用配賦

JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理

受注設計生産プロジェクトにJD Edwards EnterpriseOne作業原価を使用する場合、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理システムを使用して、プロジェクトの一部として発生した商品およびサービスを顧客に請求できます。このシステムは、部門間振替および対顧客請求に利用できる機能を備えています。JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理システムを使用して、次のタスクを実行できます。

- 商品やサービスの原価の計上
- 収益計上のための原価の精算
- 提供した商品とサービスの料金請求
- 費用の請求事由を示す証明書の提供
- 商品とサービスの仕訳作成

JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産システムの導入に必要な手順の概要を説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、JD Edwards EnterpriseOneに関して提供されるすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産について、どのESU(電子ソフトウェア更新)をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistantを使用します。JavaベースのツールであるEnterpriseOne and World Change Assistantを使用すると、必要となるESUを検索してダウンロードするためにかかる時間を75%以上削減できます。さらに、複数のESUを一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

グローバル導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産システムのグローバル導入の推奨手順を示します。

手順	参照
1. グローバル・ユーザー定義コード(UDC)テーブルを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 System Administration Guide、「Working with User Defined Codes」
2. 会計期間パターン、会社およびビジネスユニットを設定します。	
3. システム自動採番を設定します。	
4. 勘定科目を設定します。	
5. 一般会計固定情報を設定します。	
6. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド、「多通貨処理の一般会計の設定」
7. 元帳タイプ規則を設定します。	
8. 住所録レコードを入力します。	
9. デフォルト事業所およびプリンタを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Development Tools: Report Printing Administration Technologies Guide、「Working with Report Printing Administration」
10. 事業所固定情報を設定します。	
11. 製造および流通AAI(自動仕訳)を設定します。	
12. 伝票タイプを設定します。	
13. 製造現場カレンダーを設定します。	
14. 製造固定情報を設定します。	

受注設計生産の導入手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産のアプリケーション別の推奨導入手順を示します。

手順	参照
1. 受注設計生産ユーザー定義コードを設定します。	<u>第3章、「受注設計生産の設定」、「ETOのUDCの設定」、13ページ</u>
2. プロジェクト品目を設定します。	
3. 製造原価を設定します。	
4. 原価分類および勘定科目分類を設定します。	<u>第3章、「受注設計生産の設定」、「原価分類および勘定科目分類の設定」、14ページ</u>
5. 作業原価の統合を設定します。	<u>第3章、「受注設計生産の設定」、「作業原価の統合の設定」、17ページ</u>

第 2 章

受注設計生産について

この章では、次の内容について説明します。

- 受注設計生産システム
- プロジェクトのライフサイクル
- 受注設計生産システムの機能
- 受注設計生産のテーブル

受注設計生産システム

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産により、受注設計生産および受注生産を行う企業は、収益性や生産性を向上させ、所有している関連データを有効に活用できます。JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産システムでは、次の項目を実行していくことで、これらの目標を達成します。

- プロジェクトに関する詳細情報の検討およびトラッキング
- プロジェクト・タスクのスケジューリング
- 最新の原価情報の検討

さらに、JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産をサプライチェーンの実行アプリケーションと完全に統合させて、プロジェクトの効率化を推進します。

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産は、一般的に受け入れられているプロジェクト管理の実践と戦略に沿って機能します。このシステムは、一般にプロジェクトと関連付けられる次の4つのフェーズに沿ってプロジェクトが進行していくための情報とメカニズムを提供します。

- プロジェクト立上げ
- プロジェクト・プランニング
- プロジェクト実行
- プロジェクト完了

プロジェクトの立上げフェーズ

立上げフェーズでは、顧客からの見積要求の分析、プロジェクトのスコープの見積、およびプロジェクト情報の定義を行います。これには、見積提出に必要な作業階層構造 (WBS)、タスクのスケジュール、原価見積などが含まれます。

プロジェクト・プランニング・フェーズ

見積が顧客に承認され、プロジェクトのスコープ、タスク、スケジュール、リソース、および財務情報の検討が完了したら、プロジェクト・プランニング・フェーズに移ります。タスクにリソースを割り当て、作業オーダーの条件を満たすための財務処理や在庫引当などを行います。プロジェクトのベースラインの完成が、プランニングの最終フェーズになります。

プロジェクト実行フェーズ

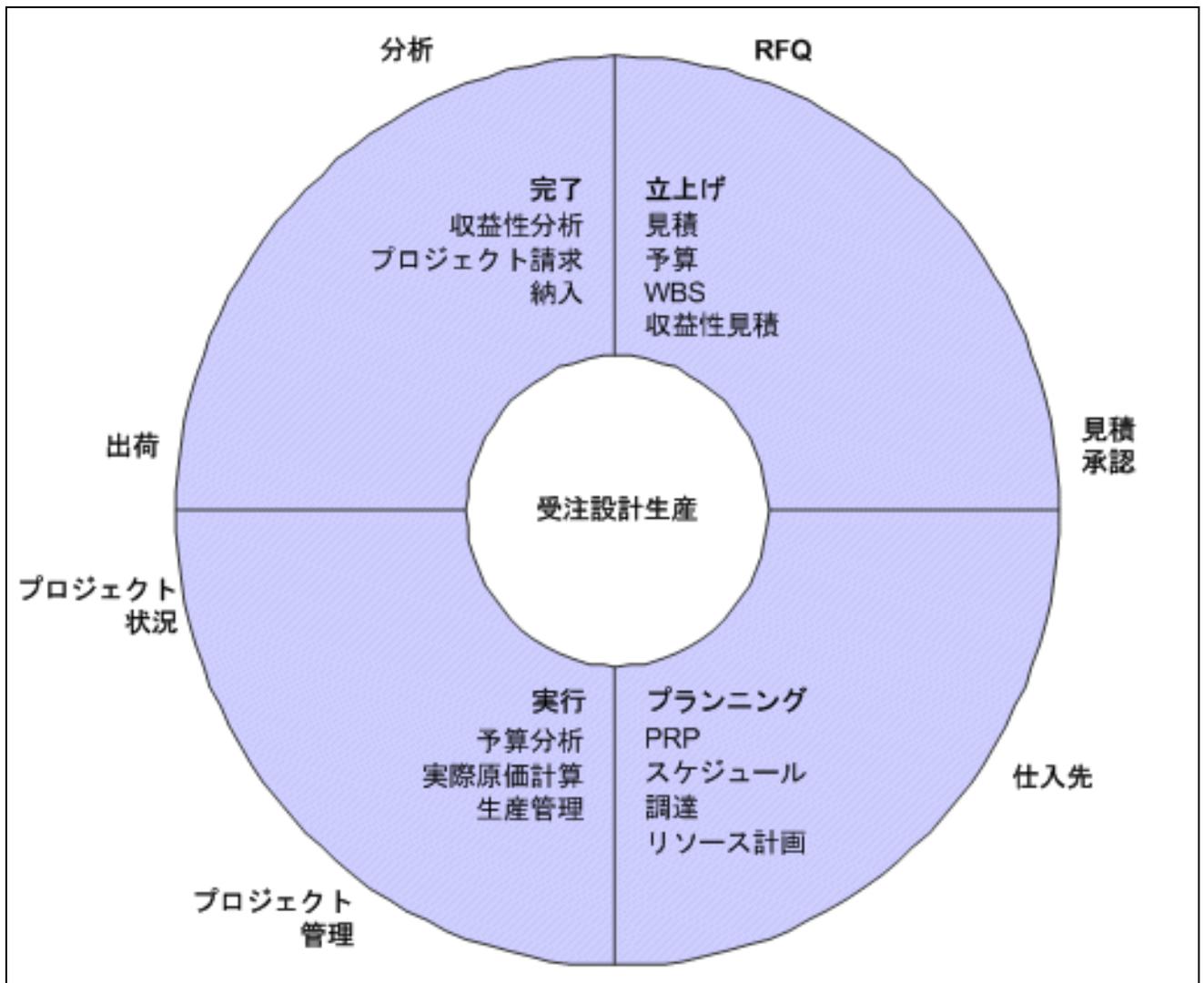
プランニングが完了し、予算金額が固定されたら、プロジェクトは実行および統制のフェーズに移ります。このフェーズでは、スケジュールリングされたプロジェクト・タスクを実行し、進捗および実行内容を確認し、計画どおりに進んでいなければ補整措置を取れるようにします。

プロジェクト完了フェーズ

プロジェクトの完了フェーズには、タスク、製品の出荷、資産の資本化、財務報告に関連した完了処置があります。

プロジェクトのライフサイクル

次の図は、プロジェクトの典型的な進行の概要を示しています。



プロジェクトのライフサイクル

受注設計生産システムの機能

大規模プロジェクトの作成および実行をサポートするために、JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産は次の機能を提供し、プロジェクト管理に含まれる様々なタスクを遂行できるようにします。

機能	説明
原価計算と予算作成	作成されて開始されたプロジェクトの原価を作成および管理できます。原価見積は、見積が承認されるとプロジェクト予算にアップロードされます。プロジェクト予算を設定して原価の対予算実績も管理できます。
見積	見積を作成して見込み客に送り、顧客が希望する品目の見積価格を提供できます。

機能	説明
提案	希望を受けた製品に付随する資料を作成し、顧客がその資料を検討できるようにします。
資材調達計画	プロジェクトに必要な資材のオーダー所要量を提案し、プロジェクトのアクティビティによって生じた需要/供給を明確にします。
スケジュールとレポート	スケジュールを作成および管理し、すべてのプロジェクト・アクティビティがプロジェクトの最終品目に向けて計画どおりに進んでいるかトラッキングできます。
警告	スケジュール、原価計画および在庫所要量に沿ってプロジェクトが進行していない場合、プロジェクト管理者に警告を出すことができます。

受注設計生産のテーブル

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産は、他の多くの JD Edwards EnterpriseOne システムと統合可能であるため、受注設計生産 (ETO) プロジェクトを作成して使用するときに、他のシステムのテーブルを使用できます。たとえば、作業オーダー・マスター (F4801) を使用して、プロジェクト見出しやタスク情報を保存できます。さらに、次の JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産固有のテーブルにもプロジェクト情報を保存できます。

テーブル	説明
プロジェクト属性 (F31P01)	このテーブルには、状況情報やプロジェクトの処理設定など、プロジェクト見出しに入力される情報が保存されます。
プロジェクト見積見出し (F31P10)	このテーブルには、バージョンや見積作成先の顧客番号など、プロジェクトに関連する見積の見出し情報が保存されます。
プロジェクト見積明細 (F31P11)	このテーブルには、各行の粗利益率と見積額をともに見積りに含めるために選択する作業階層構造からの明細行が保存されます。
タスク従属関係 (F31P12)	このテーブルには、タスク間遅延時間などの作業階層構造のタスク間に設定したタスク従属関係が保存されます。
原価分類テーブル (F31P21)	このテーブルには、正しくプロジェクトの原価情報を積み上げるために必要な原価タイプと勘定科目マッピングが保存されます。

テーブル	説明
スケジュール・エラー・レポート (F31PUI01)	このテーブルは、プロジェクト・ワークベンチ・プログラム (P31P001) を使用してスケジュールしたときに作成および削除されるスケジュール日付を保存するワークファイルです。
ロックされたレコードのリスト (F31PUI02)	このテーブルは、タスクの編集モードまたはすべてのタスクの編集/ロック・モードでプロジェクト・ワークベンチ・プログラム (P31P001) を表示したときに作成および削除されるレコード予約詳細を保存するワークファイルです。
プロジェクト引当明細テーブル (F410211)	このテーブルには、プロジェクト固有の在庫引当が保存されます。引当がリリースされた時点で、このレコードは削除されます。
関連オーダー相互参照テーブル (F4080)	このテーブルには、プロジェクトの記述タスクを関連オーダーにリンクするために使用されるオーダー情報が保存されます。このテーブルには、記述タスクのオーダー番号とオーダー・タイプ、および伝票タイプ、合計原価、オーダー状況などの関連オーダーからの明細情報が含まれます。
作業オーダーETOタグ・ファイル (F4801T1)	これは、ETOのみに使用されるテーブルF4801のタグ・テーブルです。プロジェクトに関連付けられている (PRJMが空白でない) F4801テーブル内のすべてのレコードに対応するレコードがF4801T1テーブルに作成されます。

第 3 章

受注設計生産の設定

この章では、JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産(ETO)の設定の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- ETOのユーザー定義コード(UDC)の設定
- 原価分類および勘定科目分類の設定
- 作業原価の統合の設定
- ETOとMicrosoft Projectの統合

受注設計生産の設定について

JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産を使用するには、様々なプロジェクト・コンポーネントを適切に処理するために必要な情報を設定する必要があります。JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産の設定には、ユーザー定義コードと、伝票タイプ固定情報などのその他の必要な情報が含まれます。さらに、プロジェクトの原価を正しく積み上げるために、原価の分類体系やプロジェクト固有項目の設定も必要になります。

プロジェクトでJD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理の機能を使用する場合、プロジェクトの作業マスターと勘定科目表の情報も定義する必要があります。

プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)にアクセスできない社員とのプロジェクトに関する連絡を円滑にするために、Microsoft Projectにプロジェクト情報をエクスポートする処理を設定できます。

ここでは、次の事項について説明します。

- ETOプロジェクトのタスク・タイプ
- プロジェクト固有の資材
- ETOの行タイプと行タイプ固定情報

ETOプロジェクトのタスク・タイプ

JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産により、WBSの一部としていくつもの異なるタスク・タイプを使用できます。各タスク・タイプは、プロジェクト管理者やプロジェクト責任者の様々な任務まで含む場合もあるプロジェクトに関連したアクティビティの各タイプを示します。伝票タイプの管理プログラム(P40040)で設定されたタスク・タイプのみ使用できます。

JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産には、製造タスクと非製造タスクの2つのカテゴリがあります。非製造タスクには、集計/明細タスク、設備オーダー、サービス・オーダーなどがあります。製造タスクには、作成、サービス、管理に使用する製造作業オーダーがあります。製造タスクが常に品目と関連している一方、非製造タスクでは品目番号は任意です。WBSのすべてのタスクは、作業オーダー・マスター(F4801)に保存されている作業オーダー・マスター・レコードです。

また、タスク・タイプによって、原価の積上げの設定や実行方法が決まります。製造タスクでは、原価は原価タイプ別にマッピングされ、製造原価テーブル(F3102)に保存されます。非製造タスクでは、原価は金額別にマッピングされ、取引明細テーブル(F0911)に保存されます。

プロジェクト固有の資材

ETOプロジェクトを処理する際、一般在庫からプロジェクト用に購入または製造する資材を区別する必要があります。プロジェクト固有としてプロジェクトで使用する品目を定義しない場合、プロジェクト供給という面で問題が発生する場合があります。プロジェクト固有の資材を定義することにより、次のことが可能です。

- プロジェクト固有の在庫引当の管理
- 完了時点のプロジェクト固有最終品目の認識
- プロジェクト固有の会計上のコミットメントの実行

事業所品目プログラム(P41026)で品目を設定する際、在庫タイプ・コードUDCテーブル(41/1)から2つのコードのうちいずれかを割り当てることで、プロジェクト固有品目を定義します。現在2つの事前に定義されたコードがあります。G(プロジェクト用製造品目)とH(プロジェクト用購入品目)です。両コードとも、特殊取扱コードPを含んでおり、2つの在庫タイプが設定された品目はプロジェクト固有として処理されることを示します。計画作成のため、「記述2」フィールドには、品目が購入されるか製造されるかを示すコードが含まれます。

ETOの行タイプと行タイプ固定情報

特定の在庫タイプを割り当ててプロジェクト固有として品目を定義することに加え、プロジェクトで使用する品目の会計上のコミットメントを管理できる行タイプを使用してプロジェクト固有品目を設定します。事業所品目プログラム(P41026)でプロジェクト固有品目を設定する際、在庫インターフェイスCで定義される行タイプを割り当てます。在庫インターフェイスは、行タイプ固定情報プログラム(P40205)の行タイプのその他の行タイプ固定情報に沿って設定します。

この在庫インターフェイスにより、在庫品目の会計上のコミットメントを作成できます。在庫インターフェイスCは、在庫インターフェイスY(在庫)の機能とA(勘定科目)とB(勘定科目と非在庫)を結合します。会計上のコミットメントを作成できるため、プロジェクト管理者はJD Edwards EnterpriseOne作業原価システムを使用して最終予測原価を算出できます。

注意: 会計上のコミットメントを作成するには、コミットメント伝票タイプUDCテーブル(40/CT)にコミットメント伝票タイプを定義する必要があります。

行タイプの「資材出庫プログラムの呼出し」オプションを有効にして、資材が入荷したら作業オーダー用に購買された資材が自動的に出庫されるようにもできます。

事前設定

伝票タイプ固定情報を定義します。

ETOのUDCの設定

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneでは、次のユーザー定義コード・テーブルを提供し、ビジネス環境に応じた仕様に従って受注設計生産処理を定義できるようにします。

ユーザー定義コード	説明
オーダー・タイプ (48/OT)	作業オーダー・マスター (F4801) の各作業オーダー・レコードを他の作業オーダー・タイプのレコードと区別します。たとえば、同じ伝票タイプ、作業オーダー・タイプを使用して設備作業オーダーと製造作業オーダーを示すことはありません。
原価分類 (31P/CC)	プロジェクト・ワークベンチ・プログラム (P31P001) で使用される原価バケットを一覧表示して、製造原価 (F3102) と取引明細 (F0911) の各テーブルに保存される原価を、見やすさとプロジェクトのWBSにおける積上げのために分類します。
プロジェクト見積状況 (31P/QP)	顧客への見積提出で作成される異なる見積バージョンの進行状況をトラッキングする際に使用される状況の定義を提供します。ハードコード化された5つの見積状況を提供します。
プロジェクト見積非アクティブ理由コード (31P/RC)	見積が“非アクティブ”状況に設定された理由を表示します。
タスク従属タイプ (31P/DT)	WBSのタスク間の従属関係を設定する際に使用する標準タスク従属タイプを表示します。
在庫タイプ・コード (41/I)	品目マスター・プログラム (P4101) で品目に割り当てられる在庫タイプを表示します。在庫タイプ・コードを使用してプロジェクト固有として品目を指定します。
コミットメント伝票タイプ (40/CT)	会計上のコミットメント用の伝票タイプを表示します。
プロジェクト会計 (31P/AI)	プロジェクトの会計処理が使用できるよう設定されたAAIを表示します。
プロジェクト請求方法 (31P/PB)	「プロジェクトの追加/改訂」フォームでプロジェクトに選択するプロジェクト請求方法を表示します。
DRP (流通所要量計画) (34/DR)	流通所要量計画 (DRP) のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
DRP未調整 (34/DU)	未調整DRP用のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
電子メールボックス (02/MB)	プロジェクトの通知用電子メールボックスが含まれます。
在庫インターフェイス (H40/IV)	作業原価インターフェイスのあるプロジェクトの会計上のコミットメントを使用可能にする在庫インターフェイスCが含まれます。

ユーザー定義コード	説明
MRP(資材所要量計画)管理(34/MM)	資材管理計画のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
MPS(基準生産日程計画)(34/MS)	基準生産日程計画(MPS)用のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
工場保守管理(34/PM)	工場保守管理のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
MRP(資材所要量計画)(34/MR)	資材所要量計画(MRP)のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
数量タイプ(34/QT)	需要/供給用のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
リソース割当レベル(48/RL)	作業オーダーの伝票タイプに基づいて、リソース割当が作業オーダー・レベルか、または作業オーダー・労務詳細レベルかを指定します。労務詳細レベルで割り当てるには、このUDCテーブルを使用して作業オーダー伝票タイプを指定する必要があります。
テキスト代替の基準テーブル(42/01)	生成伝票プログラム(P00391)に必要なユーザー定義コードを表示します。
テキスト代替コード(42/02)	生成伝票プログラムに必要なユーザー定義コードを表示します。

原価分類および勘定科目分類の設定

この項では、原価分類および勘定科目分類の概要と次の方法について説明します。

- 原価分類(P31P301)の処理オプションの設定
- 原価分類の設定
- 勘定科目分類の設定

原価分類および勘定科目分類について

プロジェクト関連の原価管理は、プロジェクト管理者にとって最も重要な事項の1つです。予算を管理するために、プロジェクト管理者は、プロジェクトのライフサイクルのどの時点のどのプロジェクト・タスクについて報告された実際原価でも検討できる必要があります。プロジェクト管理者が、プロジェクトのどの段階でも実際原価と見積原価、予算原価、または計画原価を比較できるように、見積原価に利用できる同じ原価バケットに実際原価を関連付ける必要があります。さらに、正しい原価バケットに原価をマッピングすることで、WBSの各明細レベルから次の親レベルへ、さらにプロジェクト・レベルへと原価を積み上げることができます。プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)で使用されている原価バケットの例としては、労務、資材、その他、および特別があります。原価分類UDCテーブル(31P/CC)でユーザー定義コードとしてこれらの原価バケットを設定します。

原価分類 - 原価タイプの改訂

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

事業所

プロジェクトNo.

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ   

	原価タイプ	原価タイプ記述	原価分類
<input checked="" type="radio"/>	B1	直接労務費	L
<input type="radio"/>			

「原価タイプの改訂」フォーム

原価タイプ

品目の原価要素を指定するコードを入力します。コスト・オブジェクト・タイプの例は次のとおりです。

A: 購買原材料

B1: 作業工程直接労務費積上げ

B2: 作業工程段取労務費積上げ

C1: 作業工程変動間接費積上げ

C2: 作業工程固定間接費積上げ

Dx: 作業工程外注費積上げ

Xx: 光熱費や水道代などの追加間接費

通常、その他経費の計算にはタイプXx(追加間接費)を使用します。この原価構造により、原価要素を必要なだけ使用して別の原価積上げを計算できます。この原価要素は、ユーザー定義の6つの集計原価バケットのうちの1つと関連付けられます。

原価分類

資材費、労務費、その他費用、または特別費など、原価バケットと原価タイプまたは勘定科目コードを関連付ける値を原価分類UDCテーブル(31P/CC)から選択します。原価分類を正しく設定することにより、プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)で正しい原価バケットに原価が積み上げられます。

勘定科目分類の設定

「勘定科目コードの改訂」フォームにアクセスします。

原価分類 - 勘定科目コードの改訂

OK(O) 検索(F) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

事業所

プロジェクトNo.

レコード 1 - 8 グリッドのカスタマイズ   

	勘定科目コード	勘定科目コード 記述	原価 分類
<input checked="" type="radio"/>	P30.1720	Labor	L
<input type="radio"/>	JCEPM1.1340.20000	Labor	L
<input type="radio"/>	JCEPM1.1344.20000	Materials	M
<input type="radio"/>	JCEPM1.1350.20000	Other Costs	O
<input type="radio"/>	JCEPM1.1340.30000	Labor	L
<input type="radio"/>	JCEPM1.1344.30000	Materials	M
<input type="radio"/>	JCEPM1.1350.30000	Other Costs	O
<input type="radio"/>			

「勘定科目コードの改訂」フォーム

「勘定科目コードの改訂」フォームを表示するには、原価分類プログラム(P31P301)の処理オプションを設定して、原価タイプ別ではなく勘定科目別にプログラムを表示する必要があります。

作業原価の統合の設定

この項では、作業原価の統合の概要、事前設定、およびプロジェクトの勘定科目表の追加方法について説明します。

作業原価の統合について

ビジネス・ニーズによって異なりますが、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムは JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産と統合できます。JD Edwards EnterpriseOne 作業原価の機能を使用して、収益性を分析したり、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムからアクセスできるサービス/契約請求管理機能を使用できます。JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムと JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産システムを合せて使用すると、長期プロジェクトなどの複雑な製造環境に特に威力を発揮します。

製造作業オーダーの会計上のコミットメントを実行する場合、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価の統合が必要です。製造作業オーダーの会計上のコミットメントを実行するには、コミットメント伝票タイプ UDC テーブル(40/CT)で製造作業オーダー伝票タイプを設定する必要があります。

プロジェクト固有の会計を可能にするには、プロジェクト会計 UDC テーブル(31P/AI)の特殊取扱コード・フィールドを使用して、次の AAI を設定してプロジェクト固有の勘定科目を含めます。

- 3110 (在庫/原材料)
- 3120 (仕掛品)
- 3130 (半組立品/完成品)
- 3140 (プロジェクト相手科目)
- 4310 (在庫)
- 4315 (非在庫)

プロジェクトの属性を設定するときにJD Edwards EnterpriseOne作業原価システムを有効にするには、プロジェクト属性の「作業原価I/F」オプションを選択します。JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムの機能を使用するには、元帳クラス・コードを定義する必要があります。次に、追加作業マスター(F5108)にレコードを作成します。追加作業マスター・レコードのビジネスユニットは、プロジェクト見出しとタスクのデフォルトのビジネスユニットになります。プロジェクトとタスクに割り当てる補助科目を提供する勘定科目表を追加する必要があります。作業原価の統合が有効な場合、WBSの各タスクには補助科目が必要です。

注意: 作業マスター・レコードを作成する処理オプションを設定した場合、プロジェクトを追加またはコピーする際に、作業原価マスターの改訂プログラム(P51006)が自動的に呼び出されます。

勘定科目表

勘定科目表を追加するには、作業原価コード構造プログラム(P51091)を使用します。勘定科目表を対話形式で追加するかわりに、処理オプションを設定して他のレコードから勘定科目表をコピーできます。この場合、勘定科目表情報のコピー元ソース(勘定科目表または作業)と表または作業の名前を指定する必要があります。

勘定科目表を追加したら、ETOプロジェクトとタスクに補助科目を割り当てます。「補助科目」フィールドを使用して、タスクの補助科目を入力できます。また、処理オプションを設定して親タスクからすべての子タスクに補助科目をコピーすることもできます。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 作業原価 9.0 製品ガイド、「作業の設定」

事前設定

バックグラウンドで勘定科目表をコピーするには、プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)の処理オプションを使用して、作業のコピー元として勘定科目表または作業のいずれかを選択します。

作業原価の統合の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
プロジェクトの検索	W31P001B	「プロジェクト・ワークベンチ」(G31P12)、「プロジェクト・ワークベンチ」	作業原価の統合を設定するプロジェクトを検索します。
プロジェクトの追加/改訂	W31P011A	「プロジェクトの検索」フォームで「ロー・アクション」フィールドから「属性」を選択し、「>>」を選択します。	作業原価の統合を指定します。
原価コードのコピー	W51091J	「プロジェクトの追加/改訂」フォームで、「フォーム」メニューから「勘定科目表のコピー」を選択します。	勘定科目表情報のコピー元になる勘定科目表または作業の名前を指定することにより、プロジェクトの勘定科目表を追加します。

プロジェクトの勘定科目表の追加

「原価コードのコピー」フォームにアクセスします。

プロジェクト・ワークベンチ - 原価コードのコピー ?

OK(O) 取消(L) ツール(T)

コピー元

科目表タイプ

コピー先

作業

原価コード範囲

原価コード:開始 原価タイプ:開始

原価コード:終了 原価タイプ:終了

詳細レベル

「原価コードのコピー」フォーム

科目表タイプ

プロジェクトの作業にコピーする勘定科目表タイプを入力します。

注意: 処理オプションでコピー元として作業を指定すると、このフィールドに“作業”というラベルが表示され、原価コードをコピーする作業を選択できます。

作業

選択したプロジェクトの原価コードのコピー先の作業またはビジネスユニットを選択します。

原価コード:開始、原価コード:終了

プロジェクトにコピーする補助科目の範囲を定義します。この情報は、原価配賦の決定に使用されます。

原価タイプ:開始、原価タイプ:終了 プロジェクトの主科目の範囲を定義します。

詳細レベル プロジェクト勘定科目の詳細レベルを指定します。この値は、総勘定元帳の勘定科目の集計および分類に使用されます。

ETOとMicrosoft Projectの統合

この項では、ETOのエクスポート/インポート処理の概要と次の方法について説明します。

- MS Projectへのエクスポート(R31P404)とMS Projectからのインポート(R31P801)の処理オプションの設定
- Microsoft ProjectへのETOプロジェクト情報のエクスポート
- Microsoft ProjectからのETOプロジェクト情報のインポート

ETOのエクスポート/インポート処理について

JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産を処理する際、Microsoft Projectを使用してETO機能を補足するMicrosoft Projectの機能を利用できます。プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)で作成した作業階層構造(WBS)をMicrosoft Projectファイルにエクスポートできます。WBSをエクスポートしたら、ガント図表、PERT図などのMicrosoft Projectのイメージ機能を使用してよりビジュアルなフォーマットでプロジェクト情報を表示できます。Microsoft Projectファイルを変更して当初のWBSに影響を与えずにwhat-if分析を実行できます。さらに、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムのプロジェクト情報にアクセスできない従業員と、エクスポートされたプロジェクト情報を共有することもできます。

MS Projectへのエクスポート(R31P404)とMS Projectからのインポート(R31P801)の処理オプションの設定

この処理オプションでは、MS Projectのインポートおよびエクスポート・プログラムのデフォルト処理を制御します。

処理

この処理オプションでは、JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産とMicrosoft Projectの間のファイルの移動方法を制御します。

1. フラット・ファイルの名前とパス フラット・ファイルの名前を指定します。フラット・ファイルが存在するディレクトリ・パスが含まれます。

(例: C: ¥Project.csv)

2. 日付形式

データベースに保管される日付形式を指定します。処理オプションで指定する日付形式は、システム日付の形式と一致させる必要があります。MS Projectファイルの日付形式も、システム日付の形式と一致させる必要があります。

JD Edwards EnterpriseOneプログラムで有効な日付形式は、YMD、MDY、DMYおよびEMDです。このフィールドを空白にした場合、ワークステーションのオペレーティング・システムの設定に基づいて日付が表示されません。Microsoft Windows NTでは、「コントロール・パネル」の地域設定によつ

て、ワークステーションのオペレーティング・システムの設定が制御されま
す。

Microsoft ProjectへのETOプロジェクト情報のエクスポート

「MS Projectインテグレーション」(G31P13)の「MS Projectへのエクスポート」を選択します。

プロジェクト情報をエクスポートする際、WBSのすべてのタスク・レコードに対する作業オーダー・マスター (F4801)のすべてのフィールドを含むカンマ区切りフラット・ファイル(.csv)が作成されます。フラット・ファイルは、MS Projectへのエクスポート・プログラム (R31P404)の処理オプションで指定したロケーションに保存されます。

エクスポートを確実に実行するには、MS Projectで次の情報を定義する必要があります。

1. MS Projectを開き、プロジェクト・ファイルに名前を付け、Microsoft Excel Workbookファイル・タイプで保存します。
2. 「保存」ボタンをクリックすると、「エクスポート マップ」フォームが表示されます。
3. 「データの選択」タブで、「新しいマップ」ボタンをクリックします。
4. 「インポート/エクスポート マップの定義」フォームで、インポート/エクスポート・マップの名前を入力します。
5. 「オプション」タブで、次の選択および値を確認します。
 - 「インポート/エクスポートするデータ」グループ・ボックスの「タスク」オプション
 - 「Microsoft Excelオプション」グループ・ボックスの「ヘッダー行をエクスポートまたはインポートする」オプション
 - テキスト区切り値の「,」

Microsoft Projectでフラット・ファイルを開くと、フラット・ファイルは作成するMicrosoft Projectファイルの対応フィールドにマッピングされます。統合を適切に行うには、次のフィールドを対応するMicrosoft Projectフィールドにマッピングする必要があります。

フラット・ファイル	Microsoft Project	コメント
SEQN	Unique ID	タスク順序フィールドを使用してMicrosoft ProjectのタスクIDが決定されます。
DL01	Name	Microsoft Projectで、すべてのタスクに名前が必要です。
STRT	Start	このフィールドは、ガント図表の作成に必要です。
DRQJ	Finish	このフィールドは、ガント図表の作成に必要です。
Successors	Successors	このフィールドは、Microsoft Projectでタスク・リンクを表示するために必要です。

フラット・ファイル	Microsoft Project	コメント
Outline Level	Outline Level	このフィールドは、Microsoft Projectで親子関係を表示するために必要です。
DOCO	Text01	このフィールドは、Microsoft Projectから情報をインポートするために必要です。
DCTO	Text02	このフィールドは、Microsoft Projectから情報をインポートするために必要です。
PARS	Text03	このフィールドは、Microsoft Projectから情報をインポートするために必要です。

その他のすべてのフィールドは任意です。エクスポート・マッピングを保存します。

Microsoft ProjectからのETOプロジェクト情報のインポート

「MS Projectインテグレーション」(G31P13)の「MS Projectからのインポート」を選択します。

プロジェクト・ワークベンチ・プログラムにMicrosoft Projectファイルを再インポートできるようにするには、前の項の表に定義されているとおりに、正しくファイルをマッピングする必要があります。JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産には、標準マッピングを含むMicrosoft Projectのテンプレートが用意されています。

Microsoft Projectでプロジェクトを設定したら、必要なだけ変更を加えたり、情報をやり取りしたりできます。ファイルを保存する際は、.csvファイルとして保存して、Microsoft Projectにフラット・ファイルをインポートした際に使用したのと同じマッピングを選択します。結果として作成される.csvファイルには、マッピング仕様にあるすべてのフィールドが含まれます。

Microsoft Projectでプロジェクトを処理する際は、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムにプロジェクト・ファイルをインポートできるよう、次の規則を適用する必要があります。

- WBSにタスクを追加/削除しない。
プロジェクト・ワークベンチ・プログラムに当初エクスポートしたレコードをインポートできます。
- 一部のフィールドは変更できない。
たとえば、作業オーダー在庫完了プログラム(P31114)を実行するだけで、F4801テーブルの完了数量フィールドを更新できません。
- 従属関係の遅延時間は日数で表示する。

変更が終了したら、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムに.csvファイルをインポートできます。MS Projectからのインポート・プログラムの処理オプションを使用して、インポートするフラット・ファイルのロケーションを指定します。

注意: Microsoft Projectで読み込まれるフラット・ファイルにプロジェクト情報をエクスポートする際、フラット・ファイルのロケーションを指定する必要があります。オペレーティング・システムとサーバーに応じて、様々な方法でファイルのロケーションを指定できます。たとえば、UNIX環境の場合は、フラット・ファイルはバイナリ・ファイルであり、ディレクトリ構造はMicrosoft Windows環境の構造とは異なります。

ガイドライン

エクスポート/インポート処理を円滑に行うために、Microsoft Windowsベースのファイル・システムを使用して、パスとファイル名を指定してください(Microsoft ProjectはWindows環境で最適に動作するため)。

その他の設定には、MS Projectへのエクスポート・プログラムとMS Projectからのインポート・プログラムの処理オプションで、一貫性を保つためのワークステーション上のデータ・フォーマットの設定などがあります。

第 4 章

プロジェクトの立上げ

この章では、プロジェクトの立上げ処理の概要と次の方法について説明します。

- プロジェクトの作成
- プロジェクトとプロジェクト・タスクの処理
- プロジェクト・タスクのスケジューリング
- 見積および提案の生成

プロジェクトの立上げ処理について

プロジェクトの立上げは、大規模な受注設計生産 (ETO) または受注生産のアクティビティの開始フェーズです。顧客の特殊な要件に応じて製品を生産する業種では、最終製品で顧客の要件をすべて満たすことができるように、プロジェクト管理の慣習に従います。このようなプロジェクトでは、期間が1年以上に及ぶため、立上げフェーズでプロジェクトに必要な情報をわかりやすく正確に入力する必要があります。

受注設計生産を実行する環境の場合、通常は顧客から特定の製品の見積要求を受けたときのみプロジェクトを立ち上げます。顧客から見積要求が送られてきたら、見積に必要な情報を準備するために、次のアクティビティを実行します。

- プロジェクトの作成
- フェーズおよびタスクの概要の定義
- 見積スケジュールの確定
- 見積原価の計算
- 価格の確定と提案の生成

これらのアクティビティの目的は、見積を受け入れるか却下するかを決めるための十分な情報を顧客に提供することです。顧客からの質問や要件に応えるために、プロジェクト立上げのアクティビティには繰り返すものもあります。プロジェクト立上げフェーズでは、顧客が見積を受け入れてから実際にプロジェクトのタスクを計画して作業を開始するタイミングを決定します。

プロジェクトの作成

この項では、プロジェクトの作成の概要および次の方法について説明します。

- プロジェクト・ワークベンチ (P31P001) の処理オプションの設定
- プロジェクトの作成

プロジェクトの作成について

生産を提案する製品の見積情報を顧客から要求された場合、第1段階としてプロジェクトを設定します。プロジェクトの作成には2つの方法があります。プロジェクトの追加/改訂プログラム (P31P011) を使用して新規プロジェクトを作成するか、または既存のプロジェクトをコピーして、プロジェクトの見出し情報を適宜変更することもできます。一般的なプロジェクト情報をすべて定義したら、タスクおよびスケジュール情報、金額の見積を追加します。この重要な情報が、プロジェクトに必要なアクティビティや、実行した場合に発生する原価を把握する手がかりとなります。この情報がないと、プロジェクトで利益を上げるための現実的な見積を顧客に提供するのが困難な場合があります。

注意: 新規のプロジェクトを作成するためにプロジェクトをコピーすると、プロジェクトに関連付けられたタスクの情報もコピーされます。ただし、タスクの従属関係はコピーされません。

プロジェクトのレコードは、F4801テーブルに保管されます。新規のプロジェクトを設定する場合、次の必須情報を入力します。

- プロジェクトの記述
- 事業所
- オーダー状況
- オーダー・タイプ
- 予定開始日付
- 予定完了日付

「プロジェクトの追加/改訂」フォームの「プロジェクト情報」タブでは、ビジネスユニットや顧客番号などの補足情報を追加できます。事業所の値は、ビジネスユニットを入力しなかった場合のデフォルトとなります。JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムをJD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産とともに使用すれば、事業所とは異なるビジネスユニットを入力できます。システムにないビジネスユニットを入力し、「作業原価I/F」オプションを選択した場合、追加作業マスター (F5108) に新しいレコードを追加できます。プロジェクト見積プログラム (P31P100) から販売見積を生成するには、顧客番号が必要です。顧客番号を使用して、税率などの原価情報を読み込むことも可能です。

「担当者」タブで、管理者や監督者など、プロジェクトにかかわる人物の情報を入力し、状況の変更通知やプロジェクトの警告用に電子メール配布リストを指定することもできます。

「プロジェクト属性」タブには、重要な処理情報が含まれます。プロジェクトの見積承認の前と後のどちらのタイミングで在庫を引き当てるかを確定できます。プロジェクトが実際に進行するまでは在庫を引き当てず、会計上のコミットメントも作成しないようにできます。また、タスクに部品リストと作業工程指示を添付した後で、最初に入力した見積原価を計画原価で一時変更するかどうかも指定できます。

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産の作業原価機能を使用する場合、「作業原価」タブで「作業原価I/F」オプションを選択して、元帳クラス・コードを入力する必要があります。タスクごとに補助科目が必要です。JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムは計画原価のみを使用するため、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価を使用する前に、プロジェクトを“見積承認”状況にする必要があります。

「プロジェクトの追加/改訂」フォームの「プロジェクト状況」タブには、プロジェクトの段階についての情報が表示されます。各段階を完了すると、「見積が承認済み」など、対応するオプションが選択された状態になります。このタブのオプションは参照用で、ユーザーが入力できないようにロックされています。

「オーダー情報」タブでは、品目番号、数量、および単位などのオーダー情報を指定できます。「受注オーダー」タブでは、プロジェクトの請求方法を指定できます。このプログラムでは、レポート用のカテゴリ・コードも必要に応じて使用できます。

プロジェクト情報を保存する際の技術的考慮事項

プロジェクト・ワークベンチ・プログラムを使用すると、プロジェクト情報を追加および変更できます。「保存して続行」または「保存して閉じる」をクリックせずにプロジェクト・ワークベンチ・プログラムを閉じると、追加または変更した情報は保存されません。システムのパフォーマンスを向上させるために、情報はキャッシュに保存されます。ただし、データがキャッシュにあるかぎり、該当するテーブルに情報が保存されません。プロジェクトの情報を保存するには、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムを閉じる前に「保存して続行」または「保存して閉じる」をクリックしてください。

プロジェクトの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
プロジェクトの検索	W31P001B	「プロジェクト・ワークベンチ」(G31P12)、「プロジェクト・ワークベンチ」	プロジェクトを作成します。既存のプロジェクトの検討、プロジェクトのコピー、およびプロジェクトの改訂を行います。
プロジェクトの追加/改訂	W31P011A	「プロジェクトの検索」フォームで「追加」を選択します。または、「プロジェクトの検索」フォームでプロジェクトを選択し、「ロー・アクション」フィールドから「属性」を選択します。	プロジェクトを作成します。プロジェクト見出し情報を定義または改訂します。
プロジェクト照会	W31P001F	「プロジェクトの検索」フォームでプロジェクトを選択し、「ロー・アクション」フィールドから「プロジェクト照会」を選択します。	プロジェクトの作業階層構造を検討します。

プロジェクト・ワークベンチ (P31P001) の処理オプションの設定

この処理オプションでは、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムのデフォルト処理を制御します。

デフォルト

この処理オプションでは、オーダー・タイプ、タスク、およびプロジェクト状況のデフォルト値を制御します。

1. **デフォルトのオーダー・タイプを入力してください。** プロジェクト・ワークベンチで新規タスクを作成するときに、デフォルト値として使用されるオーダー・タイプを指定します。
2. **新規タスクの開始状況を入力してください。** 非コンフィギュレーション品目の新規タスクを作成するときに、デフォルト値として使用される開始状況を指定します。
3. **コンフィギュレーション・タスクの開始状況を入力してください。** コンフィギュレーション・オーダーの新規タスクを作成するときに、デフォルト値として使用される開始状況を指定します。

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 4. 表示するデフォルトのプロジェクト開始状況を入力してください。 | プロジェクト処理のフォームの「開始状況」フィルタ・フィールドのデフォルト値を指定します。 |
| 5. 表示するデフォルトのプロジェクト終了状況を入力してください。 | プロジェクト処理のフォームの「終了状況」フィルタ・フィールドのデフォルト値を指定します。 |
| 6. 入力を展開するためのノード・レベルを入力してください。 | <p>プロジェクト・ワークベンチの入力時に展開する、プロジェクト・ワークベンチ階層グリッドのノード・レベルの数を指定します。値は次のとおりです。</p> <p>空白: プロジェクト・ワークベンチを2レベルに展開します。この値がデフォルト値です。</p> <p>任意の数値: プロジェクト・ワークベンチを指定したレベル数に展開します。たとえば、このフィールドに値「4」を入力すると、プロジェクト・ワークベンチの表示が4ノード・レベルに展開されます。</p> |

バージョン

この処理オプションでは、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムから他のプログラムを呼び出したときに使用されるバージョンを制御します。この表では、「バージョン」タブに表示される順序で、プログラムとそのデフォルト・バージョンがリストされています。この処理オプションを空白にすると、デフォルト・バージョンが使用されます。ビジネス・プロセスに応じて様々なバージョンを定義できます。

- | | |
|------------------------------|----------|
| 1. 製造作業オーダー入力 (P48013) | ZJDE0001 |
| 2. サービス作業オーダー入力 (P17714) | ZJDE0001 |
| 3. サービス作業オーダー入力 (P17714) | ZJDE0001 |
| 4. コンフィギュレータ (P3210) | ZJDE0001 |
| 5. 作業オーダー部品リスト (P3111) | ZJDE0001 |
| 6. 製造作業オーダーの作業工程 (P3112) | ZJDE0001 |
| 7. 設備作業オーダー部品リスト (P17730) | ZJDE0002 |
| 8. 設備作業オーダー労務詳細 (P17732) | ZJDE0002 |
| 9. サービス作業オーダーの部品リスト (P17730) | ZJDE0001 |
| 10. サービス作業オーダーの労務明細 (P17732) | ZJDE0001 |
| 11. 原価要素 (P30026) | ZJDE0001 |

12. プロジェクト見積り (P31P100)	ZJDE0001
13. 作業原価マスターの 改訂(P51006)	ZJDE0001
14. 作業原価予算のアップ ロード(R31P800)	ZJDE0001
15. 受注オーダー入力 (P4210)	ZJDE0001
16. 作業オーダー処理 (R31410)	XJDE0001
17. プロジェクト締切りアナ ライザ(R31P403)	ZJDE0001
18. 在庫出庫(P31113)	ZJDE0001
19. 作業時間/作業量の入 力/変更(P311221)	ZJDE0001
20. 作業オーダー完了 (P31114)	ZJDE0001
21. リソースの割当 (P48331)	ZJDE0001
22. プロジェクト情報のエク スポート(R31P404)	ZJDE0001
23. プロジェクト情報のイン ポート(R31P801)	ZJDE0001
24. 正味変更(R31430)	XJDE0001
25. 関連オーダー (P31P204)	ZJDE0001

処理

この処理オプションでは、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムの処理に影響する設定を制御します。

1. **タスクの取消状況を入力してください。** 取り消されたタスクの状況を指定します。「ロー」メニューから「タスクの取消」を選択すると、選択されたタスクがこの状況に移動されます。この状況のタスクには、取消し線が付きます。
2. **タスクの終了状況を入力してください。** 終了しているタスクの状況を指定します。「プロジェクト・ワークベンチ」フォームで、「ロー」メニューから「タスクの終了」を選択すると、選択されたタスクがこの状況に移動されます。この状況のタスクには、取消し線が付きます。
3. **正味変更** プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)を終了するときに、正味変更処理を実行するかどうかを指定します。部品リストおよび作業工程が添付されている作業オーダーにおいて、日付、数量、または単位などの情報を変更した場合、正味変更処理を実行する必要があります。「プロジェク

ト・ワークベンチ」フォームで「OK」をクリックすると、正味変更処理プログラム (R31430) が呼び出されます。値は次のとおりです。

ブランク: 実行しません。

1: 実行します。

注意: 部品リストおよび作業工程の情報を再計算するように、指定されたバージョンの製造作業オーダー入力プログラム (P48013) の「数量および日付」処理オプションを設定してください。

コピー

この処理オプションでは、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムのコピー機能を制御します。

1. **作業マスターの作成**

プロジェクトを追加またはコピーするときに、作業マスター・レコードを作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

1: 作成します。

ブランク: 作成しません。
2. **金額元帳タイプ**

更新する金額元帳タイプを指定します。ブランクの場合、JA元帳が更新されます。更新される予算数量元帳タイプは、金額元帳タイプに基づいて、自動的に決定されます。たとえば、金額元帳タイプJAに対応する予算数量元帳タイプはJUになります。
3. **非表示モードでのコピー**

勘定科目表のコピーを自動または対話形式のどちらで行うかを指定します。対話形式で勘定科目表をコピーする場合、「フォーム」メニューのオプションを使用します。自動的に勘定科目表をコピーするよう指定した場合、作業マスター・レコードが作成された後にコピーが行われます。作業にコピーする元のデータを定義する必要があります。値は次のとおりです。

ブランク: 自動的にコピーされません。

1: コピーします。
4. **作業のソースのコピー、**
5. **コピー元の作業、** 6. **コピー元の勘定科目表**

コピーする作業のデータ・ソースを指定します。既存の勘定科目表からデータをコピーする場合、「コピー元の勘定科目表」処理オプションに勘定科目表の名前を入力する必要があります。既存の作業からデータをコピーする場合、「コピー元の作業」処理オプションに作業の名前を入力する必要があります。値は次のとおりです。

1: 既存の勘定科目表から作業データをコピーします。

ブランク: 既存の作業から作業データをコピーします。
7. **当初予算のアップロード**

「作業原価予算のロック」オプションを選択した場合に、当初予算を自動的にアップロードするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 手作業でアップロードします。

1: 自動的にアップロードします。
8. **補助科目の割当**

親タスクからすべての子タスクに補助科目を自動的に割り当てるかどうかを指定します。子タスク行の「補助科目」フィールドがブランクの場合のみ、自動割当を使用できます。値は次のとおりです。

ブランク: 自動的に割り当てません。

1: 自動的に割り当てます。

- 9. 新規プロジェクトのコストのコピー** 既存のプロジェクトをコピーして新規プロジェクトを作成する場合の原価のコピー元を指定します。コピーされた原価は、新規プロジェクトの見積原価のフィールドに入力されます。値は次のとおりです。
- 空白: 見積原価を見積にコピーします。
- 1: 実際原価を見積にコピーします。

スケジュール

この処理オプションでは、プロジェクトのスケジュールを制御し、凍結作業オーダーの日付を修正可能にするかどうかを指定します。

- 1. 凍結作業オーダー日付の修正** 凍結した作業オーダーの日付を修正できるようにするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- 空白: スケジュール機能では、作業オーダーの日付が調整されません。
- 1: スケジュール機能では、必要に応じて、凍結した作業オーダーの日付が再スケジュールされます。
- 2. スケジュール・エラー・レポートの表示** スケジュール・エラーの原因となったスケジュール・データを示すレポートを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
- 空白: エラー・レポートを表示しません。
- 1: レポートを表示します。

プロジェクトの作成

「プロジェクトの追加/改訂」フォームにアクセスします。

プロジェクト情報

「プロジェクト情報」タブを選択します。

プロジェクト・ワークベンチ - プロジェクトの追加/改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

プロジェクトNo. 452576

記述 * SAR7632369

タブを選択: 1-プロジェクト情報

プロジェクト情報

事業所	M30	Eastern Manufacturing Center	
ビジネスユニット	P30	EPM Project	<input type="checkbox"/> 一括適用
顧客	4242	Capital System	
状況	10	オーダー検討済み	
オーダー・タイプ	ET	設計/オーダー	

「プロジェクトの追加/改訂」フォーム: 「プロジェクト情報」タブ

事業所

上位レベルのビジネスユニットを表すコードを入力します。このコードでは、下位レベルのビジネスユニットである部門または作業を持つ事業所を表します。次に例を示します。

事業所 (MMCU)、部署A (MCU)

部署B (MCU)

作業123 (MCU)

ビジネスユニット・セキュリティは、上位レベルのビジネスユニットに基づいています。

ビジネスユニット

ビジネスユニットを入力します。「ビジネスユニット」フィールドは、ビジネスユニットのデフォルト値です。JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムを使用する場合、「ビジネスユニット」フィールドに作業番号を入力します。

顧客

プロジェクトの顧客のIDを入力します。

状況

プロジェクト状況を入力します。

オーダー・タイプ

プロジェクトを表す伝票タイプを識別するユーザー定義コード(UDC) (00/DT)を入力します。ほとんどのユーザーにとって、このコードはET(集計タスク)になります。

日付

「日付」タブを選択します。

計画開始、計画終了

プロジェクトの計画日付範囲を入力します。

既存のプロジェクトをコピーして新規プロジェクトを作成した場合、このフィールドは空白になります。これらのフィールドに、プロジェクトの情報を入力する必要があります。

実際開始、実際終了

プロジェクトの実際日付範囲を入力します。プロジェクト見出しの「実際開始」および「実際終了」の日付フィールドは、プロジェクトの情報を基に更新されます。これは、タスクの実際開始/終了日付が、プロジェクトの実際開始/終了日付とまとめられるためです。

その他日付5、その他日付6

これらのフィールドには、プロジェクトに関連する日付を入力します。この情報はレポート用に使用できます。これはユーザー定義の日付です。

担当者

「担当者」タブを選択します。

管理者

管理者または計画担当者の住所録番号を入力します。

監督者

監督者の住所録番号を入力します。

担当者

作業を行うように割り当てられた担当者の住所録番号を入力します。

配布リスト

親会社の住所録番号を入力します。この番号は、特定の住所を親会社または所在地と関連付けるために使用されます。このフィールドに入力した値は、住所録組織構造マスター(F0150)で構造タイプが空白のレコードを更新します。検証目的で住所録マスター(F0101)に親住所番号が含まれている住所録レコードの例として、次のものがあります。

- 親会社のある子会社
- 本社のある支店
- 請負業者の作業現場

組織構造タイプ

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne住所録システムに独自の階層を持つ組織構造のタイプ(電子メールなど)を指定するには、ユーザー定義コード(01/TS)を入力します。

プロジェクト属性

「プロジェクト属性」タブを選択します。

プロジェクト・ワークベンチ - プロジェクトの追加/改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

プロジェクトNo. 452576

記述 * SAR7632369

タブを選択: 4-プロジェクト属性

コミットメントのタイミング

見積一時変更フラグ

「プロジェクトの追加/改訂」フォーム: 「プロジェクト属性」タブ

コミットメントのタイミング

プロジェクト作業オーダーに部品リストを添付する場合、プロジェクトにおいて在庫を引き当てる段階を指定する場合に選択します。このオプションを選択すると、見積承認後に在庫が引き当てられます。選択を解除すると、見積承認前に在庫が引き当てられます。

見積一時変更フラグ

オーダーに部品リストおよび作業工程を添付する場合、見積原価を計画原価で一時変更するかどうかを指定する場合に選択します。

見積り原価

「見積り原価」タブを選択します。

資材、労務

プロジェクト・レベルの資材および労務の原価見積を入力します。

重要: プロジェクトの見積原価を入力すると、入力した原価がプロジェクト・ワークベンチの集計原価フィールドに加算されます。

その他

その他の見積原価を入力します。

特殊数量、特殊金額

プロジェクト・レベルの特殊数量または特殊金額の概算を入力します。

合計

入力した各種原価から計算されたプロジェクトの原価合計が表示されます。

作業原価

「作業原価」タブを選択します。

作業原価I/F プロジェクトでJD Edwards EnterpriseOne作業原価システムの機能を使用できるようにする場合に選択します。

活動コードの設定 活動コードの任意入力を可能にする場合に選択します。

プロジェクト元帳クラス・コード 予算、コミットメント、および実績をプロジェクト勘定科目にアップロードするときに使用される相手勘定を識別するユーザー定義コード(41/9)を入力します。

補助科目 主科目の中の区分を入力します。補助科目には、主科目に関する会計処理の詳細レコードが含まれます。

注意: 補助科目を使用する場合、補助科目はすべての行にデフォルトで表示されます。

注意: 任意勘定科目表を使用し、主科目コードが6桁に設定されている場合、6桁すべてを使用する必要があります。たとえば、「000456」と入力することと「456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6桁を埋めるために自動的にスペースが3つ追加されます。

プロジェクト状況

「プロジェクト状況」タブを選択します。

このタブのフィールドは、プロジェクト状況に基づいて自動的に入力されます。このタブのフィールドは変更できません。次のプロジェクト状況が表示されます。

- 見積が承認済み
- 作業原価予算アップロード・フラグ
- 作業原価予算のロック
- WBSのロック
- プロジェクト終了

オーダー情報

「オーダー情報」タブを選択します。

品目No. プロジェクトの品目番号を入力します。

数量 このトランザクションの影響を受ける数量を入力します。

単位 品目の単位を入力します。

タイプ プロジェクトのオーダー・タイプを入力します。

優先度 プロジェクトの相対的優先度を示すユーザー定義コード(00/PR)を入力します。

凍結コード プロジェクトを凍結するかどうかを示すコードを入力します。値は次のとおりです。

Y: プロジェクトを凍結します。

N: プロジェクトを凍結しません。これがデフォルト値です。

このフェーズを出荷

プロジェクト・タスクの受注オーダー行を生成できるようにするかどうかを指定するには、このオプションを選択します。プロジェクト所要量計画 (PRP) で、プロジェクト固有の所要量を展開するときこの値が使用されます。値は次のとおりです。

ブランク: 生成しません。

1: 生成します。

カテゴリ

「カテゴリ」タブを選択します。

プロジェクトをさらに詳しく定義する場合、必要に応じて、カテゴリ・コード・フィールドを入力します。

受注オーダー

「受注オーダー」タブを選択します。

プロジェクト請求方法

プロジェクトで使用する請求方法を指定します。値は次のとおりです。

1: 受注管理

2: 契約請求

3: サービス請求

オーダーNo.、オーダー・タイプ、オーダー会社

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムで入力された受注オーダーの情報が表示されます。

プロジェクトとプロジェクト・タスクの処理

この項では、プロジェクトおよびプロジェクト・タスクの概要と次の方法について説明します。

- プロジェクト・クエリーの処理
- プロジェクトのロック解除
- プロジェクトの処理
- プロジェクト・タスクの追加と改訂

プロジェクトについて

プロジェクトを設定した後、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムにアクセスして、プロジェクトの詳細と要件を定義します。「プロジェクトの検索」フォームで、フォームの見出し部分に検索条件を入力するか、クエリーを使用して、プロジェクトを検索します。将来のプロジェクト検索で使用できるように、クエリーを保存し、編集できます。

プロジェクトを検索して選択した後、3つのモードを使用してプロジェクトを処理できます。

- 表示モード: これは照会専用モードです。

プロジェクトまたはプロジェクトのタスクを編集することはできません。

- タスクの編集モード: これは変更モードです。

修正したレコードに対してのみ、レコード予約が設定されます。また、別のユーザーまたはアプリケーションによってロックされているレコードは編集できません。

- すべてのタスクの編集/ロック・モード: これは変更モードです。

プロジェクトがロックされるため、プロジェクト内のすべてのレコードがロックされます。このモードは、主にスケジューリングのために使用されます。すべてのレコードがロックされるため、このモードを終了するまで、他のアプリケーションまたはプログラムはすべてのレコードにアクセスできません。プロジェクト内のすべてのオーダーがそのプロジェクトによって予約されるため、スケジューリングを実行できます。

プロジェクトとモードを選択した後、作業オーダーのタスクがワークベンチ外でロックされている場合には、タスクの編集モードまたはすべてのタスクの編集/ロック・モードで「ロックされたレコードのリスト」フォームが表示されます。タスクの編集モードでは、レコードが他のアプリケーションまたはユーザーによってロックされている場合、プロジェクトの処理は続行できますが、ロックされたレコードにアクセスして処理を行うことはできません。「ロックされたレコードのリスト」フォームには、オーダー番号、プロジェクト番号、プログラムID、およびレコードをロックしたユーザー名が表示されます。ワークベンチでは、ロックされたレコードは、タスクの編集モードでローにロック記号が表示されます。

プロジェクト・ワークベンチでは、階層グリッド(親/子グリッド)でプロジェクト・タスクを編集できます。階層グリッドは、ツリーとグリッドの各機能を1つのフォームにまとめたものです。プロジェクト・ワークベンチ内で、タスクのインデント、アウトデント、上下移動、挿入、切取り、コピーおよび貼付けを行うことができます。「プロジェクト・ワークベンチ」フォームには、論理的に関連しているフィールドをグループにまとめるタブもあります。

プロジェクトの処理、タスクの処理、プロジェクトの終了などの任意のレポートを実行すると、データが保存され、ユーザーの確認後にワークベンチが終了します。

プロジェクト・タスクについて

プロジェクトを設定し終わったら作業階層構造(WBS)を作成します。WBSはプロジェクトで完了するタスクおよびサブタスクの階層構造を示します。また、プロジェクト・スケジュールなど、プロジェクトの計画および実行を可能にするすべての明細情報を追加できます。処理には使用しない参照用のリソース情報も入力できます。最後に、顧客への見積を生成するための原価の見積を追加できます。

プロジェクト記述や事業所、計画開始日付および計画終了日付などプロジェクトの見出しレコードの設定が終わったら、プロジェクトを完了するために必要なステップとなる個々のタスクをプロジェクトに追加できます。プロジェクトを構成するタスクのグループを、作業階層構造(WBS)といいます。WBSがロックされていなければタスクを追加できます。WBSをロックすると、プロジェクトの追加/改訂プログラム(P31P011)の「プロジェクト状況」の「WBSのロック」オプションが自動的に選択されます。

顧客への見積を準備するためにプロジェクトを設定する際、概略または集計タスクのみを追加すると、プロジェクトの完了に必要なステップを識別できると同時にタスクに関連する原価も入力できます。この方法を使用すると、顧客から実際に受注する前に必要以上に労力を使うことなく見積金額を確定できます。ただし、ビジネスの要件や慣行によって、タスクを追加する段階やタスク構造の詳細レベルが決まります。プロジェクトへのタスクの追加方法は、追加のタイミングにかかわらず同じです。作業階層構造(WBS)には、必要なだけ下位レベルを追加できます。タスクの入力時には、作業オーダー・マスター(F4801)に各タスクのレコードが作成され、親の作業オーダー番号としてプロジェクト番号が割り当てられます。新規のタスクは、既存のプロジェクトからコピーするか、新しいタスク情報を入力して作成できます。タスクはWBSの中で移動したり、取り消すことも可能です。

ワークベンチの詳細グリッドにタスクを追加する際は、オーダー・タイプを指定してください。設備保守またはサービス・オーダーのタスクをプロジェクトに追加すると、このタスクがモデル作業オーダーとなります。モデル作業オーダーからは、割り当てられた保守オーダーまたはサービス・オーダーが生成され、それらがプロジェクト・ワークベンチ・プログラム (P31P001) に読み込まれます。コンフィギュレーション作業オーダー (在庫タイプC) を含むタスクを追加すると、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムは、コンフィギュレーション品目の改訂プログラム (P3210) を呼び出して品目のコンフィギュレーションを完了します。続いて、コンフィギュレーションに必要な新規の作業オーダーがすべて作成され、子タスクとしてコンフィギュレーション品目に追加されます。

処理オプションを使用して、WBSに追加するタスクのデフォルト値を設定することもできます。たとえば、処理オプションにより、新しいタスクのオーダー・タイプと開始状況のデフォルト値を設定できます。また、プロジェクトのツリーを自動的に展開して、タスクの階層が表示されるように指定できます。

「プロジェクト・ワークベンチ」フォームでは、タスクの編集モードまたはすべてのタスクの編集/ロック・モードでタスクのコピー、移動、削除が行えます。既存のプロジェクトからWBSにタスクをコピーできます。タスクを移動するには、切り取りおよび貼付け機能、インデント/アウトデント、または上矢印と下矢印を使用できます。

プロジェクト原価

プロジェクトのWBSを作成する上で重要な点は、プロジェクトの合計原価を計算できるように、各プロジェクト・タスクに見積原価を割り当てることです。正確な原価の情報を入手することは、精度の高いプロジェクト予算を作成し、顧客に価格見積を提供するための必要条件です。JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産では、見積、計画、予算、実際の原価をトラッキングします。

製造タスクの計画原価を入手するには、作業オーダーに対してオーダー処理プログラム (R31410) を実行することにより、作業オーダーに部品リストと作業工程指示を添付する必要があります。

注意: オーダー処理プログラムは、個々の作業オーダーまたはプロジェクト全体に対して実行できます。この機能にアクセスするには、適切なタスクまたはプロジェクトのアクションを使用してください。

この時点でプロジェクトに在庫を割り当てずにこの処理を実行することにより、WBSの原価情報が得られるようプロジェクト属性で指定できます。最新の原価情報を入手するために、以前に入力した見積原価を計画原価で一時変更することも可能です。計画原価カラムではなく、見積原価カラムの情報から見積を作成する場合、次の作業を実行する必要があります。

原価情報を入手するには、次の処理を実行してください。

- プロジェクト属性で、該当するオプションを選択します。
- 「プロジェクト・ワークベンチ」フォームの「タスク・アクション」フィールドで、「見積の一時変更」を選択します。

「プロジェクト・ワークベンチ」フォームでは、実際原価の入力または変更は行えません。実際原価のワークベンチへの積上げプログラム (R31P301) を実行すると、作業オーダーの時間入力プログラム (P311221) で労務費を入力するときなど、プロジェクトの進行に従って入力された原価データから実際原価が更新されます。予算原価は、単一の「計画原価」カラムとして表示されます。プロジェクト・ワークベンチ・プログラム (P31P001) で見積を受け入れると、合計見積原価がこのフィールドにコピーされます。

これらすべての原価は、F4801テーブルと作業オーダー・マスター・タグ・テーブル (F4801T) に保存されます。

リソースとタスクの割当

プロジェクト・ワークベンチ・プログラム (P31P001) を使用して、プロジェクト管理者は、WBSのタスクにリソースを入力できます。この機能を使用すると、プロジェクト管理者は、製造タスクおよびプロジェクトに割り当てられたリソースを参照できます。一方、従業員は、自分に割り当てられたタスクや、タスクの開始日付および終了日付を参照できます。必要に応じてタスクに複数のリソースを割り当て、タスクを完了するのに必要な時間をカバーすることもできます。

リソース割当情報の設定とリソース割当の実行は、リソース割当プログラム (P48331) で行います。リソースを割り当てた後、「プロジェクト・ワークベンチ」フォームの「タスク・アクション」フィールドで「リソース」を選択すると、タスク・レベルでリソースを検討できます。製造作業オーダーの場合は、作業工程からリソースの割当プログラムにアクセスします。

プロジェクトとプロジェクト・タスクの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
プロジェクトの検索	W31P001B	「プロジェクト・ワークベンチ」(G31P12)、「プロジェクト・ワークベンチ」	「プロジェクトの検索」フォームで、フィルタ・フィールドに値を入力し、「検索」ボタンをクリックします。 または、「クエリーの選択」フィールドからクエリーを選択して、「検索」ボタンをクリックします。 新規プロジェクトの追加、既存プロジェクトの検討、選択およびコピーを行います。
すべてのタスクの表示	W31P001I	「プロジェクトの検索」フォームでプロジェクトを選択し、「すべてのタスクの表示」ボタンをクリックします。	関連するプロジェクト情報がすべて表示されます。これは照会専用モードです。
タスクの編集	W31P001I	「プロジェクトの検索」フォームでプロジェクトを選択し、「タスクの編集」ボタンをクリックします。	別のユーザーによってロックされていないプロジェクト・タスクを編集します。 注意: プロジェクトに関連付けられている作業オーダーがワークベンチ外でロックされている場合は、「ロックされたレコードのリスト」フォームが表示されます。ワークベンチ内でこれらのレコードを処理することはできません。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
すべてのタスクの編集/ロック	W31P001I	「プロジェクトの検索」フォームでプロジェクトを選択し、「すべてのタスクの編集/ロック」ボタンをクリックします。 「ETOプロジェクト・ワークベンチ-すべてのタスクの編集/ロックの警告」(W31P001O)で、「すべてのタスクの編集/ロック」を選択して続行します。	プロジェクト・タスクの編集中にワークベンチ全体をロックします。 注意: 「すべてのタスクの編集/ロック」は、主にスケジューリングのために使用されます。 注意: プロジェクトに関連付けられている作業オーダーがワークベンチ外でロックされている場合は、「ロックされたレコードのリスト」フォームが表示されません。ワークベンチ内でこれらのレコードを処理することはできません。
タスク追加情報	W31P001D	「プロジェクト・ワークベンチ」フォームで、タスクの編集モードまたはすべてのタスクの編集/ロック・モードでタスクを選択し、「タスク・アクション」フィールドから「追加情報」を選択します。	プロジェクトにカテゴリ・コード情報を追加します。

プロジェクト・クエリーの処理

「プロジェクトの検索」フォームにアクセスします。

クエリーを作成して保存するには、次の手順に従います。

1. プロジェクト・クエリーの見出しで使用する情報を定義します。
2. 「クエリーの保存」ボタンをクリックします。
3. 「クエリーの保存」フォームで、該当するフィールドに値を入力して「保存」をクリックします。

既存のクエリーを編集または削除するには、次の手順に従います。

1. 「クエリーの編集」ボタンをクリックします。
2. 「クエリーの編集」フォームでクエリーを選択し、選択したクエリーを削除する場合は「削除」ボタンをクリックし、既存のクエリーを改訂する場合は「編集」ボタンをクリックします。

プロジェクトのロック解除

「プロジェクトの検索」フォームにアクセスします。

注意: このオプションは、停電やシステム・クラッシュなど、重大なシステム障害が発生した場合にのみ使用してください。ユーザー・レベルでセキュリティを有効にし、ユーザーがこのオプションにアクセスできないようにしてください。

プロジェクトのロックを解除するには、次の手順に従います。

1. 「プロジェクトの検索」フォームでプロジェクトを選択します。

2. 「ロー・アクション」フィールドから「ロック解除」を選択します。
3. プロジェクトのロックが解除されます。

プロジェクトの処理

「タスクの編集」フォームまたは「すべてのタスクの編集/ロック」フォームにアクセスします。

プロジェクト・ワークベンチ - タスクの編集 i ?

プロジェクトNo. EPM Project 1 顧客No.
 見積原価 予算原価 計画原価 実際原価

前進スケジュール プロジェクト・アクション
 逆算スケジュール

基本 | 財務計画 | 財務実績 | **スケジュール明細** | オーダー明細

タスク・アクション

レコード 1-7 [すべて展開](#) | [すべて縮小](#) グリッドのカスタマイズ + + +

<input type="checkbox"/>	記述 *	事業所	タスク No.	タスク タイプ	品目 No.	オーダー 数量	単位	タスク 状況	出荷可能
<input checked="" type="checkbox"/>	EPM Project 1	M30	452576	ET				05	0
<input type="checkbox"/>	Project Start	M30	452584	ET				05	0
<input type="checkbox"/>	Engineering	M30	452592	ET				05	0
<input type="checkbox"/>	Procurement	M30	452605	ET				05	0
<input type="checkbox"/>	Manufacturing	M30	452613	ET				05	0
<input type="checkbox"/>	QA Review	M30	452621	ET				05	0
<input type="checkbox"/>	Project Close	M30	452630	ET				05	0

「タスクの編集」フォーム

注意: 「プロジェクト・アクション」フィールドで使用可能なオプションは、モードによって異なります。

「プロジェクト・アクション」フィールドから値を選択します。

プロジェクトの処理

オーダー処理プログラム (R31410) を実行して、プロジェクトのオーダーを処理します。

見積

プロジェクトの見積を作成します。

見積承認

プロジェクトの見積を承認します。

WBSの凍結 (作業階層構造の凍結)

プロジェクトの作業階層構造を凍結します。

プロジェクトの終了

プロジェクトを終了します。

タスクのコピー	「プロジェクト・ワークベンチ」フォームで選択されたタスクをコピーします。
原価の累計	ワークベンチ内の関連オーダーの原価を更新します。
作業原価予算の凍結	プロジェクトの作業原価予算を凍結します。
ホストからのインポート	プロジェクトの作業階層構造をインポートします。
ホストからのエクスポート	プロジェクトの作業階層構造をエクスポートします。
従属関係	プロジェクトのタスクの従属関係を定義または改訂します。

これらのタスクで「タスクの編集」フォームの各領域を検討できます。

参照: [第 4 章、「プロジェクトの立上げ」、「タスクの従属関係の定義」、55ページ](#)

参照: [第 5 章、「受注設計生産でのプロジェクト・プランニングの利用」、「プロジェクトの関連オーダーの検討および作成」、76ページ](#)

プロジェクト・タスクの追加と改訂

「タスクの編集」フォームまたは「すべてのタスクの編集/ロック」フォームにアクセスします。

「上に挿入」、「下に挿入」、「子の挿入」および「削除」ボタンを使用して、タスクを追加、改訂または削除します。

タスクを選択して、「タスク・アクション」フィールドから値を選択します。

リソース	作業オーダー詳細、労務詳細、タスクの担当者など、プロジェクトのリソースを表示します。
見積の一時変更	プロジェクトのタスクの見積を一時変更します。
作業オーダーの添付	タスクに対してオーダー処理プログラム (R31410) を実行します。
追加情報	「タスク追加情報」フォームで、プロジェクトにカテゴリ・コード情報を追加します。
原価要素	原価要素を処理して、タスクの原価を変更します。

次の各タブに、プロジェクト・タスク情報を入力します。

基本

「基本」タブを選択します。

基本 財務計画 財務実績 スケジュール明細 オーダー明細									
タスク・アクション -- 1つ選択 --									
レコード 1-7 すべて展開 すべて縮小 グリッドのカスタマイズ									
記述 *	事業所	タスク No.	タスク タイプ	品目 No.	オーダー 数量	単位	タスク 状況	出荷可能	
☑ EPM Project 1	M30	452576	ET				05	0	
○ Project Start	M30	452584	ET				05	0	
○ Engineering	M30	452592	ET				05	0	
○ Procurement	M30	452605	ET				05	0	
○ Manufacturing	M30	452613	ET				05	0	
○ QA Review	M30	452621	ET				05	0	
○ Project Close	M30	452630	ET				05	0	

「タスクの編集」フォーム: 「基本」タブ

- 記述** プロジェクトまたはプロジェクト・タスクの名前または記述を入力します。
- 品目 No.** プロジェクト・タスクに関連付けられている品目の品目番号を入力します。このフィールドは、タスクが製造作業オーダーで構成されている場合に使用します。
- オーダー数量** 品目の数量を入力します。このフィールドは、タスクが製造作業オーダーで構成されている場合に使用します。
- 単位** 在庫品目の数量単位を示すユーザー定義コード(00/UM)の値を入力します。たとえば、ケース単位の場合は「CS」、箱単位の場合は「BX」と入力します。このフィールドは、タスクが製造作業オーダーで構成されている場合に使用します。
- タスク状況** 作業オーダー、レート・スケジュール、設計変更オーダーの状況を表すユーザー定義コード(00/SS)のコードを入力します。状況が90から99までの値に変更されると、完了日付が自動更新されます。
- 出荷可能** プロジェクト・タスクの受注オーダー行を生成するかどうかを指定します。プロジェクト所要量計画で、プロジェクト固有の所要量を展開するときこの値が使用されます。プロジェクト・タスクは、最上位の製造作業オーダーである必要があります。半組立品、サービスまたは集計作業オーダーから受注オーダー行を生成することはできません。値は次のとおりです。
- 空白: 受注オーダー行を生成しません。
- 1: 受注オーダー行を生成します。
- 警告** 警告を送信するかどうかを指定するコードを入力します。警告とは、ビジネス・プロセスに対する例外が発生したことを通知するメッセージです。警告は、住所録でプロジェクト管理者に指定されているユーザーに対して送信されます。警告の重大度は、組織の必要に応じて指定できます。警告が使用されるアプリケーションとして、次のものがあります。
- 保証請求/仕入先回収処理 (P174801Z)
 - EPMプロジェクト・ワークベンチ (P31P001)

- プロジェクトの追加/改訂 (P31P011)
- 作業オーダー改訂 (送信) (P4801Z1)
- 保証請求/仕入先回収処理 (P4801Z2)

値は次のとおりです。

0: 警告を送信しません。

1: 警告を送信します。

事業所、担当者、監督者、管理者

プロジェクト見出しに情報が入力されている場合、その値が表示されます。

財務計画

「財務計画」タブを選択します。

見積資材、見積労務、その他見積、見積特殊数量、見積特殊金額

プロジェクトの見積原価を入力します。見積原価の入力方法は、集計タスクと製造作業オーダー・タスクのどちらについて原価を入力するかによって異なります。

集計タスクの場合、製造原価が使用されないため、このフォームで原価を手作業で入力します。

作業オーダー・タスクについても、見積原価を手作業で入力できます。ただし、作業オーダーの品目が標準原価品目 (原価計算方法07) であり、その品目に標準原価が存在する場合、これらの値をデフォルトとして使用できます。WBSで作業オーダー・タスクを入力する際、利用可能な標準原価の値が見積原価フィールドに自動的に入力されます。プロジェクトに定義した原価の分類体系に応じて、原価のフィールドに原価が割り当てられます。

入力した原価は、フォーム上部にある「集計原価」グループ・ボックスの「見積」フィールドに集計されます。

見積合計、計画合計

タスクの見積合計原価と計画合計原価を入力します。

計画資材、計画労務、計画その他、計画特殊数量、計画特殊金額

資材費、労務費、その他費用など、タスクの計画原価が表示されます。計画その他原価は、作業オーダー・マスター・タグ・テーブル (F4801T) に保存されます。

見積の承認後にタスクに対して設定された特殊数量が表示されます。

見積の承認後にタスクに対して計画された特殊金額を指定します。

計画原価を手作業で入力するか、またはオーダー処理プログラム (R31410) を実行してシステムにより計画原価を計算します。原価を手作業で入力してからオーダー処理プログラムを実行して部品リストと作業工程を作業オーダーに添付すると、その結果の原価情報によって「プロジェクト・ワークベンチ」フォームで入力した計画原価情報が上書きされます。

部品リストと作業工程を作業オーダーに添付して、最新の単位当たりの原価や労務、段取、機械稼働レートを読み込み、「プロジェクト・ワークベンチ」フォームの計画原価のフィールドに積み上げます。これらの単位当たりの原価とレートを、作業オーダー部品リスト (P3111) プログラムおよび作業オーダー作業工程指示 (P3112) プログラムで手作業で一時変更できません。原価を変更すると、計画原価が更新されます。

見積を承認する段階で計画原価のフィールドが空白の場合、見積原価のフィールドを基に計画原価のフィールドを更新できます。

様々なソースから入力または読み込んだ原価は、親オーダーのレベルに積み上げられます。これは、親が製造作業オーダーでも記述タスクの場合でも同じです。親レベルで入力した原価は、「集計原価」グループ・ボックスの「計画」フィールドに集計されます。

財務実績

「財務実績」タブを選択します。

請求先

原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、事業体、または個人に割り当てて、管轄別のレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別の未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの設備をトラッキングできます。ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報が表示されない場合があります。

補助科目

主科目の中の区分を入力します。補助科目には、主科目に関する会計処理の詳細レコードが含まれます。

予算

タスクに割り当てられている合計予算金額が表示されます。

実績資材費、実績労務費、その他実績、実績特殊金額

プロジェクトの実行によって生じる実際原価が表示されます。「プロジェクト・ワークベンチ」フォームでは、これらの値を変更できません。

実績合計

作業の実績金額が表示されます。表示される金額は、実績金額(AA)元帳から取得されます。このフィールドは参考情報としてのみ使用されます。

見積合計

タスクの見積合計原価を入力します。

計画合計

タスクの計画合計原価を入力します。

スケジュール明細

「スケジュール明細」タブを選択します。

期間

集計タスクの期間を入力します。作業オーダーのタスクについては、品目の標準リードタイムを使用してタスクの期間が計算されます。

注意: 標準リードタイムは、購買品目と製造品目で異なります。

購買品目の場合は、仕入先が購買オーダーを受け取ってから事業所に品目が到着するのに必要なカレンダー日数になります。

製造品目の場合は、すべての構成部品が入荷してから品目の製造または組立に必要な作業日数になります。

標準リードタイムは、事業所品目プログラムで手作業で入力するか、またはリードタイム積上げプログラムを使用して計算できます。リードタイム積上げプログラムを使用して標準リードタイムを計算するには、最初に事業所品目テーブル(F4102)の製造リードタイム数量フィールドに値を入力する必要があります。

後続	別のタスクが開始または終了するまで開始または終了できないタスクを入力します。
固定タスク・タイプ	<p>スケジューリングするタスクのタイプを示すユーザー定義コード(31P/TT)の値を入力します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 非固定。この値がデフォルト値です。</p> <p>1: 固定タスク。</p>
オーダー明細	
「オーダー明細」タブを選択します。	
作業オーダータイプ	作業オーダーまたは設計変更オーダーの分類を表すユーザー定義コード(00/TY)の値を入力します。作業オーダー承認の選択基準として作業オーダー・タイプを使用できます。
凍結コード	<p>オーダーの行が凍結しているかどうかを示すコードを入力します。MPSおよびMRPでは、凍結したオーダーに対する変更は提示されません。値は次のとおりです。</p> <p>Y: オーダーは凍結しています。</p> <p>N: オーダーは凍結していません。これがデフォルト値です。</p>
完了%	勘定科目、作業オーダーなどの項目に対する処理の進捗を表す測定値を入力します。このフィールドは、手作業で更新します。
リソース割当て	<p>プロジェクト・タスクにリソースが割り当てられているかどうかを示すコードを入力します。値は次のとおりです。</p> <p>0: プロジェクトにリソースが割り当てられていません。</p> <p>1: プロジェクトにリソースが割り当てられています。</p>
優先度	作業オーダーの他のオーダーに対する相対的優先度を表すユーザー定義コード(00/PR)を入力します。一部のフォームの処理オプションでは、このフィールドのデフォルト値を入力できます。値は自動的に、関連フォームおよび「プロジェクトの設定」フォームで作成した作業オーダーの該当フィールドに表示されます。デフォルト値は、そのまま使用するか、一時変更できます。
部品表タイプ	<p>部品表のタイプを示すユーザー定義コード(40/TB)を入力します。用途に応じて、様々な部品表のタイプを定義できます。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • M: 標準製造用部品表 • RWK: 再作業部品表 • SPR: 予備部品用部品表 <p>部品表タイプMは、別の部品表タイプを指定しないかぎり、作業オーダーの作成時に作業オーダー見出しに入力されます。作業オーダー部品リストの作成時に、作業オーダー見出しの部品表タイプ・コードが読み込まれ、使用する部品表が特定されます。MRPでは、部品表タイプ・コードを使用して、MRPメッセージを添付する際に使用する部品表が識別されます。製造現場管理、製造原価計算、およびMRP処理では、バッチ部品表のタイプにMを指定する必要があります。</p>

作業工程タイプ	<p>作業工程のタイプを示すユーザー定義コード(40/TR)の値を入力します。用途に応じて、様々な作業工程指示のタイプを定義できます。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • M: 標準製造工程 • RWK: 再作業工程 • RSH: 簡易工程 <p>工程タイプは、作業オーダー見出しに定義します。作業オーダーの作業工程で定義した作業工程のタイプが使用されます。オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne製造原価計算システムとオラクル社のJD Edwards EnterpriseOne能力所要量計画システムでは、Mタイプの作業工程のみが使用されます。</p>
資産No.	資産を一意に識別する8桁の番号を入力します。
資産勘定科目	<p>総勘定元帳の勘定科目を識別する値を入力します。勘定科目コードの入力には、次のいずれかの形式を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 標準勘定科目コード(ビジネスユニット.主科目.補助科目または任意形式)。 • 第3勘定科目(最大25桁)。 • 略式ID。8桁の数字です。 • スピード・コード(AAI項目SPに付ける2文字のコード)。勘定科目コードのかわりにこのコードを入力できます。 <p>最初の文字は勘定科目コードの形式を示します。勘定科目コードの形式は、一般会計固定情報で定義します。</p>
ユニットNo.	<p>資産の代替識別番号として使用されるコード番号を、12桁の英数字で指定します。この番号は必須ではないため、資産の追加時にこのフィールドを空白にしても、自動的に割り当てられることはありません。この番号を使用するには、他の資産と重複しない番号を指定する必要があります。資産が設備の場合は、通常はシリアル番号を使用します。</p>
シリアルNo.	<p>資産の代替識別番号として使用する番号を、25桁の英数字で指定します。場合によっては、この番号を使用して、製造業者のシリアル番号で資産をトラッキングできます。シリアル番号を使用して資産を識別することは必須ではありません。入力するシリアル番号は、それぞれ固有である必要があります。</p>
関連項目:	<p>JD Edwards EnterpriseOne コンフィギュレータ 9.0 製品ガイド、「コンフィギュレーション品目の使い方」、「受注設計生産におけるコンフィギュレーション品目作業オーダーの変更」</p>

プロジェクト・タスクのスケジューリング

この項では、プロジェクト・タスクのスケジューリングの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- タスクの従属関係の定義

- プロジェクトのスケジューリング

プロジェクト・タスクのスケジューリングについて

特定の期間にプロジェクトを問題なく管理するには、プロジェクト管理者はプロジェクトを完了するのに必要な製品を購入または製造する時間を正確に反映したプロジェクトのスケジュールを作成する必要があります。今日のビジネス環境では、効率的な時間とリソースの管理が非常に重要です。したがって、JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産では、次の操作を行えます。

- タスクの従属関係や固定タスク、リソースの利用状況など、標準的なプロジェクトの制約を使用して、プロジェクトのスケジュールを作成します。
- Microsoft Project へのインポートまたはエクスポート

プロジェクトのWBSにタスクを追加する際には、各タスクを完了するのに必要な時間を指定する必要があります。集計タスクの場合、期間を手作業で入力する必要があります。作業オーダーの場合、事業所品目プログラム (P41026) で品目に定義した標準リードタイムから期間が読み込まれます。この期間とシステムのスケジュール機能を使用して、タスクの開始および終了日付が計算されます。

タスクの従属関係を使用して、プロジェクト・タスクの実行順序を指定します。使用できるタスクの従属関係タイプによって、重複するタスクをスケジュールできます。つまり、先に始まったタスク(先行タスク)が完了する前に、次のタスク(後続タスク)を開始できます。従属関係の他にも、遅延時間を使用してタスクの順序を構成できます。次の4タイプのタスク従属関係を使用できます。

- 終了 - 開始 (FS)。後続タスクを開始する前に、先行タスクを終了する必要があります。
- 終了 - 終了 (FF)。後続タスクを終了する前に、先行タスクを終了する必要があります。
- 開始 - 開始 (SS)。先行タスクは、後続タスクの開始より先に開始する必要があります。
- 開始 - 終了 (SF)。後続タスクを終了する前に、先行タスクを開始する必要があります。

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産でタスクの従属関係を定義する際は、次の規則に従う必要があります。

- 親タスク間には従属関係のリンクを設定できますが、親と関連する子タスクの間には設定できません。
- 親タスクとその親タスクに関連を持たない子タスクの間には、従属関係を作成できます。
- すでにリンクの付いているタスクどうしに、逆方向のリンクは作成できません。この規則によって、再帰的な関係を防ぐことができます。

同じレベルのサブタスクについてタスク従属関係を定義します。この場合、計画開始日付および計画終了日付は、定義したタスク従属関係にのみ依存します。

タスクの従属関係における先行タスクと後続タスクを修正したり、タスクの従属関係に関する他のフィールドを入力および改訂できます。タスクの従属関係には、「プロジェクト・ワークベンチ」の「タスクの編集」フォームと「すべてのタスクの編集/ロック」フォームの「タスクの従属関係の編集」領域でアクセスできます。

プロジェクトのタスクを選択すると、そのタスクは「タスクの従属関係の編集」領域に後続タスクとして表示されます。選択したタスクの先行タスクは、先行タスク番号を入力するか、「検索」ボタンを使用して定義します。

入力中に、従属関係が無効でないかどうかを検証されます。この機能は、MS Projectの機能に似ています。検証は、[Tab]を押して、作成した従属関係行から移動するときに行われます。従属関係が無効な場合は、エラー・メッセージが表示されます。次の表は、検証される従属タイプの一覧を示しています。

従属関係タイプ	定義
間接再帰関係	<p>間接再帰関係は、再帰関係がレベルをまたがって存在する場合に形成されます。</p> <p>間接再帰関係は、次の場合に形成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「従属関係」フォームでタスクの従属関係を作成している場合 <p>たとえば、2つの親タスク間に従属関係が定義されているとします。これらの親タスクの1つと別の親の子タスクの間に、別の従属関係が定義されています。親/子間の暗黙的な従属関係は、双方向の従属関係とみなされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ある場所から別の場所にタスクを移動している場合 <p>たとえば、2つの親タスクに2つの子タスクがあるとします。これら2つの親タスクの間に、従属関係が定義されています。また、2つの子タスクの間にも従属関係が定義されています。子タスクの1つがもう一方の親に移動すると、間接再帰関係が形成されます。</p> <p>再帰関係を形成する従属関係はすべて、無効な従属関係です。</p>
直接再帰関係	<p>直接再帰関係は、「プロジェクト・ワークベンチ」の「タスクの編集」フォームと「すべてのタスクの編集/ロック」フォームの「タスクの従属関係の編集」領域で、タスクの従属関係を作成する場合にのみ形成されます。直接再帰関係は、同レベルに、またはレベルに関係なく再帰関係が存在する場合に形成されます。これは、第1レベルでは機能しますが、他のレベルでは機能しません。直接再帰関係は、異なる2つのタスクの2つの子タスクに対して従属関係が2度定義されている場合に形成されます。つまり、先行/後続としての従属関係と、後続/先行としての従属関係が定義されている場合です。直接再帰関係のもう1つの例として、タスクAからB、BからC、CからD、そしてDからAの間で定義されている従属関係があります。</p>

従属関係タイプ	定義
親/子関係	<p>親タスクとその子タスクの間に、明示的な従属関係が存在します。</p> <p>親/子間の明示的な従属関係は、次の場合に形成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • フォームの「タスクの従属関係の編集」領域で、タスクの従属関係を作成している場合 • ある場所から別の場所にタスクを移動している場合 <p>プロジェクトに2つの親タスクがあるとします。子タスクの1つは、他の親タスクとの間に明示的な従属関係を持っています。この子タスクを明示的な従属関係のあるタスクに移動すると、これらのタスク間に暗黙的な従属関係が形成され、親/子関係のエラーが発生します。2つのタスク間に、暗黙的な従属関係と明示的な従属関係の両方が存在することはできません。タスクの親/子関係の作成中にエラーが発生したことを通知するエラー・メッセージが発行されます。</p>
重複関係	2つの従属関係は同一にはできません。
自己従属関係	先行タスクと後続タスクは同じにはできません。

プロジェクト・ワークベンチで、スケジューリングに関連するタスクのタイプを定義できます。個々のタスクを固定または非固定に指定して、タスクを個別にロックできます。固定タスクは、割り当てられている期間内でスケジュールする必要があり、この境界外で操作することはできません。前進スケジューリングと逆算スケジューリングでは、プロジェクトのスケジューリング中に、タスク・タイプに関する制約と、日付および期間が考慮されます。

次の表に、タスク・タイプの一覧を示します。

タスク・タイプ	定義
非固定タスク	このタスクの期間内の配置は、設定されていません。このタスクの日付は、プロジェクトのスケジューリング中に、ユーザーによる変更もシステムによる移動も可能です。
固定タスク	<p>固定されるのは、個別タスクのみです。固定タスクは、期間内の特定の日付に永続的に設定されます。固定タスクは、スケジューリング・アルゴリズムによって自動的に移動できず、ユーザーがタスクの開始日付と終了日付を手作業で修正することによってのみ変更可能です。</p> <p>固定タスクの動作は、レベルごとに異なります。固定タスクが最下位にある場合、タスクの開始日付と終了日付の両方が設定されます。ただし、固定タスクが最上位にあり、少なくとも1つの子を持っている場合は、タスクの開始日付(前進スケジューリングの場合)またはタスクの終了日付(逆算スケジューリングの場合)のみが設定されます。もう一方の日付は、スケジューリングの従属関係と、親タスクの期間にそのすべての子タスクの期間が含まれているという要件に基づいて計算する必要があります。親タスクを固定タスクに設定しても、その子タスクが親タスクの期間内に存在しているかぎり、子タスクの移動は制限されません。</p>

前進スケジューリングにより、プロジェクト管理者はある開始日付からタスクをスケジュールできます。前進スケジューリングでは、期間と従属タスクに応じてタスクをスケジュールします。これにより、各タスクは最も早い開始日付にスタートします。

逆算スケジューリングに基づいて作業オーダーの推奨開始日付のメッセージを生成するJD Edwards EnterpriseOne所要量計画は、通常、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムの逆算スケジューリング機能によって作成された日付と一致します。逆算スケジューリングでは、プロジェクト管理者がプロジェクトの完了日付を入力し、逆算して開始日付を決定します。

前進および逆算スケジューリングのどちらの場合も、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムでは、各タスクに設定したタスク従属関係を使用して正しい開始/終了日付を提示します。

「すべてのタスクの編集/ロック」フォームのオプションを使用して、前進スケジューリングと逆算スケジューリングを実行できます。タスクの日付や期間を変更すると、そのタスクの従属タスクがすべて再スケジュールされます。

タスク・タイプを指定してスケジューリングを実行する場合には、実行不可能なスケジューリングを防ぐために規則が適用されます。次の表に、規則の一覧を示します。

タスク・レベル	タスク・タイプ	規則
親タスク	固定タスク	<ul style="list-style-type: none"> 固定タスクについては、タスクの開始日付、終了日付および期間を修正できます。 固定親タスクの期間は、そのすべての子タスクの最長期間に等しいか、それより長い必要があります。 直接の子タスクが固定タスクである場合、固定親タスクの期間に、そのすべての固定子タスクの期間が含まれる必要があります。 タスク開始日付(前進スケジューリングの場合)またはタスク終了日付(逆算スケジューリングの場合)のみが基準となります。このため、ユーザーは、すべての子タスクの期間に応じて親タスクの期間を手作業で調整する必要はありません。これは、非常に手間のかかる作業です。
子タスク	固定タスク	<ul style="list-style-type: none"> 固定タスクについては、タスクの開始日付、終了日付および期間を修正できます。 直接の親タスクが固定タスクである場合、子タスクの期間は、その固定親タスクの期間内に含まれている必要があります。 上位にある親タスクが固定構造タスク・タイプに指定されている場合、子タスクの期間は、その固定タスクの期間内に含まれている必要があります。 <hr/> <p>注意: 1つのタスクが同時に親と子になる場合があります。このため、前述の両方の条件が同時に適用される場合があります。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 子タスクがWBSの最下位である場合、タスクの開始日付と終了日付の両方が設定され、スケジューリング・アルゴリズムによる変更はできません。 子タスクの下位に他の子タスクが存在する場合、タスク開始日付(前進スケジューリングの場合)またはタスク終了日付(逆算スケジューリングの場合)のみが基準となります。このため、ユーザーは、すべての子タスクの期間に応じて親タスクの期間を手作業で調整する必要はありません。これは、非常に手間のかかる作業です。

WBS内でタスクを移動してスケジューリングを実行する場合には、実行不可能なスケジューリングを防ぐために規則が適用されます。次の表に、規則の一覧を示します。

タスクの移動	規則
既存の固定タスクを移動して親タスクにする	<ul style="list-style-type: none"> 固定タスクについては、開始日付、終了日付および期間を修正できます。 固定親タスクの期間は、そのすべての子タスクの最長期間に等しいか、それより長い必要があります。 直接の子タスクが固定タスクである場合、固定親タスクの期間に、そのすべての固定子タスクの期間が含まれる必要があります。 開始日付(前進スケジューリングの場合)またはタスク終了日付(逆算スケジューリングの場合)のみが基準となります。このため、ユーザーは、すべての子タスクの期間に応じて親タスクの期間を手作業で調整する必要はありません。これは、非常に手間のかかる作業です。
既存の固定タスクを移動して子タスクにする	<ul style="list-style-type: none"> 固定タスクについては、開始日付、終了日付および期間を修正できます。 直接の親タスクが固定タスクである場合、子タスクの期間は、その固定親タスクの期間内に含まれている必要があります。 上位にある親タスクが固定構造に指定されている場合、子タスクの期間は、その固定タスクの期間内に含まれている必要があります。 子タスクがWBSの最下位である場合、タスクの開始日付と終了日付の両方が設定され、スケジューリング・アルゴリズムによる変更はできません。 子タスクの下位に他の子タスクが存在する場合、タスク開始日付(前進スケジューリングの場合)またはタスク終了日付(逆算スケジューリングの場合)のみが基準となります。このため、ユーザーは、すべての子タスクの期間に応じて親タスクの期間を手作業で調整する必要はありません。これは、非常に手間のかかる作業です。

固定タスク内でプロジェクトの前進スケジューリングと逆算スケジューリングを行うことができます。次の規則は、前進スケジューリングと逆算スケジューリングの両方に適用されます。

- スケジューリングにより、実行不可能なスケジュールの存在を示す新しい戻り状況が含まれます。
- スケジューリングでは、最下位にあり、子タスクを持たない固定タスクの開始日付と終了日付は両方とも修正されません。
- 2つの固定タスク間の関係は無意味であるため、考慮されません。

前進スケジューリングを行う場合は、次の規則が適用されます。

- スケジューリングでは、下位に子タスクを持つ固定タスクの開始日付は修正できません。ただし、親タスクの期間にはそのすべての子タスクの期間が含まれているという要件を満たすために、タスクの終了日付は操作できます。
- 固定タスクの存在により、プロジェクトの開始日付に影響が及ぶことがあります。

逆算スケジューリングを行う場合は、次の規則が適用されます。

- スケジューリングでは、下位に子タスクを持つ固定タスクの終了日付は修正できません。ただし、親タスクの期間にはそのすべての子タスクの期間が含まれているという要件を満たすために、タスクの開始日付は操作できます。
- 固定タスクの存在により、プロジェクトの終了日付に影響が及ぶことがあります。

固定タスクのスケジューリングに関して設定したスケジューリングは、検証する必要があります。設定を分析するには、「タスクの編集」と「すべてのタスクの編集/ロック」で「矛盾チェック」ボタンをクリックします。設定を分析しない場合は、スケジュールの保存時またはスケジューリングの実行時に分析が行われます。

各タスクの開始日付と終了日付が、現在のタスクが従属している別のタスクとの明示的または暗黙的な従属関係に違反していないかどうか判定されます。また、各タスクが固定タスクの影響を受ける期間の規則に違反していないのかも判定されます。違反が検出された場合は、従属関係に違反しないようにそのタスクが移動されます。ただし、少なくともいずれか1つの従属関係に違反せずにタスクを移動できる有効な方向が見つからない場合は、実行不可能なスケジュールの状況が戻されます。

スケジューリング・アルゴリズムを実行するには、「すべてのタスクの編集/ロック」フォームで「スケジュール」ボタンをクリックします。スケジューリングの処理中に実行不可能なスケジュールの条件が満たされた場合、その時点で処理が停止し、エラー・メッセージが表示されます。スケジューリング・アルゴリズムを実行すると、タスクの日付と期間はキャッシュ内のみで変更され、テーブルには反映されません。エラーが検出された場合は、キャッシュ内の変更された日付と期間は元の値に戻され、テーブルには保存されません。スケジュール・エラー・レポートに変更された日付と期間が表示されるため、これらと元の値を比較してエラーの原因を調べることができます。これは、キャッシュ内の値を元の値に戻す前に、変更された日付と期間がスケジュール・エラー・レポート(F31PUI01)テーブルに保存されることによって実現します。このテーブルに対してスケジュール・エラー・レポートが実行され、UBEの終了時にユーザーとプロジェクトに関するコンテンツが削除されます。スケジュール・エラー・レポートを使用するかどうかは、プロジェクト・ワークベンチ(P31P001)プログラムの「スケジュール」タブの処理オプションで制御されます。

プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)でプロジェクトの情報を設定したら、Microsoft Projectなどサード・パーティのソフトウェアにWBSをエクスポートできます。タスクの期間および従属関係を、Microsoft Projectを使用して処理できます。タスクの改訂は、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムにインポートできます。Microsoft Projectでタスクを追加したり削除すると、これらの変更はプロジェクト・ワークベンチ・プログラムにはインポートできません。

関連項目:

[第 3 章、「受注設計生産の設定」、「ETOとMicrosoft Projectの統合」、20ページ](#)

事前設定

この項で説明されているタスクを実行する前に、スケジュールするすべてのタスクがWBSに含まれており、すべてのタスクに期間が割り当てられていることを確認してください。

プロジェクト・タスクのスケジューリングに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
タスクの編集	W31P001I	「プロジェクト・ワークベンチ」(G31P12)、「プロジェクト・ワークベンチ」 「プロジェクトの検索」フォームでプロジェクトを選択し、「タスクの編集」ボタンをクリックします。	プロジェクト・タスクの従属関係を定義し、改訂します。 従属関係の矛盾をチェックします。 プロジェクト・タスクをスケジューリングします。
すべてのタスクの編集/ロック	W31P001I	「プロジェクト・ワークベンチ」(G31P12)、「プロジェクト・ワークベンチ」 「プロジェクトの検索」フォームでプロジェクトを選択し、「すべてのタスクの編集/ロック」ボタンをクリックします。 「ETOプロジェクト・ワークベンチ-すべてのタスクの編集/ロックの警告」(W31P001O)で、「すべてのタスクの編集/ロック」ボタンを選択して続行します。	プロジェクト・タスクの従属関係を定義し、改訂します。 従属関係の矛盾をチェックします。 プロジェクト・タスクをスケジューリングします。

タスクの従属関係の定義

「タスクの編集」フォームまたは「すべてのタスクの編集/ロック」フォームにアクセスします。

フォームの「タスクの従属関係の編集」領域に移動します。

▼ タスクの従属関係の編集

後続タスク

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

	先行タスクNo.	先行タスク記述	依存タイプ	遅延時間	記述テキスト
<input checked="" type="radio"/>	452584	Project Start	FS		5-
<input type="radio"/>					

「タスクの編集」フォーム: 「タスクの従属関係の編集」領域

後続タスク

入力した先行タスクと従属関係を持たせるタスクの番号を入力します。この番号は、タスクのオーダー番号と一致します。

先行タスクNo.

先行タスクの番号を入力します。この番号は、後続タスクのスケジュールの基となるタスクを識別します。先行タスクと後続タスクの関係は、従属タイプによって定義されます。

先行タスク記述

先行タスク番号の記述が表示されます。

依存タイプ	<p>タスクの実行順序を指定する従属タイプを入力します。値は次のとおりです。</p> <p>FF: 終了 - 終了</p> <p>FS: 終了 - 開始</p> <p>SF: 開始 - 終了</p> <p>SS: 開始 - 開始</p> <p>これらの値は、従属タイプのユーザー定義コード(UDC) (31P/DT)に保存されます。</p>
遅延時間	<p>従属関係のタスク間にスケジュールされる時間を入力します。遅延時間の計算方法に従って、入力する値は、先行タスクまたは後続タスクの絶対時間を表します。</p>
記述テキスト	<p>テキストを入力します。これは、その他の注記またはテキスト情報を入力するための75文字長の詳細記述テキスト・フィールドです。</p>

「タスクの編集」フォームと、フォームに関連する領域は、次のタスクで確認できます。

参照: [第 4 章、「プロジェクトの立上げ」、「プロジェクトの処理」、41ページ](#)

参照: [第 5 章、「受注設計生産でのプロジェクト・プランニングの利用」、「プロジェクトの関連オーダーの検討および作成」、76ページ](#)

プロジェクトのスケジュール

「すべてのタスクの編集/ロック」フォームにアクセスします。

注意: 「すべてのタスクの編集/ロック」フォームを使用したスケジュールは、プロジェクト・レベルでのみ可能です。

このフォームの「前進スケジュール」ボタンと「逆算スケジュール」ボタンを使用して、WBSに入力したタスクをスケジュールします。

タスクをスケジュールするには、次の手順に従います。

1. 「すべてのタスクの編集/ロック」で、「前進スケジュール」または「逆算スケジュール」を選択して「スケジュール」ボタンをクリックします。
2. 詳細グリッドで、調整済の計画開始日付および計画終了日付を検討します。
日付の調整は定義した従属関係と各タスクの期間によって異なります。

見積および提案の生成

この項では、見積および提案の生成処理の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- プロジェクト見積(P31P100)の処理オプションの設定
- プロジェクトの見積の作成

見積および提案の生成処理について

プロジェクト・ワークベンチ・プログラム (P31P001) でプロジェクトを作成してタスクと原価の情報を追加したら、プロジェクト見積プログラム (P31P100) を使用して、詳細かつ体系化された見積を作成できます。この見積は、顧客の承認用に提示できます。顧客が見積を承認したら、プロジェクトの作業を開始できます。顧客が変更を要求した場合、必要な回数だけ見積の情報を改訂できます。顧客に複数の見積を送ることもできます。たとえば、原価の金額を改訂したり、特定の行を計算に含めるかどうかを指定できます。要件が満たされて顧客からプロジェクトを続行する最終的な承認が得られるまで、見積バージョンを顧客に繰り返し提出できます。要求された変更がプロジェクトへのタスクの追加や削除を含む場合、「プロジェクト・ワークベンチ」フォームで変更して、WBSから新しい見積を作成する必要があります。

JD Edwards EnterpriseOne ETOの見積生成用のプログラムを使用すれば、プロジェクトのWBSの各タスクに関連付けられた見積原価または計画原価を基準にして、見積を作成できます。プロジェクト・ワークベンチ・プログラムから見積プログラムへ、WBSをインポートできます。この目的は、十分な情報を持つ見積を作成し、顧客がそれに基づいて決定を下せるようにすることです。通常は、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムの原価情報は、詳細レベルに応じて変わります。詳細な情報が多すぎることや、有効な見積として十分な詳細情報が含まれていない場合もあります。顧客への提示に表示するタスク情報を、WBSから選択できます。原価の見積よりも実際の作業に関連する明細情報を省略すると、見積を簡略化できます。反対に、詳しい製造原価の内訳や各行品目に適用されるマージンが必要な場合もあります。見積プログラムでは、個々のタスクの見積金額を小計と合計にまとめることもできます。それにより、顧客がプロジェクトの原価をよりよく理解できるようになります。

見積処理では顧客とのやり取りを繰り返すこともあります。設計や価格の変更に関係なく、見積に変更を加える際は、変更のトラッキングが可能のように新しい見積のバージョンを作成します。見積バージョンは、プロジェクト見積明細テーブル (F31P11) に保存されます。最後に、見積情報を使用して、顧客に送付する見積文書を生成します。Eビジネス・プロセスを使用する場合は、オンライン提案プログラム (P31P101) を使用すれば、顧客とWebを通してやり取りができます。

顧客が見積を承認したら、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムでもその旨を記録する必要があります。「プロジェクト・ワークベンチ」フォームで「プロジェクト・アクション」から「見積承認」を選択することにより、手作業でプロジェクトを“見積承認”状況に移動できます。プロジェクト・ワークベンチ・プログラムで見積を承認したら、プロジェクトのプランニング・フェーズを開始できます。

見積状況の情報を提供するために、電子メール通信メカニズムが用意されています。処理オプションを設定することにより、見積の状況が変わったときに管理者に自動的に通知できます。また、プロジェクト用に電子メールの配布リストを定義して、見積について顧客に連絡がいくようにすることもできます。

プロジェクト状況コード

JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産では、様々な見積バージョンの進捗をトラッキングできるように、次のプロジェクト状況コード (UDC 31P/QP) が用意されています。

プロジェクト状況コード	説明
保留	見積を生成したときのデフォルト状況。この段階では、見積は顧客に送られていないため、たとえば営業担当者は見積を何回でも変更したり調整できます。この段階で営業担当者は新しい見積バージョンを作成できます。1つのプロジェクトで複数の見積バージョンを“保留”の状況にできます。営業担当者が見積から提案を作成して見込み客に送ると、見積は“アクティブ”の状況になり、顧客は提案文書にアクセスできるようになります。

プロジェクト状況コード	説明
アクティブ	<p>見積が顧客への販売提案を準備するのに十分であると判断したら、見積の状況を“アクティブ”に変更できます。この状況では、顧客送付用の販売見積を生成できます。</p> <p>見積が検討のために顧客に送られたことを示します。当初の見積への変更を区別するために、見積の複数のバージョンにこの状況を割り当てることができます。新しいバージョンを作成しないでアクティブな見積に変更を加えると、変更のトラッキングが困難になります。複数の見積バージョンをアクティブな状況にして、顧客に送ることができます。顧客が区別できるように、同じ状況を持つ見積の各バージョンに違う名前を付けてください。この状況は、顧客が見積を検討中で交渉がまだ続いていることを意味します。顧客が見積を却下すると、作成者は見積の状況を“非アクティブ”に変更できます。</p>
非アクティブ	<p>見積が無効なことを示す状況。非アクティブな見積は変更できません。これらは保存用です。見積を非アクティブにする理由を入力する必要があります。</p>
現行	<p>顧客が見積を承認したことを示す状況。1件のプロジェクト当たり1つの見積にだけこの状況を割り当てられます。見積がこの状況にあるときは、プロジェクトを再度協議する必要がある場合は、新しい見積を作成できます。この場合、“現行”の見積の状況を“非アクティブ”に変更し、その理由を記録して新しい見積を生成してからアクティブにする必要があります。</p>
完了	<p>プロジェクトが完了または中止になり、終了したことを示す状況。見積がこの状況の場合、プロジェクトに新しい見積を作成したり、見積は変更できません。1件のプロジェクト当たり1つの見積にだけこの状況を割り当てられます。</p>

オンライン見積および提案

JD Edwards EnterpriseOne ETO見積では、見積をオンラインで顧客に直接送信することもできます。これにより、紙で提案を作成するステップを省略できます。状況がアクティブの見積を送付できます。JD Edwards EnterpriseOneのポータルで、オンライン提案プログラム(P31P101)にアクセスできるよう、顧客に一定のセキュリティを設定する必要があります。

顧客がプログラムを呼び出すと、すべての見積が表示されますが、各レコードのすべてのフィールドは表示されません。たとえば、プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)からの当初の見積は非表示です。顧客は、見積を受け入れるか却下するかにより返答できます。顧客の返答をプロジェクト管理者など指定の担当者に伝えるには、ワークフロー・システムが使用されます。また、回答を受け取った旨も顧客に通知されます。この処理は繰り返します。顧客が納得して見積を承認するまで、必要なすべての変更を入力できます。顧客から見積承認の連絡を受けたら、見積の状況を“現行”に変更し、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムで、当該プロジェクトを“見積承認”状況に移動します。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- WBSに必須タスク、見積、スケジュール情報を入力したことを確認してください。
- プロジェクト見積プログラム(P31P100)の通知機能を利用する場合は、JD Edwards EnterpriseOne住所録システムの構造の改訂プログラム(P0150)を使用して電子メールの配布リストを設定します。

見積の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
プロジェクト見積の処理	W31P100B	「見積/提案」(G31P11)、 「プロジェクト見積」	既存のプロジェクト見積を選択します。
見積りの追加	W31P100E	「プロジェクト見積の処理」フォームで、「プロジェクトNo.」フィールドに値を入力し、「追加」ボタンをクリックします。	プロジェクトの見積を作成します。 プロジェクト見積を追加し、見積金額が見積原価または計画原価のどちらに基づくかを決定します。
プロジェクト見積の改訂	W31P100C	「プロジェクト見積の処理」フォームで、フィルタ・フィールドを入力し、「検索」ボタンをクリックして、見積を選択します。	見積情報を改訂し、販売見積を生成します。

プロジェクト見積(P31P100)の処理オプションの設定

この処理オプションでは、プロジェクト見積プログラムのデフォルト処理を制御します。

表示

この処理オプションでは、見積の計算に見積レコードを自動的に含めるかどうかや、表示方法、親タスクの見積金額を一時変更可能にするかどうかを指定します。

1. 改訂フォームへの自動入力

詳細グリッドのすべての見積明細行に対して、「プロジェクト見積の改訂」フォームの「見積計算用」カラムに選択値「1」を入力するかどうかを指定します。見積に含めたくない行を選択解除することもできます。この処理オプションをブランクにすると、見積に表示される明細行が自動選択されません。

2. ローの選択および販売見積行の作成

詳細グリッドのすべての見積明細行に対して、「プロジェクト見積の改訂」フォームの「ロー表示」カラムに選択値「1」を入力するかどうかを指定します。見積に含めたくない行を選択解除することもできます。オンライン提案プログラム(P31P101)に計算された価格が存在する各選択行が表示され、各ローに対して販売見積行が作成されます。「合計計算の表示」オプションが選択されている場合、見積合計金額が計算されます。

注意: 親タスクのローの金額は一時変更できません。

この処理オプションをブランクにした場合、見積に含める各行に対して選択値を入力する必要があります。その際、どのレベルのタスクでも価格を一時変更できますが、システムによって見積合計金額が計算されないことに注意してください。

3. 親の見積金額の一時変更

親タスク・レベルで見積金額を一時変更できるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 一時変更できません。

1: 一時変更します。

デフォルト

この処理オプションでは、基本通貨として使用する通貨を指定します。

1. **基本通貨** ビジネスユニットと関連付けられていないプロジェクトでデフォルト値として使用する基本通貨を指定します。

プロセス

この処理オプションでは、見積の状況の通知先を制御します。

1. **見積状況がアクティブになった場合に管理者に通知する、2. 見積状況が非アクティブになった場合に管理者に通知する、3. 見積状況が最新になった場合に管理者に通知する** 見積状況が変わったときに、管理者に通知するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 通知しません。
1: 通知します。
4. **見積状況がアクティブになった場合に顧客に通知する** 見積状況が“アクティブ”に変わったときに、顧客に通知するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
0: 通知しません。
1: 通知します。
5. **電子メール配布リスト、** 警告の配布リストを指定します。
6. **組織構造タイプ**

バージョン

この処理オプションでは、プロジェクト見積プログラムから次のプログラムを呼び出したときに使用されるバージョンを制御します。

1. **販売見積の入力(P4210)** 販売見積を生成するために実行する販売見積の入力プログラム(P4210)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE00018が使用されます。
2. **生成伝票(P00391)** 提案の作成に使用する生成文書の改訂プログラム(P00391)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

プロジェクトの見積の作成

「プロジェクト見積の改訂」フォームにアクセスします。

プロジェクト見積 - プロジェクト見積の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

プロジェクト情報 | 見積情報 | 関連販売見積 | 理由コード | 担当者

ビジネスユニット P30

プロジェクトNo. 452576 合計計算の表示

通貨コード 為替レート 基本通貨 USD 外貨

レコード 1 - 17 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	見積 計算用	ロー 表示	順序 No.	オーダー 記述	見積 金額	一時変更用 見積金額	マージン %	見積 金額	詳細 レベル	オーダー No.	オー ダー タイ
<input type="radio"/>	1	1	1.000	EPM Project 1					1	452576	ET
<input type="radio"/>	1	1	2.000	Project Start					2	452584	ET
<input type="radio"/>	1	1	3.000	Engineering Analysis	20,000.00			20,000.00	3	452648	ET
<input type="radio"/>	1	1	4.000	Engineering					2	452592	ET
<input type="radio"/>	1	1	5.000	Design Engineering	30,000.00			30,000.00	3	452656	ET
<input type="radio"/>	1	1	6.000	Manufacturing Engineering	20,000.00			20,000.00	3	452664	ET
<input type="radio"/>	1	1	7.000	Procurement					2	452605	ET
<input type="radio"/>	1	1	8.000	Long LT Purchase					3	452672	ET
<input type="radio"/>	1	1	9.000	Direct Shipment	15,000.00			15,000.00	3	452681	ET

「プロジェクト見積の改訂」フォーム

プロジェクト情報

「プロジェクト情報」タブを選択します。

このタブには、見積を作成するプロジェクトに関する情報が表示されます。

合計計算の表示

プロジェクト見出しの「合計見積金額」フィールドに計算された見積合計を表示する場合に選択します。

見積情報

「見積情報」タブを選択します。

プロジェクト見積 - プロジェクト見積の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

プロジェクト情報 | **見積情報** | 関連販売見積 | 理由コード | 担当者

見積バージョン: ACCEPTQUOT 見積状況: Q4 見積りが有効

見積記述: ACCEPT A QUOTE

記述2:

見積有効 - 開始: 2004/09/21 見積有効 - 終了: 2004/11/26

レコード 1 - 17 グリッドのカスタマイズ

	見積計算用	ロー表示	順序 No.	オーダー記述	見積金額	一時変更用見積金額	マージン %	見積金額	詳細レベル	オーダー No.	オーダータイプ
<input type="radio"/>	1	1	1.000	EPM Project 1					1	452576	ET
<input type="radio"/>	1	1	2.000	Project Start					2	452584	ET
<input type="radio"/>	1	1	3.000	Engineering Analysis	20,000.00			20,000.00	3	452648	ET
<input type="radio"/>	1	1	4.000	Engineering					2	452592	ET
<input type="radio"/>	1	1	5.000	Design Engineering	30,000.00			30,000.00	3	452656	ET
<input type="radio"/>	1	1	6.000	Manufacturing Engineering	20,000.00			20,000.00	3	452664	ET
<input type="radio"/>	1	1	7.000	Procurement					2	452605	ET
<input type="radio"/>	1	1	8.000	Long LT Purchase					3	452672	ET
<input type="radio"/>	1	1	9.000	Direct Shipment	15,000.00			15,000.00	3	452681	ET

「プロジェクト見積の改訂」フォーム: 「見積情報」タブ

見積バージョン

見積バージョンを一意に識別する値が表示されます。見積計算中に複数の見積バージョンが作成されますが、受け入れることのできるバージョンは1つのみです。

見積有効 - 開始、見積有効 - 終了

見積が有効である期間を入力します。デフォルト値は現在のシステム日付です。

一時変更用見積金額

当初見積とは異なり、計画原価または見積原価に基づく見積金額を入力します。このフィールドに値を入力すると、当初見積ではなくこの情報が見積金額の計算に使用されます。

プロジェクトのフェーズまたはタスクに対してシステムで算出された予算金額です。見積金額の一時変更を使用する場合は、このフィールドに値を入力します。

マージン%

見積金額の計算時に見積を展開するパーセントを入力します。

見積計算用

見積生成プログラムの価格計算にそのローを含める場合、「1」を入力します。このフィールドをブランクにすると、見積生成にそのローが含まれません。

ロー表示

販売見積を作成するローに対して、「1」を入力します。

この選択は、オンライン提案プログラム (P31P101) に、計算された価格のローを表示するかどうかも指定します。

見積状況

プロジェクト見積の状況を示すユーザー定義コード (31P/QP) を入力します。

関連販売見積

「関連販売見積」タブを選択します。

関連オーダーNo.

「フォーム」メニューから「見積の生成」を選択したときに生成した見積番号が表示されます。

作成した販売見積を検討するには、「フォーム」メニューから「販売見積」を選択して、受注オーダー入力プログラム(P4210)にアクセスします。販売見積に含めるよう選択したプロジェクト見積のすべての行を確認できます。販売見積レコードは、プロジェクト見積プログラムで割り当てた行タイプに基づいて生成されます。

重要: 受注オーダー入力プログラムで見積を変更することも可能ですが、このプログラムではできるだけ変更しないでください。両方のプログラムで見積の情報が一致するように、変更にはプロジェクト見積プログラムのみを使用してください。プロジェクト見積プログラムからの見積金額は、常に販売見積の明細レコードの見積価格を一時変更します。

第 5 章

受注設計生産でのプロジェクト・プランニングの利用

この章では、受注設計生産(ETO)でのプロジェクト・プランニングの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 作業原価予算へのプロジェクト予算のロード
- プロジェクト所要量計画の実行
- プロジェクトのオーダーの作成
- プロジェクト・コミットメントの設定

ETOでのプロジェクト・プランニングについて

一般的に、プロジェクトのプランニング・フェーズは、顧客がプロジェクトの見積を承認して見積承認処理を実行してから始まります。プロジェクト・プランニング・フェーズには、プロジェクト情報を、プロジェクトの実行および統制フェーズにおいて実行される計画に変換するのに必要なすべてのアクティビティが含まれます。プロジェクトの立上げフェーズでは、タスクや作業オーダー、スケジュール、リソース、予算の詳細な情報を準備できない場合もあります。プロジェクトのプランニング・フェーズでは、プロジェクト管理者はプロジェクトの情報を詳細に定義できます。見積承認処理を実行する前後のどちらでも、プロジェクト・タスクの取引を入力して会計および在庫管理上のコミットメントを実行できます。

注意: 購買品目については、行タイプが設定されていて、伝票タイプがコミットメント伝票タイプ・ユーザー定義コード(UDC)(40/CT)に含まれていれば、会計上のコミットメントが自動作成されます。

製造作業オーダーについて会計上のコミットメントを作成するには、プロジェクトの「作業原価I/F」オプションを選択してください。

作業原価の統合を使用する場合、「プロジェクト・ワークベンチ」フォームからのプロジェクトの計画原価が、見積承認処理中に作業原価の当初予算にアップロードされます。

WBSのタスク情報に応じて、MRP/MPS所要量計画プログラム(R3482)を実行して、詳細メッセージを生成できます。このメッセージは、補充用の購買オーダーと作業オーダーを生成する際に使用します。部品リストの品目については購買オーダーを手入力できます。また、プロジェクトの製造作業オーダーによって消費されず、プロジェクトの一環として顧客に販売する品目の場合、購買オーダーも作成できます。

プロジェクト属性で「作業原価I/F」オプションを選択して、見積承認処理を実行すると、プロジェクト情報を続けて定義および計画できます。「フォーム」メニューから「作業原価予算の凍結」を選択することにより、プロジェクトの次のステージに進むことができます。その結果、WBSからの計画金額が最終的に当初予算に読み込まれ、予算合計が凍結されます。

注意: プロジェクトのアクティビティは繰り返しが非常に多いため、ここで説明したとおりの順序で進むとはかぎりません。

事前設定

JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムの機能を使用して製造作業オーダーに会計上のコミットメントを作成するには、プロジェクトの「作業原価I/F」オプションを選択してください。

作業原価予算へのプロジェクト予算のロード

この項では、作業原価予算へのアップロード処理の概要と次の方法について説明します。

- 作業原価予算のアップロード(R31P800)の処理オプションの設定
- 作業原価予算のアップロード

作業原価予算のアップロード処理について

このプログラムは、プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)からJD Edwards EnterpriseOne作業原価システムに計画原価をアップロードする際に使用します。見積承認後にメニューからこのプログラムを呼び出し、作業原価予算のデータをプロジェクトの原価情報と同期させることができます。プロジェクトの2つのフェーズにおいて、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムによって、このプログラムが自動的に実行されます。見積承認のフェーズでは、プロジェクトの計画原価が当初予算としてアップロードされます。原価予算の凍結フェーズでは、当初予算が最終的にアップロードされます(処理オプションで設定した場合)。作業原価予算をロックすると、作業原価予算のアップロード・プログラム(R31P800)は、改訂のアップロードにしか使用できません。

作業原価予算のアップロード(R31P800)の処理オプションの設定

この処理オプションでは、作業原価予算のアップロード・プログラムのデフォルト処理を制御します。

表示

この処理オプションでは、レポートに表示される情報を制御します。

1. **非アクティブ勘定科目の表示** 勘定科目範囲の非アクティブ勘定科目を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 表示しません。
 1: 表示します。

編集

この処理オプションでは、レポートに含める情報を制御します。

1. **デフォルトの原価コード範囲** 開始原価コードと終了原価コードを入力します。
開始原価コード 勘定科目範囲の開始原価コード(補助科目)勘定科目を表示するかどうかを指定します。ブランクにすると、すべての勘定科目が表示されます。
終了原価コード 勘定科目範囲の終了原価コード(補助科目)勘定科目を表示するかどうかを指定します。ブランクにすると、すべての勘定科目が表示されます。
2. **デフォルトの原価タイプ範囲** 開始原価タイプと終了原価タイプを入力します。

- 開始原価タイプ** 勘定科目範囲の開始原価タイプ(主科目)勘定科目を表示するかどうかを指定します。
- 終了原価タイプ** 勘定科目範囲の終了原価タイプ(主科目)勘定科目を表示するかどうかを指定します。
- 3. 勘定科目詳細レベル(3-9)の最小値を指定してください。** 総勘定元帳の勘定科目を集計して分類するための勘定科目の最も詳細なレベルを指定します。最も詳細度が高いのがレベル9で、最も詳細度が低いのがレベル1です。レベル1と2は会社とビジネスユニットの合計用に予約されています。レベル8と9は、JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理の作業原価転記勘定用に予約されています。

プロセス

この処理オプションでは、予算情報の処理方法を指定します。

1. **モード** プログラムをテスト・モードと最終モードのどちらで実行するかを指定します。プログラムをテスト・モードで実行すると、レポートが生成されますがテーブルは更新されません。値は次のとおりです。
 - 1: 最終
 - 空白: テスト
2. **予算金額元帳タイプ** 更新する予算金額元帳タイプを指定します。この処理オプションを空白にすると、元帳タイプ「JA」が自動的に更新されます。
3. **作業原価の改訂で元帳日付の編集をバイパスする** 元帳(GL)日付の編集を省略するかどうかを指定します。元帳日付がシステムによって編集されない場合、エラー・メッセージや警告を受け取ることなく、より早いまたは遅い元帳日付を入力できます。値は次のとおりです。
 - 空白: 省略しません。
 - 1: 省略します。
4. **作業原価の期首予算の更新** 更新する年度を指定します。オプション2を選択するかまたは空白にする場合、F0902レコードが存在する必要があります。値は次のとおりです。
 - 1: 現行年度のみ更新します。
 - 2: すべての年度を更新します。
 - 空白: 現行年度および将来年度を更新します。
5. **伝票タイプ** AAI(自動仕訳)テーブル3130(半組立品/完成品)のキーの一部として必要な伝票タイプを指定します。デフォルトの伝票タイプはIC(在庫完了)です。他のキーコンポーネント(会社、元帳クラス・コード、オーダー・タイプ)は、プロジェクトから取得されます。このAAIを使用して、作業原価のアップロードに必要な主科目を取得します。

監査証跡

この処理オプションでは、予算改訂のアップロードを制御します。

1. **伝票タイプ** AAIテーブル3130(半組立品/完成品)のキーの一部として必要な伝票タイプを指定します。
2. **作業原価予算の監査証跡の作成** 予算改訂を入力するとき作成される取引明細の明細レコード(F0911)を指定します。速度の制約がないかぎり、変更ごとにF0911レコードを作成することをお勧めします。値は次のとおりです。

ブランク: 期間が変わるごとに監査証跡レコードを作成します。

1: 変更ごとに監査証跡レコードを作成します。

2: 監査証跡レコードを作成しません。

3. 参照番号

資産番号、仕入先番号、または伝票番号など、特定の取引の監査証跡を示す番号を入力します。

4. 一時変更の説明

記述、備考、説明、名前、または住所を入力します。

作業原価予算のアップロード

「定期処理」(G31P20)の「作業原価予算のアップロード」を選択します。

作業原価予算をアップロードして更新するには、AAI 3130(半組立品/完成品)を使用します。このAAIは、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムからの計画原価を、JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムにマッピングします。

注意: 処理オプションで指定した伝票タイプは、AAIの伝票タイプと一致する必要があります。

このバッチ・プログラムを実行するには、プロジェクト属性の「作業原価I/F」オプションを選択する必要があります。選択しないと、エラー・メッセージが表示されます。このプログラムをテスト・モードで実行して、作業原価予算と、プロジェクトに適用した変更とを比較することもできます。最終モードでこのプログラムを実行すると、作業原価テーブルが予算変更により更新されます。

プロジェクト所要量計画の実行

この項では、プロジェクト所要量計画(PRP)の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 複数事業所プロジェクト所要量計画の生成
- 複数事業所PRPのメッセージの処理
- 複数事業所PRPの需要/供給の検討

PRPについて

プロジェクト所要量計画は、MRP/MPS所要量計画プログラム(R3482)のオプションであり、プロジェクト品目の作成に使用する構成品の補充スケジュールを生成する際に使用します。

PRPでは最終品目の供給として出荷可能なプロジェクトの品目を認識し、この供給を構成品の需要に反映させるために使用します。このようにして、プロジェクトの需要が自ら満たされます。

従属需要は、最終品目に関連付けられた部品表または作業オーダー部品リストによって生成されます。入荷確認または作業オーダー完了によって在庫したこれらのプロジェクトに固有の在庫は、プロジェクトの需要を満たす目的にのみ使用します。

プロジェクトの需要/供給は独立したものとしてみなします。それにより、最終品目の予測や受注オーダー、作業オーダー、購買オーダーからの需要/供給が、プロジェクトの所要量に影響しません。

PRPに関する設定上の考慮事項

プロジェクトに対してMRP/MPS所要量計画プログラムを実行してプロジェクトを計画するには、システムの設定を確認する必要があります。

品目マスター・プログラム (P4101) で、プロジェクト固有の品目の在庫タイプを、特殊取扱コード P (プロジェクト) と定義します。PRP では、この在庫タイプを使用して、品目がプロジェクトに固有であることを指定します。

重要: 同じ事業所内で、1 つの品目をプロジェクト固有と標準の両方として識別することはできません。

複数レベル部品表の場合、品目をプロジェクト固有として識別すると、最終品目も含む階層ツリーのすべての親品目をプロジェクト固有にする必要があります。このように設定しないと、当初のオーダー所要量 (ペギング・レコード) がリンクされません。

PRP では下位レベル・コードを使用して、部品表構造での品目の最下位レベルを識別します。品目を製造部品表に追加すると、下位レベル・コードが品目に割り当てられます。品目は、製造部品表とプロジェクトの作業階層構造 (WBS) のどちらか、または両方に存在できます。WBS は、部品表の構造に似ていますが部品表ではないため、プロジェクトで使用する際に品目の下位レベル・コードを割り当てるにはなんらかの方法が必要です。正しい下位レベル・コードを割り当てるには、処理オプションでプロジェクトの品目を考慮するよう設定して、部品表の構造分析プログラム (R30601) を実行してください。

PRP では「出荷」フィールドの値が 1 の場合に、作業階層構造でプロジェクト固有の最終品目の供給を識別します。

注意: 最初に WBS に最終品目を追加するときには、半組立品を WBS に追加しないようにしてください。PRP では、親の最終品目の供給作業オーダーを使用して、需要を半組立品および構成品に展開します。作業オーダー・メッセージを処理すると、プロジェクトに固有の半組立品が WBS 上で更新されます。

PRP に使用する需要/供給組込規則を設定することもできます。PRP で需要/供給組込規則を使用する際は、WBS の製造作業オーダーの状況を考慮してください。

PRP 生成

プロジェクトに対して MRP/MPS 所要量計画プログラムを実行すると、プロジェクトの補充スケジュールが生成されます。

システムが手持在庫を分配する際に、プロジェクトの需要には優先情報が加味されます。プロジェクト引当明細テーブル (F410211) には、プロジェクトに固有の在庫品目の明細レコードが保存されます。PRP ではこのテーブルを使用して、プロジェクトに割り当てるプロジェクト固有の在庫を確定します。

プロジェクトの供給または最終品目の在庫状況は、F4801T テーブルに保存されます。一般的な作業オーダーの場合と同じですが、プロジェクト番号が自動的に入力されます。

PRP 出力

プロジェクトに対する MRP/MPS 所要量計画プログラムの実行が成功したら、システムで出力情報を確認できます。

数量タイプ UDC テーブル (34/QT) には、プロジェクトの需要/供給に固有の次の数量タイプがあります。

数量タイプ	記述	未調整/調整済
+BAPU	プロジェクト開始残数 (未調整)	未調整
+POPU	プロジェクト購買オーダー	未調整
+WOPU	プロジェクト作業オーダー	未調整
-FWOPU	プロジェクト確定作業オーダー	未調整

数量タイプ	記述	未調整/調整済
+BAP	プロジェクト開始残数	調整済
+IRP	プロジェクト入荷工程	調整済
+POP	プロジェクト購買オーダー	調整済
+WOP	プロジェクト作業オーダー	調整済
-PWD	プロジェクト作業オーダーの需要	調整済
-FWOP	プロジェクト確定作業オーダー	調整済
-PWOP	プロジェクト計画作業オーダー	調整済
-SOP	プロジェクト受注オーダー	調整済

プロジェクトに固有の半組立品と構成品の計画メッセージには、プロジェクト番号および親の作業オーダー情報が含まれます。プロジェクト番号を使用して、メッセージ集計 (P3401) および MRP/MPS 詳細メッセージの改訂 (P3411) プログラムで、プロジェクトに固有の計画メッセージをフィルタできます。計画メッセージから作成された作業オーダーおよび購買オーダーには、プロジェクト番号が含まれます。

ペギング・レコードを作成する際、PRPではMPS/MRP/DRP需要テーブル (F3412) にプロジェクト番号が保存されます。これにより、プロジェクトからの所要量のソースを識別します。プロジェクトに対してペギングしたオーダーは、そのプロジェクトでのみ使用します。

MPS/MRP/DRP集計テーブル (F3413) にはプロジェクト番号は含まれませんが、プロジェクト固有の数量タイプがPRPによって使用され、プロジェクト固有の数量が計算されて表示されます。

MRP/MPS詳細メッセージの改訂プログラム (P3411) を使用して、システムによって生成されたメッセージを確認します。タイム・フェーズは、数量タイプIDP (プロジェクト事業所間需要) を使用して、供給事業所が満たすプロジェクト需要を表示します。この情報は、MPSタイム・フェーズ・プログラム (P3413) で確認できます。

プロジェクト固有の品目用の補充オーダー・メッセージを生成したら、次に、メッセージを検討し、オーダー品目の供給事業所が必要事業所と異なる場合、それらを転送オーダーで処理します。

MRP/MPS詳細メッセージの改訂 (P3411) プログラムでメッセージを検討するとき、プロジェクト番号によって表示をフィルタできます。また、その他のフィルタ・オプションを使用して、特定のプロジェクトに関連するオーダー・メッセージのみ表示して作業することもできます。このプログラムでは、メッセージを修正したり、転送オーダーを作成することによってメッセージに回答できます。

需要/供給照会プログラム (P4021) には、プロジェクトの需要/供給を表示するための追加のカラムがあります。PRPを表示するには処理オプションを設定してください。需要/供給照会プログラム (P4021) を使用して、プロジェクトの在庫の現行状況を確認できます。補充転送オーダーを含む、プロジェクトの供給/需要は、「需要/供給の処理」フォームに個別に表示されます。プロジェクト供給は、プロジェクト需要を満たす目的にしか使用できません。プロジェクト需要は、プロジェクト供給をすべて使い果たしてから、特定のプロジェクト専用でない一般供給を使用します。

複数事業所のプロジェクト所要量計画

一般にMRPなどのプロジェクト所要量計画には、複数の事業所や施設が含まれています。WBSの作業オーダーの部品リストにリストされているプロジェクト固有の構成部品は、プロジェクトが実行されている工場以外の事業所に配置されている場合があります。その場合、事業所間の関係を定義することにより、他の事業所にあるプロジェクト固有の品目をプロジェクトの事業所にリンクする必要があります。

別の事業所から取得される構成部品は、購買品目として扱われます。供給事業所によって需要全体が満たされるよう指定するには、供給事業所のソース率が100%になるように、事業所間関係を設定します。

基準計画スケジュール - 複数事業所プログラム (R3483) を実行すると、補充オーダーのメッセージが作成されます。これらのメッセージを処理すると、転送オーダーが作成されます。転送オーダーにより、供給事業所にある在庫が使用されて、構成部品のプロジェクト需要が満たされます。供給事業所で需要を満たす場合は、作業オーダーが作成されます。

事前設定

プロジェクト・プランニングを使用するには、次の作業を行います。

- 基準計画スケジュール - 複数事業所プログラム (R3483) のプロジェクト・プランニングの処理オプションが、プロジェクト固有の品目の供給/需要を含むよう設定されていることを確認します。
- プロジェクト需要事業所と供給事業所間の事業所間関係を設定します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画 9.0 製品ガイド、「複数事業所計画の利用」

JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画 9.0 製品ガイド、「所要量計画の設定」、「需給関係の設定」

JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画 9.0 製品ガイド、「資材所要量の計画」、「MRP/MPS詳細メッセージの処理 (R3411) の処理オプションの設定」

プロジェクト所要量計画の実行に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
詳細メッセージの処理	W3411D	「複数事業所計画の日次処理」(G3414)、「詳細メッセージの検討」	複数事業所PRPのメッセージを検討します。
詳細メッセージの改訂	W3411B	「詳細メッセージの処理」フォームでメッセージを選択し、「ロー」メニューから「メッセージの改訂」を選択します。	複数事業所PRPのメッセージを処理します。
需要/供給の処理	W4021B	「複数事業所計画の日次処理」(G3414)、「需要/供給照会」	複数事業所PRPの需要/供給を検討します。

複数事業所プロジェクト所要量計画の生成

「複数事業所計画」(G3423)の「MRP再生成」を選択します。

受注設計生産プロジェクトでは、プロジェクト作業オーダーの部品リスト行により、構成部品の需要が決まります。事業所間環境では、供給事業所が特定の構成部品の需要を満たします。

基準計画スケジュール - 複数事業所プログラム (R3483) を実行すると、プロジェクトの供給と需要の相関関係がシステムによって認識され、部品リスト上の構成品の転送オーダー・メッセージが作成されます。作成されたメッセージには、プロジェクト番号が含まれており、「需要ソース」フィールドのタスク番号により、作業階層構造 (WBS) のどの作業オーダーがプロジェクト補充メッセージを生成したかが示されます。

複数事業所 PRP のメッセージの処理

「詳細メッセージの改訂」フォームにアクセスします。

メッセージを処理するには、「ロー」メニューから「メッセージ処理」を選択します。生成されたオーダーを表示するには、「ビュー」メニューから「処理済みメッセージ」を選択します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 所要量計画 9.0 製品ガイド、「複数事業所計画の利用」

複数事業所 PRP の需要 / 供給の検討

「需要 / 供給の処理」フォームにアクセスします。

プロジェクト供給数量 別の事業所のプロジェクト需要を満たすために作成した転送オーダーが表示されます。このフィールドは、このプログラムの ETO 機能を有効にした場合にグリッドに表示されます。

プロジェクトのオーダーの作成

この項では、プロジェクトのオーダーの作成の概要および次の方法について説明します。

- プロジェクトの資材の購買オーダーの入力
- プロジェクト・ワークベンチ・プログラムを使用した購買オーダー情報の入力
- 関連オーダー (P31P204) の処理オプションの設定
- プロジェクトの関連オーダーの検討および作成
- プロジェクトへの既存作業オーダーの添付
- 関連オーダーの原価更新

プロジェクトのオーダーの作成について

計画メッセージに対する回答で、プロジェクト固有の品目について補充オーダー (購買オーダーと作業オーダー) を生成できます。プロジェクトに固有の品目用に作成した半組立品の作業オーダーは、自動的に作業階層構造 (WBS) に組み込まれます。既存の作業オーダーをプロジェクトのタスクに添付することもできます。

ビジネス・プロセスに応じて、プロジェクトに固有の品目についてプロジェクト固有の購買オーダーを部品リストから作成できます。購買オーダー・プログラム (P4310) で購買オーダーを作成してから、作業オーダー部品リスト・プログラム (P31P201) で購買オーダーを必要とする品目を検索することもできます。

プロジェクトの作業オーダーの資材購入に加えて、作業オーダーによって消費はされないがプロジェクトの成果物の一部として顧客に直接再販する品目を調達できます。

プロジェクトの資材の購買

製造処理の一環として、最終品目の生産に使用する原材料を購入する必要があります。JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産では、原材料の購買オーダーの作成方法をいくつか用意しています。計画メッセージから作業オーダーを生成する方法の他に、作業オーダーの部品リストから購買オーダーを手作業で入力するか、または購買オーダー・プログラムで直接入力できます。

プロジェクトに固有の在庫品目の購買オーダーを入力すると、勘定残高テーブル(F0902)のコミットメント金額を更新することにより、購買オーダーに対して会計上のコミットメントが作成されます。同時に、購買オーダー入力時に製造の債務があれば、その債務は削除されます。プロジェクトに対して「作業原価 I/F」オプションを選択していれば、製造の債務のみが作成されます。最後に、購買オーダーの取引が購買オーダー明細実績テーブル(F43199)に記録されます。

見積が承認済であれば、特定の作業オーダーについて「プロジェクト・ワークベンチ」フォームから作業オーダー部品リスト・プログラム(P3111)を呼び出し、購買オーダー・プログラムにアクセスできます。見積承認処理を実行する前に、購買オーダー・プログラムで購買オーダーを直接入力し、作業オーダー部品リスト・プログラム(P31P201)にアクセスして購買オーダーの品目を選択できます。

再販するプロジェクト品目の購買

プロジェクトの成果物には自社で製造しない品目を含めることもできます。この場合、その他のソースから品目を購入してプロジェクトの顧客に再販することになります。購入する品目は、製造作業オーダーが消費する構成品ではありません。これらは、仕入先から顧客に直接出荷します。これらを別の事業所から購買し、プロジェクトの事業所に移動することもできます。その他の方法として、プロジェクトのその他の成果物とともに顧客に送るまで、これらの品目を購入してプロジェクトに固有の在庫として保管しておくこともできます。

プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)では、記述(または集計)タスクを使用して、プロジェクトに固有の購買品目を作成およびトラッキングします。直送オーダー、転送オーダー、受注オーダー、クレジット・オーダーまたは購買オーダーなどの関連オーダーをすべてトラッキングできます。

プロジェクトの記述タスクを関連オーダーに関連付けるために、オーダー情報が関連オーダー相互参照テーブル(F4080)に保存されます。このテーブルには、関連オーダーからの記述タスクのオーダー番号およびオーダー・タイプ、伝票タイプや合計原価、オーダー状況(参照のみ)などの明細情報が含まれます。

プロジェクトの関連オーダーには、「プロジェクト・ワークベンチ」フォームの「関連オーダーの表示」領域からアクセスできます。ワークベンチでプロジェクト・タスクを選択した後、タスクの既存のオーダーを編集するか、直送オーダー、転送オーダー、受注オーダー、購買オーダーまたはクレジット・オーダーを作成できます。

また、関連オーダー・プログラム(P31P204)には「プロジェクト・ワークベンチ」メニューからアクセスできます。関連オーダーを作成するには、「関連オーダーの処理」フォームの見出しに、有効なプロジェクト番号、記述タスク・オーダー番号、およびオーダー・タイプが入力されている必要があります。直送や転送オーダー、受注オーダーの作成、クレジット・オーダーの作成、購買オーダーの作成で使用するオーダー入力プログラムのバージョンにアクセスするには、「フォーム」メニューを使用します。プロジェクト番号は、受注オーダーや購買オーダー・プログラムに渡されます。

関連オーダーを検討および改訂する際は、「ロー」メニューからオーダー入力プログラムを選択すると、オーダーの情報にアクセスできます。「関連オーダーの処理」フォームでは、すべての関連オーダーの固有の品目が、ツリー構造で表示されます。個々のオーダーは、詳細グリッドに表示されます。

注意: 関連オーダーが添付されている記述タスクは、すべての関連オーダーのオーダー活動状況が999(終了)でないかぎり、取り消したり終了したりすることはできません。F4080テーブルは、受注オーダー明細テーブル(F4211)および購買オーダー明細テーブル(F4311)からオーダー状況を読み込みます。

プロジェクトへの既存の作業オーダーの添付

JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産では、既存の作業オーダーをプロジェクトに添付できます。既存の作業オーダーの検索は、「プロジェクト・ワークベンチ」の「タスク・アクション」フィールドから実行できます。プロジェクトに添付する作業オーダーは、次の条件を満たしている必要があります。

- 別のプロジェクトに含まれない。
- 作業オーダー部品リストの品目について出庫が実行されている。
- 作業オーダーの作業時間/作業量が転記されていない。
- 作業オーダーがコンフィギュレーション作業オーダーの場合、最上位の作業オーダーである。
作業オーダーの子もすべて添付されます。

関連原価

関連オーダー費用の更新プログラム(R31P405)を使用して、プロジェクトの関連オーダーの計画原価および実際原価を更新します。

特定の記述タスクの計画原価と実際原価を累計するには、「関連オーダーの処理」フォームの「プロジェクト・アクション」フィールドから「原価の累計」オプションを使用します。F4080テーブルを使用して、次のテーブルおよび計算により、オーダーの原価が選択されます。

原価	テーブル	フィールド
計画原価	購買オーダー明細(F4311)	購買明細行の合計金額(AEXP)
実際原価	入荷確認(F43121)	照合タイプ2(伝票照合後)の購買明細行の累計支払金額(APTD)

計算された計画原価および実際原価は、購買品目の資材費として作業オーダー・マスター・タグ・テーブルに保存されます。

プロジェクトのオーダーの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの処理	W4310I	「購買オーダー処理」(G43A11)、「購買オーダーの入力」	「オーダー明細」フォームにアクセスします。 注意: 「オーダー明細」フォームを最初に表示するには、「処理」タブの「見出し表示」処理オプションをブランクにする必要があります。
オーダー明細	W4310A	「オーダー見出しの処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	プロジェクトの資材の購買オーダーを入力します。
作業オーダー部品リストの処理	W31P201B	「オーダー明細」フォームの「ロー」メニューから「部品リスト」を選択します。	構成部品を購入する作業オーダー行を選択します。
タスクの編集	W31P001I	「プロジェクト・ワークベンチ」(G31P12)、「プロジェクト・ワークベンチ」 プロジェクトを「プロジェクトの検索」フォームで選択し、「タスクの編集」を選択します。	「プロジェクト・ワークベンチ」フォームの「関連オーダーの表示」領域を使用して、プロジェクト・タスクの既存のオーダーを編集するか、新規オーダーを作成します。
関連オーダーの処理	W31P204A	「プロジェクト・ワークベンチ」(G31P12)、「関連オーダー」	関連オーダー情報を検討し、オーダー・プログラムにアクセスして関連オーダーを作成します。

プロジェクトの資材の購買オーダーの入力

「オーダー明細」フォームにアクセスします。

必要な購買オーダー情報を入力します。

プロジェクト・ワークベンチ・プログラムを使用した購買オーダー情報の入力

「タスクの編集」フォームにアクセスします。

プロジェクト・ワークベンチからプロジェクトの資材の購買オーダーを入力するには、次の手順に従います。

1. 階層グリッドでプロジェクト・タスクを選択します。
2. 「タスク・アクション」フィールドで「製造部品リスト」を選択し、「>>」ボタンをクリックします。
3. 「作業オーダー部品リスト」フォームで、購買オーダーを作成するプロジェクト固有の部品を選択し、「ロー」メニューから「購買オーダー作成」を選択します。

注意: 購買オーダーを作成する前に仕入先レコードが存在する必要があります。

購買オーダー情報(オーダー番号、オーダー・タイプ、行番号)が品目の部品リストの行に表示されます。

関連オーダー (P31P204) の処理オプションの設定

この処理オプションでは、関連オーダー・プログラムのデフォルト処理を制御します。

バージョン

この処理オプションでは、関連オーダー・プログラムから他のプログラムを呼び出したときに使用されるバージョンを制御します。

1. 直送オーダー (P4210) 「関連オーダーの処理」フォームの「ロー」メニューから「直送」を選択したときに、使用される受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0005 が使用されます。
2. 転送オーダー (P4210) 「関連オーダーの処理」フォームの「ロー」メニューから「転送オーダー」を選択したときに、使用される受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0007 が使用されます。
3. 受注オーダー (P4210) 「関連オーダーの処理」フォームの「ロー」メニューから「受注オーダー」を選択したときに、使用される受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
4. 購買オーダー (P4310) 「関連オーダーの処理」フォームの「ロー」メニューから「購買オーダー」を選択したときに、使用される購買オーダー・プログラム (P4310) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0030 が使用されます。
5. クレジット・オーダー (P4210) 「関連オーダーの処理」フォームの「ロー」メニューから「クレジット・オーダー」を選択したときに、使用される受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0002 が使用されます。

プロジェクトの関連オーダーの検討および作成

「タスクの編集」フォームにアクセスします。

親タスク: 863965 ET

レコード 1-2

Order No.	Order Type	Order Company	Order Suffix	PO/SO Line No.	Order Description	前状況	次状況	品目番号	品目記述
459621	S4	00001	000	1.000	Mountain Bike, Red			60011	Mountain

オーダーの編集 移動 --1つ選択--

「タスクの編集」フォーム: 「関連オーダーの表示」領域

1. 階層グリッドでプロジェクト・タスクを選択し、「プロジェクト・ワークベンチ」フォームの「関連オーダーの表示」領域にアクセスします。

2. 既存のオーダーを検査します。
3. 既存のオーダーを変更するには、オーダーを選択し、「オーダーの編集」ボタンをクリックします。
4. 新規オーダーを作成するには、「移動」フィールドで値を選択し、「>>」ボタンをクリックしてオーダー入力プログラムにアクセスします。

表示されるオーダー明細フォームにオーダー情報を入力します。プロジェクト・タスクに対して直送オーダー、転送オーダー、受注オーダー、購買オーダーおよびクレジット・オーダーを追加できます。

注意: また、メニューから関連オーダー・プログラム (P31P204) にアクセスし、プロジェクトの関連オーダーを検査および作成できます。

「タスクの編集」フォームと、フォームに関連する領域は、次のタスクで確認できます。

参照: [第 4 章、「プロジェクトの立上げ」、「プロジェクトの処理」、41 ページ](#)

参照: [第 4 章、「プロジェクトの立上げ」、「タスクの従属関係の定義」、55 ページ](#)

プロジェクトへの既存の作業オーダーの添付

「タスクの編集」フォームにアクセスします。

「プロジェクト・ワークベンチ」から既存の作業オーダーをプロジェクトに添付するには、次の手順に従います。

1. 既存の作業オーダーに添付するプロジェクト・タスクを選択します。
2. 「タスク・アクション」フィールドから「作業オーダーの添付」を選択します。
3. 「作業オーダーの検索」フォームで、「オーダーNo.」フィールドに値を入力し、プロジェクト・タスクに添付する作業オーダーを検索します。
4. 作業オーダーを選択して「選択」をクリックします。
選択した作業オーダーが、「プロジェクト・ワークベンチ」フォームの詳細グリッドで、親タスクの下に表示されます。
5. 「保存して閉じる」または「保存して続行」をクリックして作業オーダーをWBSに保存します。

関連オーダーの原価更新

「プロジェクト・ワークベンチ」(G31P12) の「関連オーダー費用の更新」を選択します。

このレポートには、プロジェクト属性テーブル (F31P01) からのプロジェクト情報と、タスク情報、WBS にアップロードする計画原価と実際原価が印刷されます。記述タスクの計画原価と実際原価が累計されている場合のみ、タスクおよび原価の情報を印刷できます。

プロジェクトのコミットメントの設定

この項では、プロジェクトのコミットメントの概要と次の方法について説明します。

- プロジェクトの作業オーダーの在庫引当の検討
- コミットメント再作成 (R31P993) の処理オプションの設定
- コミットメント監査証跡の作成

プロジェクトのコミットメントについて

プランニング・フェーズでは、作業オーダーや購買オーダーについて在庫引当(コミットメント)や会計上のコミットメントが以前に作成されていない場合、その作成処理を実行します。JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産では、顧客が見積を承認するまでコミットメントの作成を遅らせることができます。プロジェクト属性の「コミットメントのタイミング」オプションを選択すると、その時点の在庫引当や会計上のコミットメントを作成せずに、オーダー処理プログラム(R31410)を実行して見積原価を入手できます。見積承認処理の前のコミットメントを省略すると、見積承認処理の一環としてオーダー処理プログラムを自動的に実行するときにコミットメントが作成されます。

在庫引当

オーダー処理プログラム(R31410)を実行すると、処理する作業オーダーに部品リストが添付され、製造固定情報プログラム(P3009)の引当制御の設定に従って、部品リストの部品に対して在庫引当が作成されます。特定のプログラム用に構成部品やその他資材を予約するには、特殊取扱コードをP1にしてプロジェクト関連の在庫タイプを割り当てると、品目をプロジェクト固有の資材として設定できます。品目がプロジェクトと関連付けられている場合、プロジェクトのハード・コミットがクリアされていなければ、プロジェクトに含まれない作業オーダーにはこの資材を出庫できません。

見積承認処理を実行する際にWBSの作業オーダーに対してオーダー処理が実行されると、事業所品目テーブル(F4102)で指定した引当方式に基づいて、すべての構成部品数量がハードコミットされます。プログラムはWBSの全作業オーダーを降順に処理して、プロジェクト引当明細テーブル(F410211)にプロジェクト固有の引当を作成します。

購買オーダーのプロジェクト固有品目については、入荷確認プログラム(P4312)を使用して購買オーダーを入荷する際に、特定の保管場所およびロットにハードコミットが作成されます。資材を出庫すると在庫引当はリリースされます。処理オプションを設定して、行タイプ固定情報の「資材出庫プログラムの呼出し」オプションを選択した品目について、在庫出庫プログラム(P4112)を自動的に呼び出すことができます。

プロジェクトのコミットメント明細照会プログラム(P410211)を使用すれば、プロジェクト固有の在庫引当を検討できます。このプログラムは、保管場所とロット、シリアル番号の他に、プロジェクトの作業オーダーにハードコミットされた構成部品数量を基本単位で表示します。プロジェクトに引き当てられた在庫の合計数量は、品目保管場所テーブル(F41021)の「プロジェクト用にハードコミットした数量」フィールドに集計されます。この情報は、在庫集計照会プログラム(P41202)で検討できます。

会計上のコミットメント

JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムを使用している場合、プロジェクト・タスクに会計上のコミットメントを作成できます。会計上のコミットメントとは、将来の支払義務を認識することです。会計上のコミットメントを作成することにより、次のことが可能になります。

- 予算と残りの金額を検討できます。
計画上の最終原価と実際原価累計を比較することにより、完了率を計算できます。実際原価の差異および期間による収益差異が発生するのを防ぐため、完了率は利益認識につながります。
- 最終のプロジェクト原価を計算できます。
- 変更オーダーの実行を容易にします。
- プロジェクトが取り消された場合に、引当済の在庫に関連付けられた損失を差し引く際の基準となる情報を提供できます。

購買の債務を作成するだけでなく、製造作業オーダーの在庫構成部品に会計上のコミットメントを作成することもできます。会計上のコミットメントは、資材がハードコミットされたときに発生します。作業オーダーに関連付けられた労務費にはコミットメントは作成しません。

注意: 製造作業オーダーの会計上のコミットメントを実行するには、プロジェクト会計UDCテーブル(31P/AI)でプロジェクトで使用するAAI 3120(仕掛品)を設定し、コミットメント伝票タイプUDCテーブル(40/CT)に製造作業オーダーを含める必要があります。

対話形式で、またはオーダー処理プログラムを実行して、作業オーダーに部品リストと作業工程を添付すると、引き当てた在庫の合計金額を計算することにより、作業オーダーに対して会計上のコミットメントが作成されます。F0902テーブルの関連レコードのPA/PU元帳金額が更新され、F43199テーブルに取引が入力されます。また、F4801Tテーブルに、当初および残りのコミット済金額が記録されます。

注意: 半組立品について会計上のコミットメントが重複しないようにするために、半組立品の作業オーダーに部品リストを添付すると、親作業オーダーからコミットした金額が差し引かれます。親作業オーダーに構成部品を添付すると、システムはその構成部品に半組立品の作業オーダーが存在するかどうかチェックします。この場合、会計上のコミットメントの合計金額の計算にはそれらの原価も含まれます。

製造作業オーダーの在庫構成部品に対する会計上のコミットメントは、作業オーダーを完了するとリリースされます。プロジェクト関連の作業オーダーに対する出庫取引が転記されると、会計上のコミットメントは解除され、F4801Tテーブル、F0902テーブル、およびF43199テーブルのコミット済金額が更新されます。続いて、元帳タイプAAの実績金額が転記されます。

コミットメント整合性レポート(R40910)を実行して、未決済オーダー金額がコミット済金額およびF0902テーブルの金額と一致するかどうか判断します。金額が一致しなければ、会計上のコミットメントを除去してから、コミットメント再作成プログラム(R31P993)を使用して監査証跡を作成できます。

必要な場合には、コミット済原価の作業への転記プログラム(R00932)を実行して、F43199テーブルの製造関連レコードの値などのPA元帳のコミットメントをF0902テーブルに再転記できます。

製造作業オーダーの構成部品の購買オーダーを作成すると、その作業オーダーの会計上のコミットメントはリリースされます。この時点から会計上のコミットメントは、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで作成および管理されます。

仕訳の転記プログラム(R09801)を実行して資材取引を元帳に転記すると、関連の会計上のコミットメントはリリースされます。取引明細テーブル(F0911)の「補助元帳」フィールドの作業オーダー番号がプロジェクト作業オーダーを示す場合、その作業オーダーの会計上のコミットメントはリリースされます。会計上のコミットメントがリリースされると、F4801Tテーブル、F0902テーブル、およびF43199テーブルが更新されます。

会計期間の末に残っている会計上のコミットメントを繰り越す場合、債務繰越プログラム(R4317)を使用して前年の購買オーダーおよび作業オーダーのコミット済行をリリースし、現行年度の元帳日付で再度コミットできます。製造作業オーダーの会計上のコミットメントを含めるには、処理オプションを設定する必要があります。

プロジェクトの作業オーダーの在庫引当の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
プロジェクト・コミットメント明細の処理	W410211A	「プロジェクト・ワークベンチ」(G31P12)、「プロジェクト・コミットメント詳細照会」 「プロジェクト・コミットメント明細の処理」フォームで、「プロジェクトNo.」フィールドに値を入力し、「検索」ボタンをクリックします。	プロジェクトの作業オーダーの在庫引当を検討します。

プロジェクトの作業オーダーの在庫引当の検討

「プロジェクト・コミットメント明細の処理」フォームにアクセスします。

プロジェクト・ハード・コミット数量 プロジェクトにハードコミットされた在庫が表示されます。

コミットメント再作成 (R31P993) の処理オプションの設定

この処理オプションでは、コミットメント再作成プログラムのデフォルト処理を制御します。

処理

この処理オプションでは、レポートに含めるレコードを制御します。

- 1. 作業オーダーの終了状況**
終了作業オーダーの状況を指定します。指定した終了作業オーダー状況未満の作業オーダーのみが、システムにより処理されます。この処理オプションをブランクにすると、終了作業オーダーに対してデフォルト状況の99が使用されます。
- 2. 購買オーダー/外注契約の組み込み**
F43199コミットメント監査証跡の作成プログラム (R00993) を実行して、購買オーダー明細実績テーブル (F43199) に、プロジェクトに関連する購買オーダーおよび外注契約のレコードを作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 購買オーダーまたは外注契約を含めません。
1: プロジェクトに関連する購買オーダーまたは外注契約のみ含めます。
2: 勘定科目に関連する購買オーダーまたは外注契約のみ含めます。
3: すべての購買オーダーまたは外注契約を含めます。

コミットメント監査証跡の作成

「定期処理」(G31P20) の「コミットメント再作成」を選択します。

会計上のコミットメントを手作業で除去した場合、コミットメント再作成プログラム (R31P993) を使用して、製造作業オーダーや購買オーダーに関連するプロジェクトの会計上のコミットメントの監査証跡を作成できます。このプログラムは、F4801テーブル、F3111テーブル、およびF4311テーブルの情報に基づいて処理を行います。

このプログラムでは、アクティブなプロジェクトの未処理の購買オーダーおよび作業オーダーがすべて処理されます。このプログラムは、各オーダーの部品リストにコミットされた金額の合計レコードをF43199テーブルに作成します。次に、コミットメント監査証跡の作成プログラム (R00993) を呼び出して、特定のプロジェクトまたは勘定科目に関連する購買オーダーの各行のレコードをF43199テーブルに作成します。

第 6 章

プロジェクトの実行および統制の利用

この章では、プロジェクトの実行および統制の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- プロジェクト・ワークベンチへの実際原価の積上げ
- プロジェクトのレポートと警告の生成
- プロジェクトの完了

プロジェクトの実行および統制について

この項では、事前設定、およびプロジェクトの実行および統制について説明します。

事前設定

オーダーの入力/変更プログラム (P48013) およびレート・スケジュールの入力/変更プログラム (P3109) の処理オプションを、変更になった作業オーダーの部品リストと作業工程を再計算および更新するように設定します。

プロジェクトの実行および統制

予算を凍結したら、プロジェクトの実行および統制フェーズを開始します。実行ステージでは、製造現場の作業オーダーを完了して、プロジェクトの最終品目の生産で発生した実績資材、労務、機械稼働費の情報を集めます。プロジェクトの会計処理は、プロジェクトが JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムとインターフェイスをとるかどうかに変わります。

また、プロジェクトの実際原価の品目の仕掛在庫を再評価できます。実際原価のワークベンチへの積上げプログラム (R31P301) を使用して、プロジェクトに設定した原価分類体型に基づき、報告済の実際原価をワークベンチの対応する原価バケットに積み上げることができます。実際原価の積上げによって、プロジェクト・ワークベンチ・プログラム (P31P001) の原価情報が最新となり、予実差異をトラッキングできます。

構成品または再販品目として購入した品目を入荷して、それらの支払を処理します。プロジェクトについて JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムとともにサービスおよび契約を使用している場合、JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理との統合機能を利用できます。

また、JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産では、プロジェクト・スケジュール・レポート (R31P400) やプロジェクト原価レポート (R31P401) など、プロジェクト情報の管理に使用できる多くのレポートを作成できます。JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムを JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産とともに使用すれば、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価のレポートを使用して予算情報をトラッキングし、収益性を分析することもできます。

プロジェクト作業オーダーの出庫および完了

在庫出庫プログラム (P31113) を使用してプロジェクトに固有な作業オーダーの構成部品を出庫すると、システムは在庫状況をチェックしてこの構成部品が他のプロジェクトにより予約済でないことを確認します。在庫が別のプロジェクトのものである場合、その資材は出庫できません。使用できる在庫のある他の保管場所を指定する必要があります。

当初割り当てたよりも多くの資材がプロジェクトに必要な場合、他のプロジェクトに割り当てられなければ、在庫を持つ保管場所から資材を出庫できます。特定の品目の需要合計が満たされると、関連レコードが F410211 テーブルから消去されます。

プロジェクト固有の在庫を移動する場合、プロジェクト・コミットメント明細ウィンドウ・プログラム (P410211W) が呼び出されるので、移動するプロジェクト番号と数量を選択してください。プロジェクトにハードコミットした数量は、同じビジネスユニットの保管場所間でのみ移動できます。ビジネスユニット間の移動はできません。

プロジェクトの作業オーダーの半組立品を完了すると、作業オーダー完了プログラム (P31114) で指定した保管場所とロット/シリアル番号により、親作業オーダーの部品リストが更新されます。この更新により、親作業オーダーと作業オーダーが所属するプロジェクトに在庫が直接関連付けられます。

半組立品の作業オーダーが部分的に完了すると、親作業オーダーの部品リスト行が分割されます。当初の構成部品行は残数を示し、完了情報を含む新しい行が挿入されます。

完了超過の場合、関連の部品リスト行が完了保管場所およびロット/シリアル番号により更新されます。ただし、関連のプロジェクト・コミットメント・レコードは、当初の構成部品数量のみを示します。

完了せずにプロジェクトの作業オーダーを終了すると、プロジェクト固有の構成部品数量はコミットされたままになります。転記を実行すれば、この不一致を解決できます。未処理作業オーダーの再転記プログラム (R3190) を実行すると、未処理の製造作業オーダーの数量を、F41021 テーブルと F410211 テーブルにある、プロジェクト固有のコミットメント数量と同期させることができます。

正味変更

プロジェクト・ワークベンチ・プログラムの処理オプションを設定し、正味変更を実行するかどうかを決定できます。正味変更では、製造作業オーダーのオーダー数量、単位、または日付に変更があった場合に、その作業オーダーの部品リストおよび作業工程が更新されます。正味変更処理プログラム (R31430) が呼び出されて、正味変更が処理されます。この処理オプションを設定した場合、「プロジェクト・ワークベンチ」フォームで「保存して閉じる」をクリックすると正味変更処理が実行されます。

注意: サービス・オーダー、設備オーダー、コンフィギュレーション作業オーダーについては正味変更処理は実行されません。製造作業オーダーの構成部品のいずれかが「倉庫にあり」の状況の場合、正味変更処理は実行できません。

「プロジェクト・ワークベンチ」フォームで製造作業オーダーの数量や単位、日付を変更する場合、変更した作業オーダー・レコードは正味変更取引テーブル (F3115) に保存されます。部品リストや作業工程が製造作業オーダーに添付してある場合、システムは正味変更プログラムを呼び出して部品リストと作業工程を更新します。

正味変更処理では、次の処理が行われます。

- 単位当たり数量を使用して、部品リストの構成部品数量を再計算します。
- 在庫引当を処理します。
- 単位当たり時間数を使用して、各工程作業の労務費および機械稼働費を再計算します。
- 正味変更係数を使用して、標準および最新の製造原価を再計算します。
- 原価見積を読み込んでから分類して積み上げます。

- JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムと統合されるプロジェクトの作業オーダーについて会計上のコミットメントを調整します。
- 出庫や時間入力トランザクションなどのアクティビティが作業オーダーに対して記録された場合に、警告を表示します。

プロジェクトの会計処理に関する考慮事項

特定のプロジェクトの財務分析や収益性を判断するには、次のタスクを行う必要があります。

- プロジェクト勘定科目と一般勘定科目を区別します。
- ETOプロジェクトを原価、収益面で独立して管理します。
- プロジェクト固有の勘定科目から一般勘定科目に勘定科目情報をスムーズに移行します。
- JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムなどの他のシステムとプロジェクト固有の勘定科目を統合します。

JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムを使用していない場合は、プロジェクト専用のビジネスユニットを作成することも、デフォルトのビジネスユニットとしてプログラムの事業所を使用することもできます。プロジェクト用にビジネスユニットを作成した場合、レポートされる原価はそのプロジェクト全体としてのみ参照できます。勘定科目コードに基づいて、実際原価はタスク別にレポートされますが、タスク明細レベルでは表示されません。

デフォルトのビジネスユニットとして事業所を使用した場合、作成したすべてのトランザクションの仕訳はプロジェクト固有ではありません。プロジェクト・ワークベンチ・プログラムで原価をレポートし、原価がプロジェクト固有のものであっても、プロジェクト固有の勘定科目構造では、プロジェクト原価は財務分析用に認識されません。

JD Edwards EnterpriseOne 作業原価を使用しないプロジェクト固有の会計処理については、「プロジェクトの追加/改訂」フォームの「作業原価」タブにプロジェクトの元帳クラス・コードを定義できます。AAIは、この元帳クラス・コードを使用して、特定のプロジェクトに使用される勘定科目を決定します。

プロジェクトの「作業原価I/F」オプションを選択する場合、プロジェクトのビジネスユニットとして作業ビジネスユニットと関連する勘定科目表を使用します。この勘定科目構造はプロジェクト固有です。

プロジェクト固有の半組立品や購入品などの部材の出庫の際、プロジェクト固有の仕掛勘定 (WIP) の借方と、プロジェクト固有の在庫勘定の貸方に項目を作成します。半組立品の場合、原価タイプ A1 または A2 にすべての原価をまとめてしまうのではなく、原価タイプ別に仕訳が作成されます。プロジェクトの最上位レベルの品目を完了する場合、一般の在庫勘定ではなく、プロジェクト固有の勘定科目に対してそれらを完了します。

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムで在庫品目の販売が可能かどうかを判断する際、一般の在庫勘定がまず検索されます。JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムから、プロジェクトで生産された在庫にアクセスできるようにするには、仕訳のコピーを作成し、プロジェクト在庫勘定およびプロジェクト仕掛品勘定の他に、相手勘定の貸方 (AAI 3140) と一般在庫勘定の借方にそれぞれ項目を作成します。

注意: プロジェクト会計ユーザー定義コード (UDC) テーブル (31P/AI) で、プロジェクトの会計処理に対して相手勘定 AAI (3140) をアクティブにする必要があります。

プロジェクト・ワークベンチへの実際原価の積上げ

この項では、プロジェクト・ワークベンチへの実際原価の積上げの概要、事前設定、およびプロジェクト・ワークベンチへの実際原価の積上げ方法について説明します。

プロジェクト・ワークベンチへの実際原価の積上げについて

プロジェクト管理者は、原価をプロジェクト・ワークベンチに積み上げて、どの時点でもプロジェクトの個々のタスクについて報告された実際原価を検討できます。たとえば、ある製造タスクについて資材の出庫、労働、完了が報告され、これらのアクティビティの実際原価が集計されます。また、実際原価の積上げにより、プロジェクト管理者は、見積原価と実際原価を比較して差異がある場合にその差異を分析できます。

実際原価のワークベンチへの積上げプログラム(R31P301)を使用して、製造処理の過程で作業オーダーについて収集する実際原価情報をプロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)の次の原価フィールドに積み上げます。

- 実際資材費
- 実際労務費
- その他実費
- 実績特殊数量
- 実績特別金額

プロジェクトは製造タスク、非製造タスクの2つのタスク・タイプから成り立っているので、2つの異なるソースから原価を集計する必要があります。製造タスクに関連した原価は、製造会計を通してトラッキングされます。原価は、製造原価テーブル(F3102)に保存されます。ただし、製造会計は非製造タスクには適用されません。非製造タスクに関連する原価は、F0911テーブルに保存されます。

注意: 非製造タスクは、製造バッチ・タイプとは異なるバッチ・タイプで取引明細に転記されます。ただし、この原価をトラッキングするには、原価が発生したタスクまたは作業オーダー番号を「補助元帳」フィールドに入力する必要があります。

原価分類プログラム(P31P301)で設定された原価タイプと勘定科目の原価分類に基づいて、プロジェクトのすべてのタスクが評価され、タスク・タイプに応じて、F3102テーブルまたはF0911テーブルから原価が取り込まれ、実際原価フィールドに原価が更新されます。原価フィールドの情報は、F4801Tテーブルに保存されます。

事前設定

原価タイプと勘定科目をプロジェクト・ワークベンチ・プログラムの原価バケットにマッピングする原価分類テーブルを設定します。

プロジェクト・ワークベンチへの実際原価の積上げ

「原価分類」(G31P31)の「実際原価のワークベンチへの積上げ」を選択します。

プロジェクトのレポートと警告の生成

この項では、プロジェクトのレポートと警告の概要と次の方法について説明します。

- プロジェクト・スケジュール・レポートの実行
- プロジェクト・スケジュール・レポート(R31P400)の処理オプションの設定
- プロジェクト原価レポートの実行
- プロジェクト原価レポート(R31P401)の処理オプションの設定

- プロジェクト在庫レポートの実行
- プロジェクト在庫レポート (R31P402) の処理オプションの設定

プロジェクトのレポートと警告について

JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産には、プロジェクトの実行/統制フェーズ中にプロジェクト情報を管理できるバッチ・プログラムが数多く用意されています。これらのプログラムは、状況および例外情報を提供します。プロジェクト・ワークベンチで警告対象として設定されているタスクについては、各タスクの担当者に警告が送信されます。各タスクには、管理者、監督者、およびタスク担当者の3人を設定できます。各レポートは、各タスクの関係者のどの組合せにも警告を送信するよう設定できます。

JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産には、次のレポートが用意されています。

- プロジェクト・スケジュール・レポート (R31P400)
- プロジェクト原価レポート (R31P401)
- プロジェクト在庫レポート (R31P402)

プロジェクト・スケジュール・レポートの実行

「プロジェクト・レポート」(G31P14)の「プロジェクト・スケジュール・レポート」を選択します。

プロジェクト・スケジュール・レポート・プログラムを使用して、計画の開始/終了日および実際の開始/終了日を印刷します。F4801テーブルに基づいて、1件または複数のプロジェクトのタスク情報を印刷できます。

タスクに購買オーダーまたは外注契約が添付されている場合、これらのオーダーの情報もレポートに含まれます。たとえば、約束日付と入荷日付、オーダー数量、および入荷数量を含めることができます。

警告対象のタスクでは、実際の終了日付が処理オプションで指定する日数以上に計画より遅い場合、スケジュール例外メッセージが送信されます。購買オーダーや外注契約が添付されているタスクでは、入荷日付が指定した日数以上に約束日付より遅い場合に警告メッセージが送信されます。

またレポートでは、完了作業オーダー数量と入荷済購買オーダー数量がオーダー数量と比較されます。完了または入荷済数量が処理オプションで指定したしきい値以上にオーダー数量より少なく、オーダーが終了しているか取り消された場合、数量例外メッセージが送信されます。例外メッセージは、警告メッセージを送信するよう設定していない場合でもレポートに表示されます。

プロジェクト・スケジュール・レポート (R31P400) の処理オプションの設定

この処理オプションでは、プロジェクト・スケジュール・レポートのデフォルト処理を制御します。

処理

この処理オプションでは、警告の送信先と、レポート実行の際に警告が送信される状況を制御します。

- | | |
|-------------------------|---|
| 1. タスク管理者への警告の送信 | タスクに関連付けられている管理者にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 送信しません。
1: 送信します。 |
| 2. タスク監督者への警告の送信 | タスクに関連付けられている監督者にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 送信しません。 |

- 1: 送信します。
- 3. タスクの担当者への警告の送信** タスクの「担当者」フィールドで指定されている住所録番号にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 送信しません。
 1: 送信します。
- 4. メーリング・リスト、組織構造タイプ** 警告の配布リストを指定し、組織構造タイプを選択します。
- 5. 計画終了または約束日付を基準とした、入荷遅延やオーダー完了のしきい値(日数)** オーダーの入荷または完了が可能な、計画終了日付または約束日付よりも後の日数を指定します。入荷または完了遅延のしきい値を超えると、作業オーダーのスケジュール例外メッセージが作業オーダーの担当者に送信され、購買オーダーのスケジュール例外メッセージが適切な担当者に送信されます。
- 6. 作業オーダーや購買オーダーのオーダー数量を基準とした、不足分のしきい値(パーセント)** 作業オーダーまたは購買オーダーの不足分の許容パーセントを指定します。しきい値を超えると、例外メッセージがタスクの担当者に送信されます。作業オーダーと購買オーダーについては、数量に関する例外メッセージが担当者に送信されます。

デフォルト

この処理オプションでは、作業オーダーまたは購買オーダー行が終了していると考えられる状況を指定します。

- 1. 作業オーダーの終了状況** 作業オーダーの終了時に使用する状況を指定します。ブランクにすると、状況コード99が使用されます。
- 2. 購買オーダー行の終了状況** 明細行が終了されたかまたは完全に入荷された後の、オーダーの“次の状況”を指定します。ブランクにすると、終了されたかまたは完全に入荷された明細行に対して状況コード999が割り当てられます。

プロジェクト原価レポートの実行

「プロジェクト・レポート」(G31P14)の「プロジェクト原価レポート」を選択します。

プロジェクト原価レポート(R31P401)を使用して、タスクのリストを印刷し、次の原価金額を表示します。

- 仕掛品金額
- 計画および見積の資材費、労務費、その他費用、および特別費
- 実際原価の累計
- 部品リストおよび購買オーダーからのコミット済金額

F4801テーブルに基づいて、1件または複数のプロジェクトのタスク情報を印刷できます。

仕掛品金額は、F3102テーブルのすべての未計上の完了/仕損金額合計を差し引いて算出されます。結果がゼロになった場合、例外は存在せず、仕掛品金額は印刷されません。仕掛品金額が正の数の場合、完了金額のすべてのアクティビティが報告されないことがレポートに示されます。値が負の数になった場合は、例外レポートが完了超過の状況であることを示します。

F4801テーブルの対応する原価フィールドから、レポート用に見積、計画、および実際金額が取り込まれます。F3111テーブルおよびF43199テーブルの未決済コミットメント額からコミット済金額が算出されます。

累計の実際原価の合計が処理オプションで指定したパーセント以上に予算を超過した場合、警告対象タスクに対して予算例外メッセージが作成されます。タスクに関連する購買オーダーまたは外注契約があり、入荷金額が処理オプションで指定したパーセント以上に合計金額を超過した場合、支払超過例外メッセージが送信されます。

例外メッセージは、警告メッセージを送信するよう設定していない場合でもレポートに表示されます。

プロジェクト原価レポート(R31P401)の処理オプションの設定

この処理オプションでは、プロジェクト原価レポートのデフォルト処理を制御します。

処理

この処理オプションでは、このレポート印刷時に警告が送信されるタイミングと状況を制御します。予算上の例外を算出する際、仕掛品の金額を含めるかどうかも指定できます。

- | | |
|--|--|
| 1. レポートの予算原価 | レポートの予算原価のソースを指定します。空白にすると、見積原価がソースとして使用されます。値は次のとおりです。
1: 見積原価
2: 計画原価 |
| 2. タスク管理者への警告の送信 | タスクに関連付けられている管理者にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 送信しません。
1: 送信します。 |
| 3. タスク監督者への警告の送信 | タスクに関連付けられている監督者にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 送信しません。
1: 送信します。 |
| 4. タスクの担当者への警告の送信 | タスクの「担当者」フィールドで指定されている住所録番号にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 送信しません。
1: 送信します。 |
| 5. メーリング・リスト、組織構造タイプ | プロジェクト警告を送信するための配布リストを指定し、配布リストの組織構造タイプを選択します。 |
| 6. 予算原価差異のしきい値(パーセント) | 予算原価と実際原価の許容差異比率を指定します。しきい値を超えると、予算例外メッセージが担当者に送信されます。 |
| 7. 購買オーダー原価に対する入荷超過のしきい値(パーセント) | 購買オーダーの原価に対する入荷超過の許容パーセントを指定します。しきい値を超えると、支払超過例外メッセージが担当者に送信されます。 |
| 8. 予算例外を計算するための実際原価の計算に仕掛品を含める | 予算例外の計算時に、仕掛金の金額を実際原価に含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。
空白: 含めない。
1: 含める。 |

プロジェクト在庫レポートの実行

「プロジェクト・レポート」(G31P14)の「プロジェクト在庫レポート」を選択します。

プロジェクト在庫レポートを使用して、タスクの部品リストを印刷します(存在する場合)。F4801テーブルおよびF31P01テーブルに基づいて、1件または複数のプロジェクトのタスク情報を印刷できます。部品リストの各構成品については、発注残数が計算され、印刷されます。つまり、オーダー数量から在庫数量を差し引いていきます。各構成品については、F41021テーブルが検索され、引当可能数量が決定します。

タスクが警告対象で引当可能数量が処理オプションで指定したしきい値以上にゼロを下回り、未処理数量がゼロより大きい場合、在庫状況に関する例外メッセージが送信されます。

例外メッセージは、警告メッセージを送信するよう設定していない場合でもレポートに表示されます。

プロジェクト在庫レポート(R31P402)の処理オプションの設定

この処理オプションでは、プロジェクト在庫レポートのデフォルト処理を制御します。

処理

この処理オプションでは、このレポート印刷時に警告が送信されるタイミングと状況を制御します。

- | | |
|-------------------------------|--|
| 1. タスク管理者への警告の送信 | タスクに関連付けられている管理者にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 送信しません。
1: 送信します。 |
| 2. タスク監督者への警告の送信 | タスクに関連付けられている監督者にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 送信しません。
1: 送信します。 |
| 3. タスクの担当者への警告の送信 | タスクの「担当者」フィールドで指定されている住所録番号にプロジェクト警告を送信するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 送信しません。
1: 送信します。 |
| 4. メーリング・リスト、組織構造タイプ | 警告を送信するための配布リストを指定します。 |
| 5. マイナスの在庫数量のしきい値(絶対値) | マイナスの在庫数量のしきい値を指定します。しきい値を超えると、その状況を警告するメッセージが担当者に送信されます。 |

プロジェクトの完了

この項では、プロジェクトの完了処理の概要と次の方法について説明します。

- プロジェクト締切りアナライザ・プログラムの実行
- プロジェクト締切りアナライザ(R31P403)の処理オプションの設定

プロジェクトの完了処理について

プロジェクトがスケジュール上の完了日付に達したら、プロジェクト情報をチェックして、まだ遂行されていないアクティビティを確認します。すべての製造/購買アクティビティが完了しているかまたは取り消されていること、また顧客に配達すべきすべての製品が出荷済であることを確認します。

JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムを使用している場合、作業原価レポートとバッチ・プログラムを使用して財務レポートを作成し、分析/収益を確認できます。

正式にプログラムを完了するには、「プロジェクト・ワークベンチ」フォームの「フォーム」メニューから「プロジェクトの終了」オプションを使用します。「プロジェクトの終了」オプションを選択すると、自動的にプロジェクト締切リアナライザ・プログラム (R31P403) が起動し、プロジェクトを完了するのに必要な情報がすべて揃っているかが確認されます。プロジェクトを完了したら、プロジェクト状況が完了に変わります。プロジェクトの追加/改訂プログラム (P31P011) の「プロジェクト状況」タブでこの情報を確認できます。

プロジェクト締切リアナライザ・プログラムの実行

「プロジェクト・レポート」(G31P14) の「プロジェクト締切リアナライザ」を選択します。

プロジェクト締切リアナライザ・プログラム (R31P403) を使用して、作業階層構造 (WBS) を分析し、プロジェクトを完了できるかどうかを判断します。「プロジェクト・ワークベンチ」フォームからプロジェクトを完了させる場合も、このプログラムが呼び出されます。このバッチ・プログラムは、一度に1つのプロジェクトに対してのみ実行できます。プログラムが終了したら、プロジェクトを終了できるかどうかを示す値が示されます。

プログラムはすべてのタスクを確認し、次の問題があるかどうか判断します。

- 製造作業オーダーが取消済/終了のいずれでもない。
- 部品リストに未処理の在庫引当がある。
- 購買オーダーが未決済である。

これらの問題がプロジェクトのタスクに存在する場合、その問題を解決しないとプロジェクトを完了できません。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 作業原価 9.0 製品ガイド、「利益の認識」

プロジェクト締切リアナライザ (R31P403) の処理オプションの設定

この処理オプションでは、プロジェクト締切リアナライザ・プログラムのデフォルト処理を制御します。

デフォルト

この処理オプションでは、プロジェクトが完了可能であるかどうかの判断に使用されるデフォルト値を制御します。

- | | |
|-----------------|---|
| 1. 受注オーダー行の終了状況 | 受注オーダー行が終了される状況を入力します。空白にすると、状況コード999が使用されます。 |
| 2. 購買オーダー行の終了状況 | 購買オーダー行が終了される状況を入力します。空白にすると、状況コード999が使用されます。 |

JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。 JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne 供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。 JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne 売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne 買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。 “ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

BPEL	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
BPEL PM	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
ビルド構成ファイル	ANTスクリプトを生成するプログラムで使用される、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
ビルド・エンジニア	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
ビルド・プログラム	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
ビジネス・アナリスト	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
ビジネス関数	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます(在庫照会、作業オーダー発注など)。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック(Credit Check)や在庫照会(Item Availability)などがあげられます。
ビジネス関数イベント・ルール	“ネームド・イベント・ルール(NER)”の説明を参照してください。
ビジネス・サービス	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
ビジネス・サービス・アーティファクト	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
ビジネス・サービス・クラス・メソッド	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
ビジネス・サービス構成ファイル	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertiesなど(他にもある)の構成ファイルです。
ビジネス・サービス相互参照	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
ビジネス・サービス開発環境	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
ビジネス・サービス開発ツール	JDeveloperという名前でも知られています。
ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

ビジネス・サービス・フレームワーク	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
ビジネス・サービス・ペイロード	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
ビジネス・サービス・プロパティ	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
ビジネス・サービス・プロパティ・キー	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用されるユーティリティAPIです。
ビジネス・サービス・プロパティ値	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
ビジネス・サービス・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
ビジネス・サービス・サーバー	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の一つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート	Cビジネス関数で使用される、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
ビジネス・ビュー	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOneテーブル(複数可)から、特定の列を選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定の行を選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
セントラル・オブジェクトのマージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル・サーバー	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。

チャート	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
チェックイン・リポジトリ	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
コネクタ	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間でロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
相殺/相手勘定	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
コントロール・テーブル・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
コントロール・テーブルのマージ	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
関連データ	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
コスト割当	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
原価要素	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
資格証明	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
相互参照ユーティリティ・サービス	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
セグメント間編集	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
通貨再換算	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
cXML	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
データベース資格証明	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
データベース・サーバー	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

データ・ソース・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
期間パターン	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
指定通貨	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
デプロイメント・アーティファクト	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
デプロイメント・サーバー	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
明細情報	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
ダイレクト接続	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
DNT (Do Not Translate)	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
2重価格設定	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
重複した公開ビジネス・サービス承認レコード	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
編集コード	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
編集モード	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
編集ルール	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
電子データ交換 (EDI)	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
埋込みイベント・ルール	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
従業員ワーク・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
エンタープライズ・サーバー	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

ESB (Enterprise Service Bus)	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
EnterpriseOne管理者	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
EnterpriseOne資格証明	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
EnterpriseOneオブジェクト	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
EnterpriseOne開発クライアント	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
EnterpriseOne拡張機能	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
EnterpriseOneプロセス	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
EnterpriseOneリソース	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
環境ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
エスカレーション・モニター	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
イベント・ルール	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
明示的トランザクション	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
公開されたメソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
施設、事業所	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
略式コマンド	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
ファイル・サーバー	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけではなく、ネッ

	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
最終モード	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
基盤	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBjがあげられます(この他にもあります)。
FTPサーバー	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに回答するサーバーです。
見出し情報	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
HTTPアダプタ	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
インスタンス化	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
統合開発者	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
インテグレーション・ポイント(IP)	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
インテグレーション・サーバー	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
整合性テスト	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
インターフェイス・テーブル	“Zテーブル”の説明を参照してください。
内部メソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
インタオペラビリティ・モデル	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
エラー表示の有効化	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
IServerサービス	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
代替ラベル	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
Javaアプリケーション・サーバー	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
JDBNET	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

JDEBASEデータベース・ミドルウェア	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
JDECallObject	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
jde.ini	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
JDEIPC	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
jde.log	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
JDENET	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
JDeveloperプロジェクト	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
JDeveloperワークスペース	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
JMSキュー	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
リスナー・サービス	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
ローカル・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
ローカルのスタンドアロン BPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロン BPEL/ESBサーバーです。
ロケーション・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
ロジック・サーバー	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
差し込み印刷ワークベンチ	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
手動コミット・トランザクション	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
マスター・ビジネス関数(MBF)	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
マスター・テーブル	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
照合伝票	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
メディア・ストレージ・オブジェクト	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
メッセージ・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
メッセージング・アダプタ	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
メッセージング・サーバー	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
中間層BPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
監視アプリケーション	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
ネームド・イベント・ルール (NER)	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
Nota Fiscal	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
Nota Fiscal Factura	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
オブジェクト構成マネージャ (OCM)	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
オブジェクト・ライブラリアン	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
オブジェクト・ライブラリアンのマージ	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
オープン・データ・アクセス (ODA)	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

出力ストリーム・アクセス(OA)	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
パッケージ	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
パッケージ・ビルド	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。 “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
パッケージ・ロケーション	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下のサブディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
パッケージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
パスコード・ディレクトリ	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
パターン	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
プリント・サーバー	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
プリステイン環境	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
処理オプション	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィール

	ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。
本稼働用環境	ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。
本稼働レベルのファイル・サーバー	品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。
本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス	本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。
プログラム一時修正 (PTF)	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。
プロジェクト	JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。
プロモーション・パス	ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。 11>21>26>28>38>01 このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。
プロキシ・サーバー	企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。
公開ビジネス・サービス	EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。
公開ビジネス・サービス識別情報	関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。
公開ビジネス・サービスのWebサービス	J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。
パブリッシュ済テーブル	マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。
パブリッシュ	パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。
プル・レプリケーション	JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先のマシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクリイバとしてセットアップされます。プル・サブスクリイバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクリイバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。

QBE	Query by Example (例示照会)の略語です。JD Edwards EnterpriseOneでは、QBE行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
リアルタイム・イベント	外部システムで使用するためにEnterpriseOneのアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
リフレッシュ	新規リリースやPTF/累積アップデート・リリース(B73.2やB73.2.1など)に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアまたはそのサブセット(テーブルや業務データなど)を修正する機能です。
レプリケーション・サーバー	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
Rt-Addressing	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
規則	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
見積オーダー	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。 JD Edwards EnterpriseOne受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
Secure by Default	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
SSL (Secure Socket Layer)	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSLを使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
SEI実装	サービス・エンドポイント・インターフェイス(SEI)を宣言するメソッドを実装するJavaクラスです。
選択項目	JD Edwards EnterpriseOneメニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して[Enter]キーを押します。
シリアライズ	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
サーバーワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
サービス・エンドポイント・インターフェイス(SEI)	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言するJavaインターフェイスです。
SOA	Service Oriented Architectureの略語です。
ソフトコーディング	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
ソース・リポジトリ	HTTPアダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
スポット・レート	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

スペックのマージ	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
スペック	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
SSL証明書	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
オフライン処理	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
サブスクリバ・テーブル	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシュ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリバ・マシンの識別に使用されます。
スーパークラス	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樅や榎のスーパークラスであるといえます。
補足データ	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
テーブル・アクセス管理(TAM)	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
テーブル変換ディレクタ	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル変換	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル・イベント・ルール	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
ターミナル・サーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
3ステップ処理	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

3方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
トランザクション処理(TP)モニター	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
トランザクション処理方法	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です(開始、コミット、ロールバック、取消など)。
トランザクション・セット	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション(電子データ交換の標準ドキュメント)です。
トリガー	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
トリガーイベント	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
2方向認証	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
2方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
ユーザー識別情報	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
ユーザー一時変更のマージ	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
値オブジェクト	データ構造がデータを渡すのとよく似たように入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開(公開ビジネス・サービスで使用)か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
差異	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。 JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
公開ビジネス・サービスのバージョン	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
バージョン・リストのマージ	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
ビジュアル・アシスト	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
用語一時変更	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
wchar_t	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。

Webアプリケーション・サーバー	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
Webサーバー	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
WSDL (Web Service Description Language)	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
WSIL (Web Service Inspection Language)	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
Webサービス・プロキシ基盤	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
Webサービス・ソフトコーディング・レコード	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
WHERE句	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部分です。
Windowsターミナル・サーバー	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
ウィザード	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
ワークベンチ	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエンリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
作業日カレンダー	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成品と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
ワークフロー	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス(ワークフロー)では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
ワークグループ・サーバー	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
XAPIイベント	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
XML CallObject	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
XMLディスパッチ	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
XMLリスト	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
XMLサービス	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
XMLトランザクション	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
XMLトランザクション・サービス (XTS)	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
Zイベント	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
Zテーブル	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
Zトランザクション	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

索引

- Customer Connection Webサイト xii
DRP (流通所要量計画) (34/DR) 13
F0902テーブル 73, 79
F0911テーブル 79, 84
F3102テーブル 84, 86
F3111テーブル 86
F3115テーブル 82
F31P01テーブル 8, 77
F31P10テーブル 8
F31P11テーブル 8, 57
F31P12テーブル 8
F31P21テーブル 8
F31PUI01テーブル 9
F31PUI02テーブル 9
F3412テーブル 70
F3413テーブル 70
F4080テーブル 9, 73
F410211テーブル 9, 69, 78, 82
F41021テーブル 78, 82, 88
F4211テーブル 73
F4311テーブル 73, 74
F43121テーブル 74
F43199テーブル 73, 79, 86
F4801T1テーブル 9
F4801Tテーブル 38, 79, 84
F4801テーブル 26, 37, 85
F5108テーブル 18, 26
Microsoft Project
 受注設計生産のインポート処理 20
 受注設計生産のエクスポート処理 20
Microsoft Projectとの統合 20
MPS/MRP/DRP集計テーブル
 (F3413) 70
MPS/MRP/DRP需要テーブル
 (F3412) 70
MPS (基準生産日程計画) (34/MS) 14
MPSタイム・フェーズ・プログラム
 (P3413) 70
MRP/MPS詳細メッセージの改訂プログラム (P3411) 70
MRP/MPS所要量計画プログラム
 (R3482) 65
MRP (資材所要量計画) (34/MR) 14
MRP (資材所要量計画)管理
 (34/MM) 14
MS Projectからのインポート・プログラム (R31P801)
 処理オプション 20
 用途 22
MS Projectからのエクスポート・プログラム (R31P404)
 処理オプション 20
 用途 21
P0150プログラム 59
P31114プログラム 22, 82
P3111プログラム 44, 75
P311221プログラム 38
P3112プログラム 44
P31P001プログラム
 処理オプション 27
 用途 75
P31P011プログラム 26, 37
P31P100プログラム
 処理オプション 59
 用途 26, 57
P31P101プログラム 57, 58
P31P201プログラム 72
P31P204プログラム
 処理オプション 76
 用途 73
P31P301テーブル 84
P31P301プログラム
 処理オプション 15
 用途 15
P3210プログラム 38
P3401プログラム 70
P3411プログラム 70
P3413プログラム 70
P40040プログラム 11
P4021プログラム 70
P410211Wプログラム 82
P410211プログラム 78
P41202プログラム 78
P4310プログラム 72, 75
P4312プログラム 78
P48331プログラム 39
P51006プログラム 18
P51091プログラム 18
PeopleCodeの表記規則 xiv
PRP, 参照: プロジェクト所要量計画

R00932プログラム 79
 R09801プログラム 79
 R30601プログラム 69
 R31410プログラム 38, 44
 R31430プログラム 82
 R3190プログラム 82
 R31P301プログラム 81, 84
 R31P400レポート
 処理オプション 85
 用途 85
 R31P401レポート
 処理オプション 87
 用途 86
 R31P402レポート
 処理オプション 88
 用途 88
 R31P403プログラム
 処理オプション 89
 用途 89
 R31P404プログラム
 処理オプション 20
 用途 21
 R31P405プログラム 77
 R31P800プログラム
 処理オプション 66
 用途 66
 R31P801プログラム
 処理オプション 20
 用途 22
 R31P993プログラム
 処理オプション 80
 用途 79, 80
 R3482プログラム 65
 R3483プログラム 71, 72
 R40910レポート 79
 R4317プログラム 79
 UDC, 参照: ユーザー定義コード

あ

アプリケーションの基礎 xi

い

インポート処理 20

え

エクスポート処理 20

お

オンライン提案 58

オンライン提案プログラム(P31P101) 57, 58
 オンライン見積 58
 オーダー原価
 関連の更新 77
 オーダー処理プログラム(R31410) 38, 44
 オーダー・タイプ(48/OT) 13
 「オーダー見出しの処理」フォーム 75
 「オーダー明細」フォーム 75

か

会計コミットメント
 監査証跡の作成 80
 行タイプ固定情報の定義 12
 行タイプの定義 12
 在庫インターフェイスの定義 12
 作成 78
 監査証跡
 コミットメントの作成 80
 「勘定科目コードの改訂」フォーム 15, 16
 「勘定科目コードの処理」フォーム 15
 勘定科目表
 概要 18
 プロジェクトへの追加 19
 勘定科目分類
 概要 14
 設定 16
 勘定残高テーブル(F0902) 73, 79
 関連オーダー原価
 更新 77
 関連オーダー相互参照テーブル
 (F4080) 9, 73
 「関連オーダーの処理」フォーム 75
 関連オーダー費用の更新プログラム
 (R31P405) 74, 77
 関連オーダー・プログラム(P31P204)
 処理オプション 76
 用途 73
 関連原価
 更新 74
 関連ドキュメンテーション xii

き

基準計画スケジュール - 複数事業所プログラム(R3483) 71, 72
 共通フィールド xvi

け

計画およびスケジュールリング 51
 計画原価
 割当 45
 警告 xv
 原価
 計画の割当 45
 見積の割当 45
 「原価コードのコピー」フォーム 19
 「原価タイプの改訂」フォーム 15
 「原価タイプの処理」フォーム 15
 原価分類
 概要 14
 設定 15
 原価分類(31P/CC) 13
 原価分類テーブル(F31P21) 8
 原価分類プログラム(P31P301)
 処理オプション 15
 用途 15

こ

ご意見 xvi
 工場保守管理(34/PM) 14
 構造の改訂プログラム(P0150) 59
 購買オーダー
 プロジェクトの資材の入力 75
 プロジェクト・ワークベンチ・プログラム
 を使用した情報の入力 75
 購買オーダー・プログラム(P4310) 72,
 75
 購買オーダー明細実績テーブル
 (F43199) 73, 79, 86
 購買オーダー明細テーブル(F4311) 73,
 74
 コミット済原価の作業への転記プログラ
 ム(R00932) 79
 コミットメント
 会計上の作成 78
 監査証跡の作成 80
 在庫用の作成 78
 プロジェクト作業オーダーの在庫の検
 討 80
 プロジェクト用の作成 78
 コミットメント再作成プログラム(R31P993)
 処理オプション 80
 用途 79, 80
 コミットメント整合性レポート(R40910) 79
 コミットメント伝票タイプ(40/CT) 13
 ご要望 xvi

コンフィギュレーション品目の改訂プロ
 グラム(P3210) 38

さ

在庫インターフェイス(H40/IV) 13
 在庫集計照会プログラム(P41202) 78
 在庫タイプ・コード(41/I) 13
 在庫引当
 作成 78
 プロジェクト作業オーダーの検討 80
 再販するプロジェクト品目
 購買 73
 債務繰越プログラム(R4317) 79
 作業オーダー
 プロジェクトの完了 82
 プロジェクトの在庫引当の検討 80
 プロジェクトへの既存の添付 74, 77
 プロジェクト用の出庫 82
 作業オーダーETOタグ・ファイル・テー
 ブル(F4801T1) 9
 作業オーダー完了プログラム
 (P31114) 22, 82
 作業オーダー作業工程指示プログラム
 (P3112) 44
 作業オーダー時間入力プログラム
 (P311221) 38
 作業オーダー部品リスト・テーブル
 (F3111) 86
 「作業オーダー部品リストの処理」フォー
 ム 75
 作業オーダー部品リスト・プログラム
 (P3111) 44, 75
 作業オーダー部品リスト・プログラム
 (P31P201) 72
 作業オーダー・マスター(F4801) 26, 37
 作業オーダー・マスター・タグ・テーブル
 (F4801T) 38, 79, 84
 作業原価コード構造プログラム
 (P51091) 18
 作業原価の統合
 概要 17
 作業原価マスターの改訂プログラム
 (P51006) 18
 作業原価予算
 アップロード 68
 作業原価予算のアップロード・プログラ
 ム(R31P800)
 処理オプション 66
 用途 66
 作業原価予算へのプロジェクト予算

ロード 66

し

システム機能

概要 7

プロジェクトの警告 8

プロジェクトの原価計算と予算作成 7

プロジェクトの資材調達計画 8

プロジェクトのスケジュールとレポート 8

プロジェクトの提案 8

プロジェクトの見積 7

実際原価

プロジェクト・ワークベンチへの積上げ 84

実際原価積上げ 84

実際原価のワークベンチへの積上げプログラム(R31P301) 81, 84

従属タイプ 48

受注オーダー明細テーブル(F4211) 73

受注設計生産

システム機能 7

システムの設定 11

設定 11

タスク・タイプ 11

テーブル 8

プロジェクト会計 83

プロジェクトの完了 89

プロジェクトの警告 85

プロジェクトの実行および統制 81

プロジェクト・プランニング 65

プロジェクト・レポート 85

受注設計生産プロジェクトの各フェーズ 5

出力

プロジェクト所要量計画 69

需要/供給照会プログラム(P4021) 70

「需要/供給の処理」フォーム 71, 72

需要と供給

複数事業所プロジェクト所要量計画の検討 72

「詳細メッセージの改訂」フォーム 71, 72

「詳細メッセージの処理」フォーム 71

正味変更 82

正味変更処理プログラム(R31430) 82

正味変更取引テーブル(F3115) 82

仕訳の転記プログラム(R09801) 79

す

数量タイプ(34/QT) 14

数量タイプUDC(34/QT) 72

スケジュール・エラー・レポート・テーブル(F31PUI01) 9

「すべてのタスクの表示」フォーム 39

「すべてのタスクの編集/ロック」フォーム 40, 41, 55

せ

製造原価テーブル(F3102) 84, 86

製品ガイド

注文 xii

設定の概要 11

前提知識 xi

そ

相互参照 xv

た

タスク

スケジュールリング 56

タスク従属関係テーブル(F31P12) 8

タスク従属タイプ(31P/DT) 13

タスク・タイプ 11, 50

「タスク追加情報」フォーム 40

タスクの従属関係

定義 48, 55

「タスクの編集」フォーム 39, 41, 55, 75, 76, 77

タスク割当 39

ち

注意 xv

注意事項 xv

つ

追加作業マスター(F5108) 18, 26

追加ドキュメンテーション xii

て

テキスト代替コード(42/02) 14

テキスト代替の基準テーブル(42/01) 14

電子メールボックス(02/MB) 13

伝票タイプの管理プログラム(P40040) 11

と

統合

- キャピタル・アセット・マネジメント 2
 - 契約請求管理 3
 - 在庫管理 1
 - 作業原価 2
 - サービス請求管理 3
 - 受注管理 3
 - 所要量計画 2
 - 製造現場管理 2
 - 製造データ管理 1
 - 調達管理 3
 - 品質管理 2
 - プロジェクト原価管理 2
 - 導入手順
 - アプリケーション別 4
 - 概要 3
 - グローバル 3
 - ドキュメンテーション
 - 関連 xii
 - 最新版 xii
 - ダウンロード xii
 - ドキュメンテーションのダウンロード xii
 - 取引明細テーブル(F0911) 79, 84
- に
- 入荷確認テーブル(F43121) 74
 - 入荷確認プログラム(P4312) 78
- ひ
- 表記規則 xiv
 - 品目保管場所テーブル(F41021) 78, 82, 88
- ふ
- 複数事業所
 - プロジェクト所要量計画 71
 - 複数事業所のプロジェクト所要量計画 71
 - 複数事業所プロジェクト所要量計画生成 71
 - メッセージの処理 72
 - 複数事業所プロジェクト所要量計画の需要/供給
 - 検討 72
 - 部品表の構造分析プログラム(R30601) 69
 - プロジェクト
 - オーダーの作成 72
 - 概要 36
 - 関連オーダーの検討 76
 - 関連オーダーの作成 76
 - 既存の作業オーダーの添付 74, 77
 - 作成 31
 - 終了 89
 - 処理 41
 - スケジューリング 56
 - ロック解除 40
 - プロジェクト・オーダー作成 72
 - プロジェクト会計 83
 - プロジェクト会計(31P/AI) 13
 - プロジェクト・クエリー処理 40
 - プロジェクト原価 38
 - プロジェクト原価レポート
 - 実行 86
 - プロジェクト原価レポート(R31P401)
 - 処理オプション 87
 - 用途 86
 - プロジェクト・コミットメント明細ウィンドウ・プログラム(P410211W) 82
 - 「プロジェクト・コミットメント明細の処理」フォーム 79, 80
 - プロジェクト固有の資材
 - 定義 12
 - プロジェクト在庫レポート(R31P402)
 - 処理オプション 88
 - 用途 88
 - プロジェクト作業オーダー
 - 完了 82
 - 出庫 82
 - プロジェクト作業オーダーの出庫および完了 82
 - プロジェクト締切りアナライザ・プログラム(R31P403)
 - 処理オプション 89
 - 用途 89
 - 「プロジェクト照会」フォーム 27
 - プロジェクト状況コード 57
 - プロジェクト情報の保存
 - 技術上の考慮事項 27
 - プロジェクト情報の保存に関する技術上の考慮事項 27
 - プロジェクト所要量計画
 - 概要 68
 - 生成 69
 - 設定の考慮事項 68
 - プロジェクト所要量計画の出力 69
 - プロジェクト所要量計画の生成 69
 - プロジェクト・スケジュール・レポート

- 実行 85
 - プロジェクト・スケジュール・レポート (R31P400)
 - 処理オプション 85
 - 用途 85
 - プロジェクト請求方法(31P/AI) 13
 - プロジェクト属性テーブル(F31P01) 8, 77
 - プロジェクト・タスク
 - 改訂 42
 - 概要 37
 - スケジューリング 48
 - 追加 42
 - プロジェクト・タスクのスケジューリング 48
 - プロジェクトの完了 6
 - プロジェクトの完了処理 89
 - プロジェクトの関連オーダー
 - 検討 76
 - 作成 76
 - プロジェクトの警告 85
 - 「プロジェクトの検索」フォーム 27, 39
 - プロジェクトのコミットメント
 - 概要 78
 - 作成 78
 - プロジェクトのコミットメント明細照会プログラム(P410211) 78
 - プロジェクトの資材
 - 購買 73
 - 購買オーダーの入力 75
 - プロジェクトの資材の購買オーダー入力 75
 - プロジェクトの実行および統制 6, 81
 - 「プロジェクトの処理」フォーム 19
 - プロジェクトの立上げ 5, 25
 - 「プロジェクトの追加/改訂」フォーム 19, 27, 31
 - プロジェクトの追加/改訂プログラム(P31P011) 26, 37
 - プロジェクトのフェーズ 5
 - プロジェクトの見積
 - 作成 60
 - プロジェクトのライフサイクルの図 6, 7
 - プロジェクト引当明細テーブル(F410211) 9, 69, 78, 82
 - プロジェクト・プランニング 6, 65
 - プロジェクトへの既存の作業オーダーの添付 74
 - プロジェクト見出し情報
 - 作成 26
 - プロジェクト見積状況(31P/QP) 13
 - 「プロジェクト見積の改訂」フォーム 59, 60
 - 「プロジェクト見積の処理」フォーム 59
 - プロジェクト見積非アクティブ理由コード(31P/RC) 13
 - プロジェクト見積プログラム(P31P100)
 - 処理オプション 59
 - 用途 26, 57
 - プロジェクト見積見出しテーブル(F31P10) 8
 - プロジェクト見積明細テーブル(F31P11) 8, 57
 - プロジェクト・レポート 85
 - プロジェクト原価レポート(R31P401) 86
 - プロジェクト在庫レポート(R31P402) 88
 - プロジェクト・スケジュール・レポート(R31P400) 85
 - プロジェクト・ワークベンチ
 - 実際原価の積上げ 84
 - プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)
 - 処理オプション 27
 - 用途 75, 77
- み**
- 未処理作業オーダーの再転記プログラム(R3190) 82
 - 未調整DRP(34/DU) 13
 - 見積
 - プロジェクトの見積の作成 60
 - 見積および提案の生成処理 57
 - 見積原価
 - 割当 45
 - 「見積りの追加」フォーム 59
- め**
- メッセージ
 - 複数事業所プロジェクト所要量計画の処理 72
 - メッセージ集計プログラム(P3401) 70
- ゆ**
- ユーザー定義コード 13
- よ**
- 予算

作業原価予算のアップロード 68
ロード 66

リ

リソースの割当プログラム(P48331) 39
リソース割当 39
リソース割当レベル(48/RL) 14

れ

連絡先情報 xvi

ろ

ロックされたレコードのリスト・テーブル
(F31PUI02) 9

わ

割当
タスク 39
リソース 39

